

平成19年度  
自然学校、トライやる・ウィーク等  
兵庫型体験学習の効果、評価の分析  
調査研究報告書

---

少子・家庭政策研究所

## まえがき

この報告書は、平成 19 年度において少子・家庭政策研究所が実施しました「自然学校、トライやる・ウィーク等兵庫型体験学習の効果、評価の分析」に関する調査研究の成果を取りまとめたものであります。

兵庫県では、早くより子どもたちが学校生活では得られない自然や地域の大人たちと触れ合うことを重視して、1988 年より兵庫型体験学習である 5 泊 6 日の「自然学校」を導入してきています。また阪神・淡路大震災の 2 年後に起きた須磨区連続児童殺傷事件を機に 1998 年から中学 2 年生を対象にして 1 週間(5 日間)、学校から離れて先生や親たちとは異なる、地域社会における大人たちと触れ合うことによって、実社会のさまざまな現実を体験する活動としての「トライやる・ウィーク」を導入してきています。

平成 19 年は「自然学校」事業がちょうど 20 年目に、そして「トライやる・ウィーク」事業がちょうど 10 年目に当たるということで、それぞれの効果ならびに評価について分析することにいたしました。こうした事業は、最近では、兵庫県に倣って多くの県が開始するようになってきています。これまでの兵庫県における兵庫型体験学習の効果や評価の分析を行なうことによって、こうした事業の成果についての正確な情報が全国に発信できるとすれば、それは極めて有益なことであると信じて、この調査研究を実施しました。

アンケート調査やインタビュー調査をはじめ、さまざまな資料を活用して総合的な分析を行なっております。たとえば、「トライやる」の体験者である現在の大学生たちに対して実施したアンケート調査のデータでは、すでに長期間が経過しているにもかかわらず、24 項目中 16 項目において 5 割以上が肯定的に回答しています。そのうち「受入先での活動には満足した」「人付き合いの大切さが分かった」「将来、自分の子どもたちにも体験して欲しい」「楽しい体験だった」「貴重な体験だった」「学校では学べないことが経験できた」など 7 項目が 8 割以上の肯定率を示していました。

また「トライやる」事業において、活動場所における体験満足度という点では、とくに「スーパー・コンビニ」での体験においてのみマイナス効果となっていましたが、「幼稚園・保育所」での体験などではプラスの効果となってきています。このことは何を意味しているのでしょうか。詳しくは、ぜひ本文をご一読していただきたいと思っております。

最後になりましたが、今回のこの調査には多くの方がたのご協力とご配慮をいただくことができました。とくに面接調査およびアンケート調査にご回答いただいた皆様には、この場をかりて、厚く御礼を申し上げます。今回、このような調査研究が成功裡に実施できましたのは、皆様のご協力の賜物と感謝いたしております。

平成 20 年 3 月

少子・家庭政策研究所所長  
野々山久也

# 研究体制

|       |         |   |
|-------|---------|---|
| 研究責任者 | 野々山 久 也 | 少子・家庭政策研究所所長<br>甲南大学文学部教授               |
| 研究者   | 大 瀧 友 織 | 少子・家庭政策研究所研究員<br>関西大学・京都光華女子大学<br>非常勤講師 |

## 目次

|                                       |    |
|---------------------------------------|----|
| まえがき                                  |    |
| はじめに .....                            | 1  |
| 第1章 調査研究の対象と目的 .....                  | 2  |
| 第1節 兵庫型体験学習 .....                     | 2  |
| 1. 「自然学校」 .....                       | 2  |
| 2. 「地域に学ぶ『トライやる・ウィーク』」 .....          | 2  |
| 3. 兵庫型体験学習の目的 .....                   | 3  |
| 第2節 調査研究の目的 .....                     | 3  |
| 1. 体験学習の影響とその背景の検討 .....              | 3  |
| 2. 既存調査による評価の検証 .....                 | 5  |
| 第2章 調査研究の概要 .....                     | 7  |
| 第1節 聞き取り調査について .....                  | 7  |
| 第2節 質問紙調査について .....                   | 9  |
| 第3節 本報告書でもちいるその他のデータ .....            | 11 |
| 1. 新聞記事 .....                         | 11 |
| 2. 感想文 .....                          | 12 |
| 3. 参与観察他 .....                        | 12 |
| 第3章 体験学習の有無とその影響 .....                | 13 |
| 第1節 「自然学校」——「トライやる・ウィーク」以前の体験学習 ..... | 13 |
| 1. 「自然学校」の受け止められ方 .....               | 13 |
| 2. 背景としての「はじめての体験」 .....              | 15 |
| 第2節 自己認知と「トライやる・ウィーク」 .....           | 16 |
| 1. 自己認知の諸側面 .....                     | 16 |
| 2. 体験学習と自己認知 .....                    | 19 |
| 3. 自己認知に違いが生じる背景 .....                | 23 |
| 第3節 就業意識と「トライやる・ウィーク」 .....           | 23 |
| 1. 若年就業対策としての効果と評価 .....              | 23 |
| (1) 希望する職業の有無 .....                   | 23 |
| (2) 気軽な体験学習として .....                  | 26 |
| 2. 働くことのイメージと視野の広がり .....             | 28 |
| (1) 緩やかに広がりを持つ影響 .....                | 28 |
| (2) 体験学習の問題点 .....                    | 31 |
| 第4章 「トライやる・ウィーク」の受け止められ方 .....        | 34 |
| 第1節 感想文・新聞記事にみる「トライやる」 .....          | 34 |
| 1. 感想文と新聞記事の違い .....                  | 34 |
| 2. 性別による違い .....                      | 38 |

|     |                        |     |
|-----|------------------------|-----|
| 第2節 | 大学時代に振り返る「トライやる・ウィーク」  | 40  |
| 1.  | 質問紙調査における「トライやる」体験者の概要 | 40  |
| 2.  | 「トライやる」とその影響           | 41  |
| (1) | 「貴重」で「楽しい」体験           | 41  |
| (2) | 父母・教員とのコミュニケーションへの影響   | 43  |
| 第3節 | 受け止められ方の潜在因子とその規定要因    | 44  |
| 1.  | 受け止められ方の潜在因子           | 44  |
| 2.  | 規定要因としての体験先            | 47  |
| (1) | 性別と受け止め方、体験先の相関関係      | 47  |
| (2) | 規定要因の検討                | 51  |
| 第5章 | 「トライやる・ウィーク」の背景とその影響   | 56  |
| 第1節 | 背景としての体験現場             | 56  |
| 1.  | 指導ボランティアのスタンス          | 56  |
| (1) | 陶芸教室・Qさんの場合            | 56  |
| (2) | 農業協同組合・Rさんの場合          | 57  |
| (3) | 保育所・Sさんの場合             | 59  |
| (4) | 女性センター・Tさんの場合          | 60  |
| (5) | コンビニエンスストア・酒屋・Uさんの場合   | 62  |
| 2.  | 中学校教員と指導ボランティア         | 64  |
| (1) | 中学生にとっての教員             | 64  |
| (2) | 体験者にとっての指導ボランティア       | 65  |
| 第2節 | 境界を越える体験               | 66  |
| 1.  | 評価・指導のあり方とその影響         | 66  |
| (1) | 評価対象としての感想文            | 66  |
| (2) | 過剰な教育的配慮               | 67  |
| (3) | 「遊び」の余地とその影響           | 68  |
| 2.  | 「やりたいことをやる」ということ       | 70  |
| 3.  | 学校の「ソト」へ               | 72  |
| 第6章 | 体験学習の今後に向けて            | 73  |
| 第1節 | 体験学習の評価に対する提言          | 73  |
| 第2節 | 「自然学校」への提言             | 74  |
| 第3節 | 「トライやる・ウィーク」への提言       | 75  |
| ◆   | 参考・引用文献                | 81  |
|     | 資料編                    | 83  |
| ◆   | 単純集計結果                 | 84  |
| ◆   | 調査票                    | 100 |

## はじめに

兵庫県で実施されている中学生の体験学習「地域に学ぶ『トライやる・ウィーク』」（以下、「トライやる」と示す）が注目を集めている。

「トライやる」とは、兵庫県下の全公立中学 2 年生が、1 週間（5 日間）学校を離れ、地域社会で活動する体験学習である。具体的には、地域の企業等で働く「職場体験活動」や、農業・林業等に従事する「勤労生産活動」、音楽・絵画教室等で学ぶ「文化・芸術創作活動」、清掃活動やデイ・サービス等に携わる「ボランティア・福祉体験活動」などが含まれている。

全国に先駆けて、1998 年から実施されており<sup>1</sup>、2006 年度実績では、370 校で実施され、約 4 万 8 千人の中学 2 年生が参加した（兵庫県教育委員会 2007）。その後、「トライやる」は兵庫県で継続して実施されるとともに、他府県からは参考事例とされ、翌 99 年には富山県が「社会に学ぶ『14 歳の挑戦』」（以下、「14 歳の挑戦」と示す）と名付けて同様事業を開始した。また、文部科学省が推進するキャリア教育実践プロジェクトの推進連絡会議においても、兵庫県のケースが事例として紹介されている<sup>2</sup>。

本調査研究の中心的な対象は、この「トライやる」という事業である。また、小学 5 年生を対象とした「自然学校」も、兵庫型体験学習として挙げられているため、合わせて若干の検討をおこなう。「自然学校」は、自然や人、地域社会とふれあいながら「学校生活では得られない体験を通して学習することを目指」すものとされている（田淵 1994: 56）。兵庫県では、1988 年より自然学校が導入されており、1991 年には兵庫県下の全公立小学校 5 年生を対象とするようになった。

第 1 章では、まず調査研究の対象となる「トライやる」および「自然学校」の概要を示した上で、本調査研究の目的を述べる。第 2 章では実施した調査および本報告書でもちいるデータについて説明する。第 3 章では、体験学習の経験がどのような影響を与え、またどういった影響を与えていないのかについて検討する。第 4 章では、かつての体験者たちが「トライやる」をどのように受け止めているのか、およびその受け止め方を規定する要因について論じる。第 5 章では「トライやる」の背景とその影響について検討し、第 6 章では全体を総括した上で体験学習の今後に向けての提言をおこなう。

---

<sup>1</sup> 「トライやる・ウィーク」の名称は、「試み」という意味の「トライアル」と「する」という意味の関西弁「やる」とを合成した上で、体験期間の一週間とを結びつけて命名された。多くの場合、学校・家庭・地域の三者が連携するということで「トライアングル」という意味も込められているとされている。しかし命名者である大林英夫は「いろんな所へ説明してまわる中で、三者の連携ということをねらっているなら『トライアングル』でもええやないか、という意見がでて、それも面白いねということで、だんだん説明に付け加えられるようになった」と述べている（大林・高橋 2000）。

<sup>2</sup> 詳細については、「キャリア・スタート・ウィーク推進連絡会議（第1回）配付資料」

（[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/032/shiryo/06011001.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/032/shiryo/06011001.htm)）（2007 年 3 月 1 日閲覧）を参照されたい。

## 第1章 調査研究の対象と目的

### 第1節 兵庫型体験学習

#### 1. 「自然学校」

自然学校とは、小学5年生を対象とする体験学習で、施設に宿泊し周辺の自然について学習したり、地域とかかわりのある活動をおこなったりするものである。兵庫県では次に述べる「トライやる」と並ぶ体験学習として位置づけられている。

「兵庫型」として他の同様事業と区別される最大の特徴は、その期間の長さである。そもそも学校教育では、小中学校において1週間程度の期間を自然のなかで過ごす「自然教室推進事業」が、1984年より導入されている。しかし、他地域の多くの学校では3泊4日の日程で実施されているなか、兵庫県では全国で唯一、5泊6日の自然学校がおこなわれている。

具体的な活動例としては、自然観察や登山・ハイキング、ナイトハイク、川遊び、野外炊事、テント泊、キャンプファイヤー、魚釣りなどがあり、兵庫県教育委員会によると、次のような趣旨が掲げられている。

学習の場を教室から豊かな自然の中へ移し、児童が人や自然、地域社会とふれ合い、理解を深めるなど、さまざまな体験活動を通して、自分で考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する力や、生命に対する畏敬の念、感動する心、共に生きる心を育むなど、「生きる力」を育成することを目的とする(兵庫県教育委員会 2006)。

#### 2. 「地域に学ぶ『トライやる・ウィーク』」

「トライやる」は、「生徒の興味・関心に基づく1週間の体験活動を支援」するものとされている(兵庫県教育委員会 1999: 8)。また、具体的には次のような体験学習として位置づけられている。

中学生が職場体験、福祉体験、勤労生産活動など、地域での様々な体験活動を通じて、働くことの意義、楽しさを実感したり、社会の一員としての自覚を高めるなど、生徒一人一人が自分の生き方を見つけられるよう支援する。

また、「トライやる・ウィーク」への取組を通じて学校・家庭・地域社会の連携を深め、社会全体で子どもたちの人間形成や社会的自立の支援を行うことで、子どもたちを中心とした地域コミュニティの構築へと発展することを期待するものである(杉本 2005: 1)。

「トライやる」が実施されるようになった直接的な契機は、1997年に神戸市須磨区で起こった連続児童殺傷事件である。事件を受けて設置された「心の教育緊急会議」は、「心の教育の充実に向けて」という提言をまとめた。提言では、全県下で共通した課題

認識のもと、新しい画期的な実践として、長期体験学習の導入が必要であることを示した（兵庫県教育委員会 1999）。また、『生徒の教育は学校で』といった学校に対しての過度に依存する意識への批判があったということも指摘されている（神原 1999）。

本報告書では、以上のような経緯で実施に至った「トライやる」の体験者を主な対象とする。

### 3. 兵庫型体験学習の目的

「トライやる」および「自然学校」の両事業は、その目的として「こころ豊かな人づくり」や「多様な価値観を受け入れる心を育てること」を挙げており、いずれの体験学習もいわゆる「心の教育」として位置づけられている。では、「心の教育」とは何を指しているのだろうか。兵庫県教育委員会および「トライやる・ウィーク」評価検証委員会によると、「心の教育」とは以下のようなものとされている。

時間的、空間的なゆとりを確保し、地域や自然のなかで、生徒の主体性を尊重した様々な活動を通して、豊かな感性や創造性などを自ら高めたり、自分なりの生き方を見つけだせるよう支援するなど、「教」より「育」を中心にすえた「心の教育」を推進する。このことにより、ともすれば知育に偏りがちな教育を是正するとともに地域に学び、共に生きる心や感謝の心を育み、自律性を高めるなど、「生きる力」を育成することが期待できる（兵庫県教育委員会 1999: 1）。

これからの『心の教育』には、従来のように結論を教え込むのではなく、活動や体験を通して、子どもたち一人一人が自分なりの生き方を見つけられるよう支援していく教育にシフトしていくことの重要性（「トライやる・ウィーク」評価検証委員会 2003: 1）

このように、兵庫県における「心の教育」<sup>3</sup>は、主体性を尊重して結論を教え込まず、体験を通して自分なりの生き方を見つけ出す支援をし、自律性の向上を目指すといったイメージで捉えられていることが分かる。また、「地域の子どもは地域で育てる」ということもねらいとして挙げられており（兵庫県教育委員会 1999: 8）、ある意味で教育を学校から解放するということが目指されていると言える。

## 第2節 調査研究の目的

### 1. 体験学習の影響とその背景の検討

すでに述べたように、「トライやる」の活動にはさまざまな種類がある。しかし事業の初年度から、全体の約7割が「職場体験活動」であった。また、その割合は年々高まってき

---

<sup>3</sup> 「心の教育」それ自体についての議論は、住友(1999)を参照されたい。

ており、現在では8割以上を占めるに至っている（「トライやる・ウィーク」評価検証委員会 2003; 兵庫県教育委員会 2007）。体験者たちからも「<職業体験活動以外のものがあることは>知らないです」「職業体験って言われました、私は」といった声が聞かれた。つまり、「トライやる」の中心的な活動はあくまでも「職場体験活動」であると言える。

「トライやる」に関する既存の調査研究では、キャリア教育、若年就業対策としての側面に注目しているものが多い（重松 2006: 玄田・岡田 2004）。実際に、古田・小林（1998）は、「トライやる」体験後に実施した質問紙調査によって「勤労観」が高まったということを指摘している。

また、キャリア教育実践プロジェクトを推進している文部科学省は、「トライやる」を参考事例としながら、中学生の職場体験学習を、将来の職業と直接的に関連するような、キャリア教育政策の1つとして位置づけている。このキャリア教育実践プロジェクトでは、事業の推進に際して生徒を評価するという点を非常に重視している（文部科学省 2005）。中学生たちは学校の教職員のほか、保護者、そして受け入れ先の指導ボランティアからも評価される<sup>4</sup>。また評価の対象は、職場体験の感想文や日誌、発表会、事後訪問、そして体験中の様子にまで至っている。図1は、その「評価・公表のポイント」が示されたものである。

ところが、評価の対象は指定されているが、具体的にどのような感想文や日誌、発表が良く、また悪いのか、活動期間の終了後に体験先を訪問することが良いのか、また回数が増えるほど良いのか、体験中の様子がどのようなであれば良いのかといった、評価の基準を定めることが非常に難しいものになると想像される。

このような状況において、体験者たちが「トライやる」と進路選択や就業との関連をどう考えているのか、職業選択などをのぞいた影響はどう捉えられているのか、また体験の背景にある周囲の評価的なまなざしなどをどのように受け止めているのかを検討することが必要である。本報告書では、質的調査および量的調査の双方をもちいて、進路や仕事以外の側面も含めて検討するとともに、その課題を抽出したい。

---

<sup>4</sup> 指導ボランティアとは、職場等において「トライやる・ウィーク」の中学生を受け入れて、指導するボランティアのことである。2006年度には約2万名で、平均的には2.3名の生徒に対して、1名の指導ボランティアがいることになる（兵庫県教育委員会 2007）。

## 【職場体験の評価・公表のポイント】

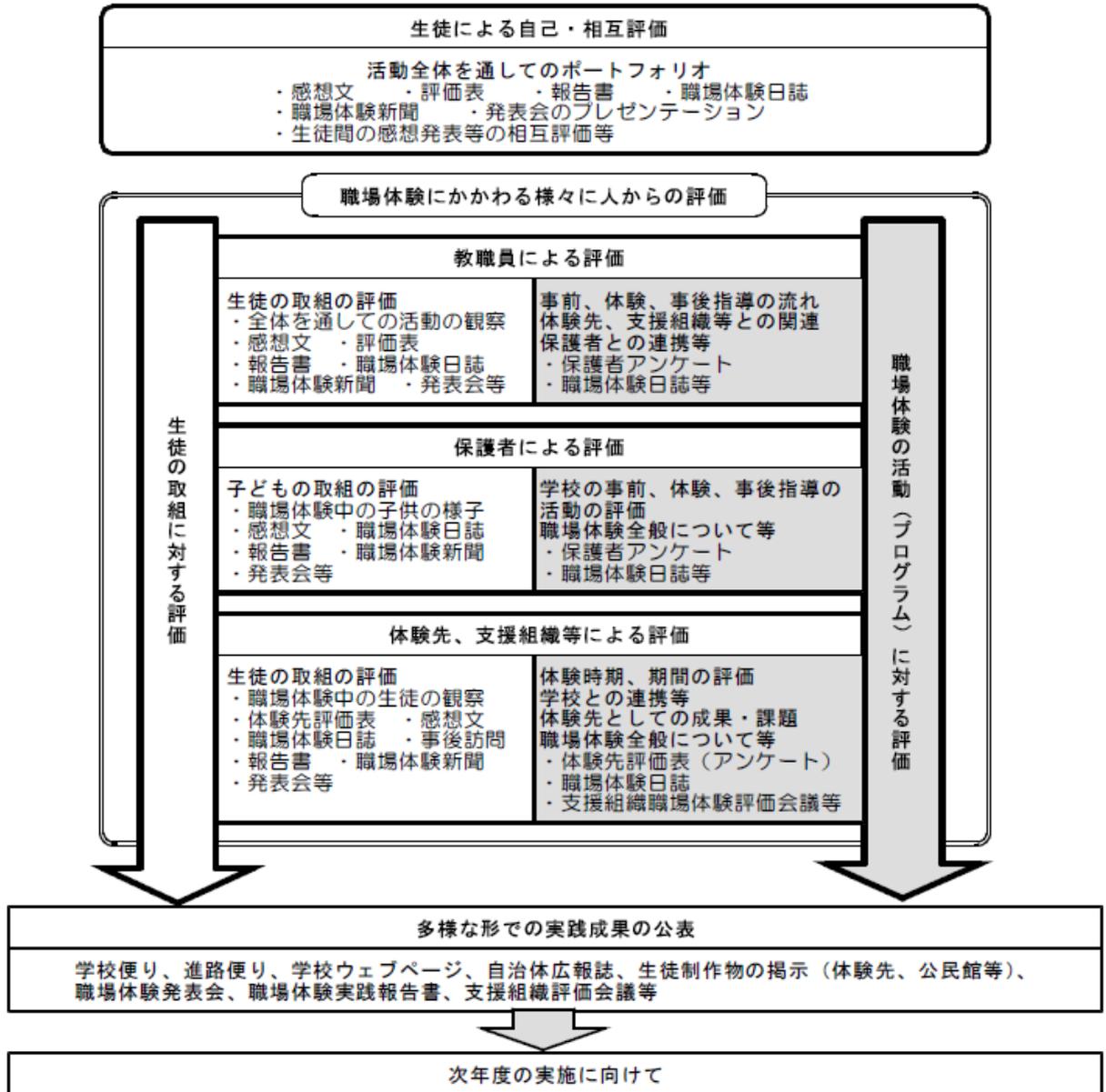


図 1：職場体験の評価・公表のポイント（文部科学省 2005: 24）

### 2. 既存調査による評価の検証

「トライやる」は、これまでに実施された調査において、総じて高い評価を得ている。たとえば、体験学習を終えた直後のアンケート調査結果で、体験者の約 55%が「大変充実していた」、35%前後が「充実していた」と答えている（「トライやる・ウィーク」評価検証委員会 2003）。

また、2006 年度の体験者たちは、『「トライやる・ウィーク」の活動で、自分の考え

方や行動に影響があったと思いますか」という質問に対して、17.3%が「大変影響があった」、47.5%が「影響があった」と答えている。そして、体験者の内の8割以上は機会があれば、またやってみたいと回答している（兵庫県教育委員会 2007）。

しかし、これまでの調査の多くは体験学習の直前・直後といった期間の短い二時点で実施されており、その後の変化等についての検討が十分であるとは言えない。教育という営みが非常に長いスパンでの影響、変化を生み出すものであることを考えると、長期的な視点をもった調査研究をおこなうとともに、既存調査による評価を検証していくことも重要な課題となる。

加えて、これまで「トライやる」体験後に、自己効力感や勤労観、社会志向性などが高まっているとする報告はなされている（古田・住本 1999, 2000）。しかし、どういった場合にそのような影響が強くなるのか、弱くなるのかといった、規定要因についての分析はほとんどおこなわれていない。

小林宏は男子に比べると女子において体験学習の影響が強く、たとえば「勤労観」や「社会的協調」が高まると報告している。ただし、この点については、「保育園や病院等、女子にとってより自己実現が図れる」という活動の種類・場所の違いによる可能性があると推測されている（小林 1999）。

それでは、本当に女子で影響が強く、またその背景には「保育所や病院は女子生徒にとって自己実現が図れる」ということがあるのかなど、改めて実証的に検討する必要がある。これらについて検討する際には、基本的な属性変数の他、体験した活動の種類など、体験にまつわる変数を含めて分析することが重要になるだろう。

## 第2章 調査研究の概要

本調査研究では、第1回の「トライやる」体験者および指導ボランティアに対するインタビュー調査と、兵庫県内の大学11校の学生に対するアンケート調査を実施した。各調査の概要は以下の通りである。

### 第1節 聞き取り調査について

【調査手法】面接調査法。原則として調査員が調査対象者一人と直接面接する形で実施している。ただし、対象者の希望により2組のみ調査対象者二人の聞き取りをおこなった。

【対象者】1998年度に実施された第1回の「トライやる」体験者10名(21～22歳)、また99年度から開始された同様事業である富山県「14歳の挑戦」体験者6名、「トライやる」の指導ボランティア5名の合計21名である。

【所要時間】1件のインタビューに要した時間はおおよそ60～90分である。

【調査期間】2006年10月下旬から2006年12月下旬

聞き取り調査における対象者の基礎データは以下の通りである。

表 1：聞き取り調査対象者

| インタビュー対象者                            |                    |    |
|--------------------------------------|--------------------|----|
| 兵庫・「地域に学ぶ『トライやる・ウィーク』」体験者            |                    |    |
| 対象者                                  | 体験場所               | 性別 |
| A氏                                   | 青少年女性センター          | 女性 |
| B氏                                   | 建設局、水環境センター、下水処理場  | 男性 |
| C氏                                   | 幼稚園                | 女性 |
| D氏                                   | 幼稚園                | 女性 |
| E氏                                   | 音響機器・通信機器を製造販売する企業 | 女性 |
| F氏                                   | 文化・芸術活動            | 女性 |
| G氏                                   | 保育所                | 女性 |
| H氏                                   | 病院                 | 女性 |
| I氏                                   | 美容院                | 女性 |
| J氏                                   | 漕艇センター、老人ホーム       | 女性 |
| 富山・「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」体験者                |                    |    |
| 対象者                                  | 体験場所               | 性別 |
| K氏                                   | 幼稚園                | 女性 |
| L氏                                   | 保育所                | 女性 |
| M氏                                   | 病院                 | 女性 |
| N氏                                   | 運輸会社               | 男性 |
| O氏                                   | ガソリンスタンド           | 男性 |
| P氏                                   | ショッピングセンター         | 男性 |
| 兵庫・「地域に学ぶ『トライやる・ウィーク』」指導ボランティア・受け入れ先 |                    |    |
| 対象者                                  | 体験場所・内容            | 性別 |
| Q氏                                   | 陶器制作               | 男性 |
| R氏                                   | 農業協同組合             | 女性 |
| S氏                                   | 保育所                | 男性 |
| T氏                                   | 女性センター             | 女性 |
| U氏                                   | コンビニ・酒屋            | 男性 |

## 第2節 質問紙調査について

【調査名】大学生の生活と体験学習についてのアンケート

【調査手法】質問紙による集合調査

【対象者】兵庫県下の大学に通う大学生の男女

【抽出方法】有意抽出法。ひょうご震災記念21世紀研究機構大学連携事業課を通して、兵庫県下の大学教員に調査協力を依頼した<sup>5</sup>。

【配布及び回収の方法】協力が得られた大学の授業時間およびその後の休み時間を利用して調査票を配布し、記入してもらったのち、その場で回収した。

【調査期間】2007年6月下旬から2007年7月下旬

【回収数・有効回収数】回収数：2215票 有効回収数：2126票

【統計処理に関して】本調査の統計処理は、エス・ピー・エス・エス株式会社のSPSS15.0J for Windowsをもちいておこなった。集計した結果をパーセントで示す際、端数処理のために合計が100パーセントにならない場合がある。

質問紙調査における対象者の基礎データは以下の通りである。

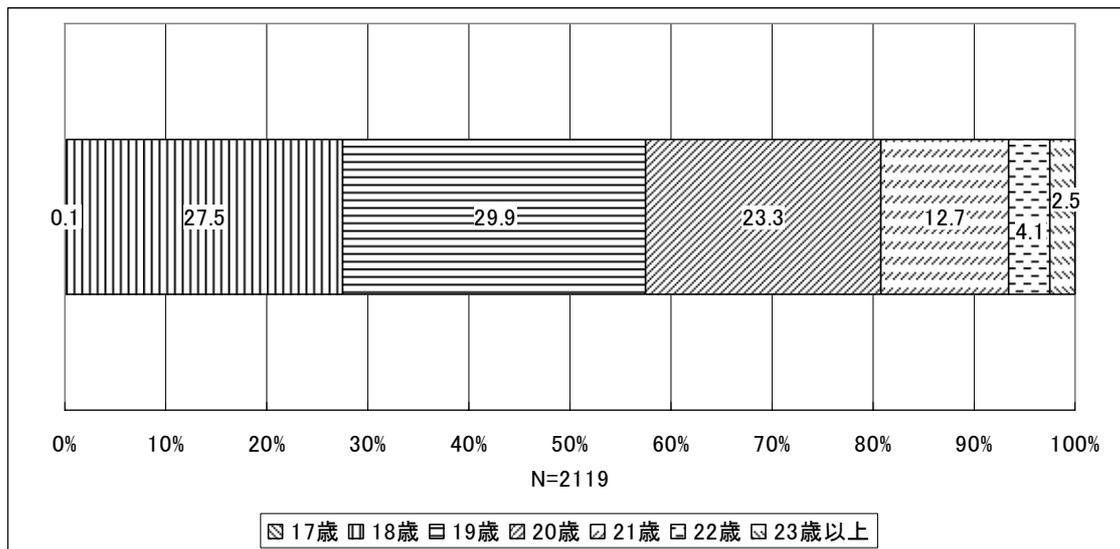


図2：年齢

<sup>5</sup> 本報告書でもちいる調査データはランダムサンプリングに基づくものではない。したがって、本来、検定統計量や有意水準は意味を持たない。ただし、「もしこうしたサンプルがランダムにとられたものとするればどの程度の統計的な意味があるのかという目安」(尾嶋 2001)、つまり参考指標としてこうした統計量をもちいることとする。

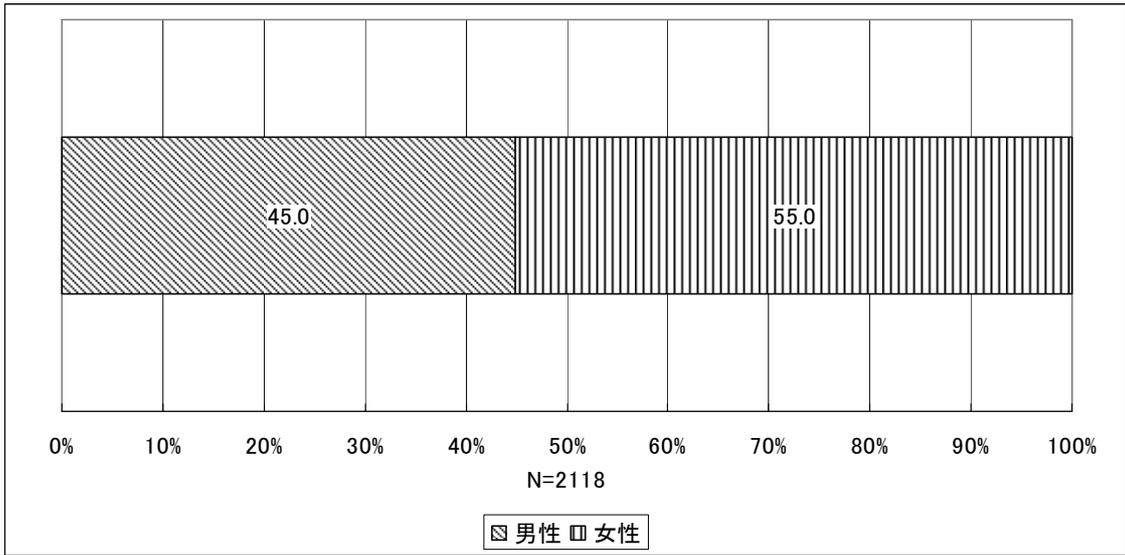


図 3 : 性別

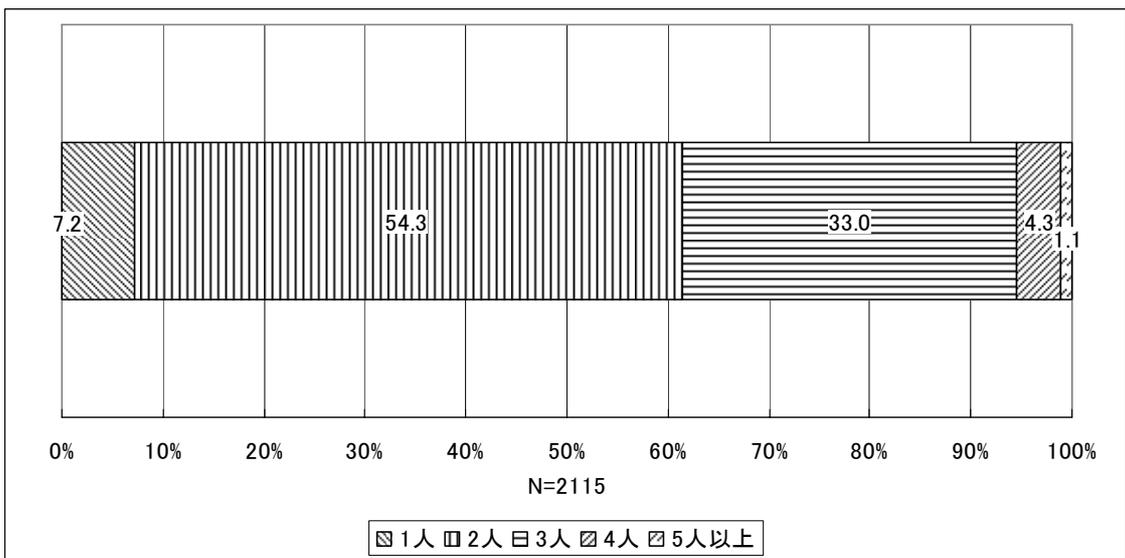


図 4 : きょうだい数

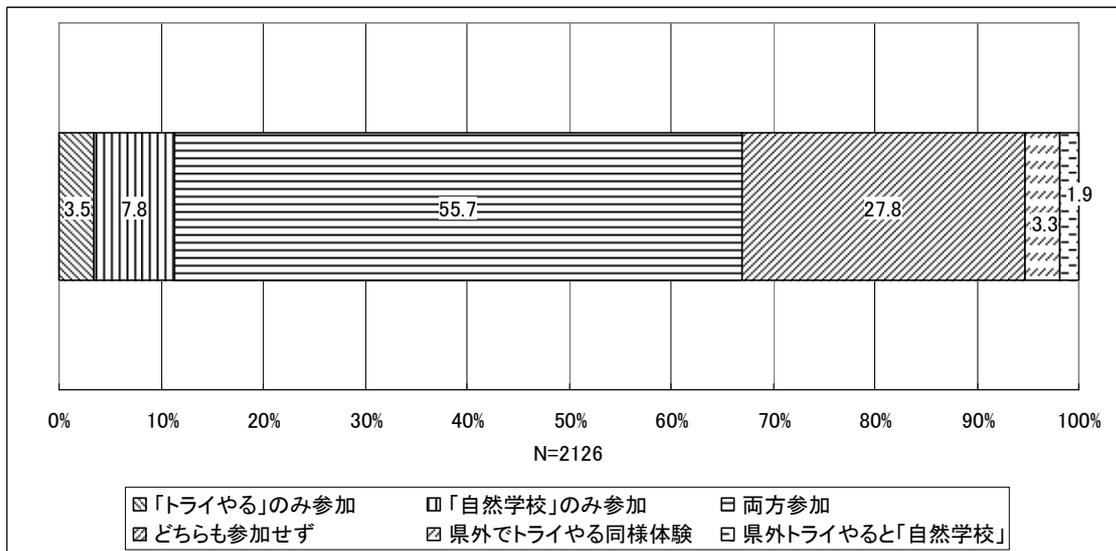


図 5：体験学習の経験

### 第 3 節 本報告書でもちいるその他のデータ

#### 1. 新聞記事

1998 年 1 月～2007 年 12 月末までの期間の朝日新聞で、タイトルもしくは本文に「トライやる・ウィーク」が含まれる記事 91 件を対象とする。各年の掲載記事数は以下の表の通りである。

表 2：対象とする「トライやる」関連記事

| 掲載年    | 記事数 |
|--------|-----|
| 1998 年 | 28  |
| 1999 年 | 18  |
| 2000 年 | 11  |
| 2001 年 | 5   |
| 2002 年 | 6   |
| 2003 年 | 2   |
| 2004 年 | 5   |
| 2005 年 | 6   |
| 2006 年 | 6   |
| 2007 年 | 4   |
| 合計     | 91  |

## 2. 感想文

兵庫県下のある中学校に調査協力を依頼し、感想文を提供していただいた。本報告書で扱う感想文データは、2006年度の体験者たちによる感想文 151名分（男性 82名、女性 69名）である。

## 3. 参与観察他

上記の資料収集に加え、子育て学習センターにおいて、子どもの面倒をみる「トライやる」体験者の参与観察および、聴取会・委員会にオブザーバーとして参加した。

- ① 参与観察：丹波市役所 柏原子育て学習センターゆめわあく柏原（2007年6月5日）
- ② トライやる・ウィーク意見聴取会参加（2006年9月28日）
- ③ 第3回「トライやる・ウィーク」評価検証委員会（2007年3月22日）
- ④ 第4回「トライやる・ウィーク」評価検証委員会（2007年7月13日）

### 第3章 体験学習の有無とその影響

#### 第1節 「自然学校」——「トライやる・ウィーク」以前の体験学習

##### 1. 「自然学校」の受け止められ方

長期間が経過したのち、小学校5年生の時点で体験する「自然学校」は、どのように受け止められているのだろうか。次の表は、性別と「自然学校」の受け止め方をクロス集計したものである。

まず、9項目のうち「自分にとって良い体験だった」「後輩の小学生たちに「自然学校」の体験をすすめたい」「学校では学べないことが経験出来た」「学校とは違い、自由な感じがした」「友だちの普段とは違った側面を知ることが出来た」の5項目において、男女ともに80%以上が「そう思う」もしくは「どちらかといえば、そう思う」と答えている。このことから、この体験学習がおおむね肯定的に受け止められていることが分かる。

しかしその一方で、「自然学校」に参加して、自分の考えや行動に影響があった」「体験中、自分から主体的に行動することが出来た」「ボランティアの大学生と十分コミュニケーションがとれた」の3項目については、肯定的な受け止め方をする割合が低くなっていた。これらの点は、自然学校が抱える課題の1つと言えるだろう。

また興味深いことに、9項目中6項目で性別による有意差が認められた。いずれの項目においても、女性の方が肯定的に回答する傾向が見られた。

表 3：性別と「自然学校」の受け止め方のクロス表

|                                   | 性別 | そう思う  |        | どちらかと<br>いえば、<br>そう思う |        | どちらかと<br>いえば、<br>そう思わない |        | 人数(人) |
|-----------------------------------|----|-------|--------|-----------------------|--------|-------------------------|--------|-------|
|                                   |    | そう思う  | そう思わない | そう思う                  | そう思わない | そう思う                    | そう思わない |       |
| 自分にとって良い体験だった**                   | 男性 | 60.9% | 30.2%  | 5.9%                  | 3.0%   | 576                     |        | 576   |
| ( $\chi^2=11.193, df=3, V=.091$ ) | 女性 | 69.7% | 23.7%  | 4.4%                  | 2.2%   | 765                     |        | 765   |
| 後輩の小学生たちに「自然学校」の体験をすすめたい**        | 男性 | 54.7% | 30.4%  | 10.9%                 | 4.0%   | 576                     |        | 576   |
| ( $\chi^2=16.424, df=3, V=.111$ ) | 女性 | 63.4% | 27.9%  | 6.6%                  | 2.1%   | 763                     |        | 763   |
| 学校では学べないことが経験出来た**                | 男性 | 61.1% | 29.1%  | 7.3%                  | 2.4%   | 574                     |        | 574   |
| ( $\chi^2=18.633, df=3, V=.118$ ) | 女性 | 70.7% | 24.5%  | 3.8%                  | 1.0%   | 764                     |        | 764   |
| 「自然学校」体験中に、感動することがあった**           | 男性 | 44.6% | 29.4%  | 17.8%                 | 8.2%   | 574                     |        | 574   |
| ( $\chi^2=18.339, df=3, V=.117$ ) | 女性 | 56.1% | 24.5%  | 14.0%                 | 5.4%   | 763                     |        | 763   |
| 学校とは違い、自由な感じがした                   | 男性 | 52.7% | 28.3%  | 12.7%                 | 6.3%   | 575                     |        | 575   |
| ( $\chi^2=4.564, df=3, V=.058$ )  | 女性 | 57.5% | 23.5%  | 13.1%                 | 5.9%   | 763                     |        | 763   |
| 「自然学校」に参加して、自分の考えや行動に影響があった       | 男性 | 30.3% | 27.3%  | 30.1%                 | 12.3%  | 575                     |        | 575   |
| ( $\chi^2=1.252, df=3, V=.031$ )  | 女性 | 31.3% | 28.3%  | 29.9%                 | 10.5%  | 763                     |        | 763   |
| 体験中、自分から主体的に行動することが出来た            | 男性 | 34.1% | 36.6%  | 21.8%                 | 7.5%   | 574                     |        | 574   |
| ( $\chi^2=4.339, df=3, V=.057$ )  | 女性 | 37.9% | 37.7%  | 18.2%                 | 6.2%   | 763                     |        | 763   |
| 友だちの普段とは違った側面を知ることが出来た**          | 男性 | 46.5% | 35.2%  | 12.7%                 | 5.6%   | 576                     |        | 576   |
| ( $\chi^2=23.256, df=3, V=.132$ ) | 女性 | 56.9% | 33.0%  | 6.8%                  | 3.3%   | 763                     |        | 763   |
| ボランティアの大学生と十分コミュニケーションがとれた**      | 男性 | 29.8% | 26.4%  | 21.3%                 | 22.5%  | 573                     |        | 573   |
| ( $\chi^2=12.695, df=3, V=.098$ ) | 女性 | 34.9% | 25.0%  | 18.5%                 | 21.6%  | 748                     |        | 748   |

V は Cramer's V 係数、\*\*は 1%水準、\*は 5%水準で有意な値を示す

## 2. 背景としての「はじめての体験」

質問紙調査の結果、自然学校が全般的に肯定的に受け止められていることが分かった。聞き取り調査においても「断片的には覚えているんですけど」「ちゃんとは覚えてないんですけど」と断りながらも、体験した内容を具体的に語ってくれる体験者は少なくなかった。たとえば、「キャンプファイヤーしたのと、探索、スタンプラリーじゃないですけど、山のなかを歩いていくような班行動するのと、あと、陶磁器をね、焼き物を自分でつくったんですよ」といった形である。

小学校5年生当時の事柄について尋ねられて、具体的に答えることができるということ自体が、「自然学校」での体験が持つインパクトの強さを物語っていると言えよう。では、このように印象深い経験となっている要因について検討してみたい。たとえばAさんは次のように述べている。

Aさん：自然学校、でも1週間行くじゃないですか、自然学校って、若いというか小学校のときに1週間家を離れて友達と過ごすというのは今までなかったことなので、それはすごい貴重な体験だった

この語りから、Aさんはその期間が長かったこと、またそれだけの期間を友達と一緒に過ごしたことが初めてであったため、体験として貴重だったと感じていることが分かる。つまり、自然学校が印象に残っている大きな要因として、初めての体験であるということ、そしてその期間が長いということが挙げられるだろう。

小学校5年生の時点で、親と離れ5泊6日の旅行を、それも学校の行事として経験するというのは、現在でも決して多くはないのではないだろうか。また、なかにはホームシックになって泣いたという体験者もあり、他にも「寂しかった」という声も聞かれた。このように、初めてで期間が長く、親と離れた寂しさから泣く人もいるという体験であることによって、現在でも具体的な内容を語れるほどの思い出として残っているのだろう。

たとえばIさんは、体験前と体験後で大きな変化があったと述べる。体験前は「親元を離れて5日も行くというのがすごい不安」だったため、自然学校に行くのをとても嫌がっていた。ところが実際に体験すると、とても楽しく感じられ、その内容を一日ごとに母親に話して聞かせたそうである。

また、このような長期間にわたって子どもと離れるという経験は、親にとっても初めてである場合が多いのではないだろうか。実際に子どもが自然学校に参加したある女性によると、期間中に海外旅行に行く親たちもいるという。つまり、自然学校は子どもにとって親離れを経験するものであると同時に、親にとっても子離れを経験するものになっていると言えよう。

自然学校は、以上のように初めての体験としての要素が多く、また5泊6日という長期間であるために、不安を感じる場合もあるが、同時に深く印象に残る体験であるとい

うことがうかがえる。また、主体的に行動するとはいえ、実際におこなったことは「自分でちゃんと布団をたたむ」「食事係などそれぞれが担当の係をする」などであり、体験者たち自身が語るように「ささいなこと」に過ぎないかも知れない。

しかし、ある体験者は自然学校での食事係は、普段の給食係とは「またひと味違った」経験であるという。そしてそういった経験を通して、「旅行とか行ったら、ある程度盛り上げるためには何をするとかもあると思うんですけど、そういう感じの基礎というか、何か知った気がしますね」と語っている。

## 第2節 自己認知と「トライやる・ウィーク」

### 1. 自己認知の諸側面

既存の調査研究において、「トライやる」を体験することで「子どもたちが自信をつけた」などの報告がなされている。たとえば、江上佳宏は生徒についての成果として、「自己有用感」「自尊感情」を生み出すことにつながると指摘している（江上 2003）。

そこで、山本他（1982）らが作成した自己認知の諸側面に関する測定尺度をもちいた検討を試みる。この尺度は、大学生を想定して作られたものであり、同じ大学生が対象である本調査研究において「トライやる」体験者と非体験者を比較するのに適していると言えるだろう。

次の図は、自己認知に関する22項目について、どのように回答しているのかを、棒グラフにまとめたものである。「あてはまる」から「あてはまらない」まで5件法で尋ねており、「あてはまる」と答えた人の割合が高い項目から順に並べている。

この図から、趣味や特技、他者に対する思いやり、寛大さ、責任感など自分の性格については、肯定的な受け止め方が多いことが分かる。特に、「人に対して寛大である」「責任感が強い」「人に対して思いやりがある」「同年配の異性と楽しく話しができる」「熱中している趣味がある」の5項目については、過半数の人が肯定的（「あてはまる」「ややあてはまる」）に回答していた。

一方で、知識や頭の回転といった知的な能力、および目鼻立ちや顔など容姿については、あまり肯定的に評価されていないことが分かる。

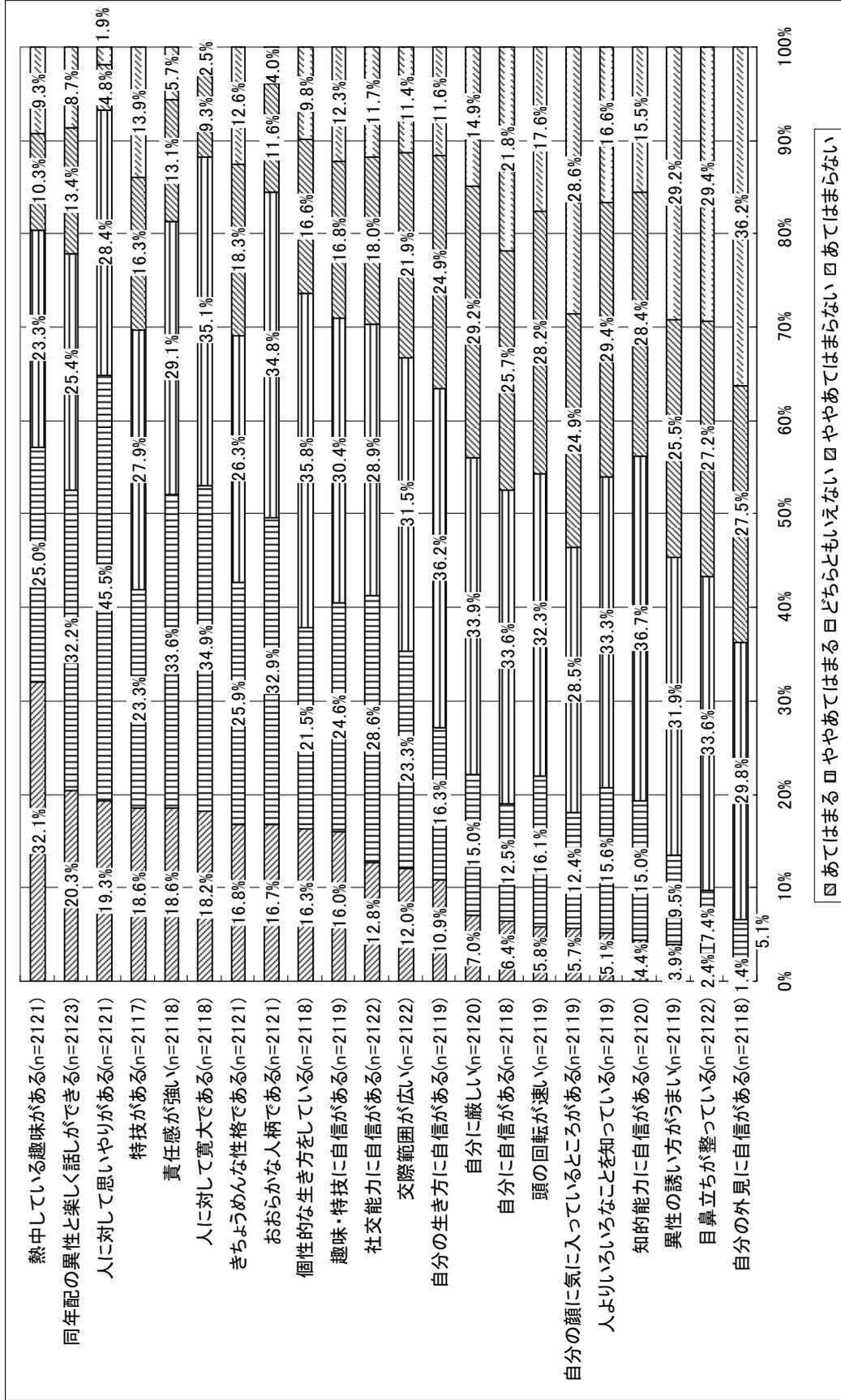


図 6：調査対象者の自己認知

山本ら（1982）は、「あてはまる」を 5 点、「あてはまらない」を 1 点として、合成尺度を作成している。合成尺度は、各側面についてそれぞれ 3～4 項目の得点を合計し、項目数で割った値である。したがって、いずれの尺度も最大値が 5 点、最小値は 1 点となっている。「社交」「優しさ」「生き方」「まじめさ」「知性」「容貌」「趣味や特技」の各尺度と質問項目の対応は、以下の通りである。

**表 4：自己認知の諸側面測定尺度**

|       |                    |
|-------|--------------------|
| 社交    | 社交能力に自信がある         |
|       | 交際範囲が広い            |
|       | 同年配の異性と楽しく話しができる   |
|       | 異性の誘い方がうまい         |
| 優しさ   | 人に対して思いやりがある       |
|       | 人に対して寛大である         |
|       | おおらかな人柄である         |
| 生き方   | 自分の生き方に自信がある       |
|       | 個性的な生き方をしている       |
|       | 自分に自信がある           |
| まじめさ  | きちょうめんな性格である       |
|       | 自分に厳しい             |
|       | 責任感が強い             |
| 知性    | 知的能力に自信がある         |
|       | 人よりいろいろなことを知っている   |
|       | 頭の回転が速い            |
| 容貌    | 目鼻立ちが整っている         |
|       | 自分の外見に自信がある        |
|       | 自分の顔に気に入っているところがある |
| 趣味や特技 | 趣味・特技に自信がある        |
|       | 特技がある              |
|       | 熱中している趣味がある        |

次の表では、作成した 7 つの合成尺度の度数・平均値・標準偏差を男女別に示している。上段は本調査、中段は山本らによる先行調査の結果、そして下段は両調査の平均値の差である。平均値の差は、本調査の値から先行調査の値を引いたものであるため、正の値は本調査の得点が上回っており、負の値は逆に下回っていることになる。

興味深い点は、男女ともに「優しさ」および「趣味・特技」の 2 尺度をのぞき、すべての尺度で先行調査の得点を下回っていることである。特に、「まじめさ」および「容貌」に関しては、両調査の差が大きくなっていることが分かる。

表 5：自己認知の諸側面尺度の比較

| 本調査における尺度得点の平均・標準偏差 |     |      |      |      |      |      |
|---------------------|-----|------|------|------|------|------|
|                     | 男性  |      |      | 女性   |      |      |
|                     | 度数  | 平均   | 標準偏差 | 度数   | 平均   | 標準偏差 |
| 社交                  | 947 | 2.93 | 1.00 | 1165 | 3.02 | 0.96 |
| 優しさ                 | 946 | 3.62 | 0.87 | 1164 | 3.58 | 0.79 |
| 生き方                 | 944 | 3.09 | 0.97 | 1162 | 2.71 | 0.91 |
| まじめさ                | 947 | 3.16 | 0.89 | 1162 | 3.07 | 0.91 |
| 知性                  | 945 | 2.88 | 0.94 | 1163 | 2.45 | 0.88 |
| 容貌                  | 946 | 2.45 | 0.93 | 1163 | 2.09 | 0.94 |
| 趣味・特技               | 947 | 3.44 | 1.03 | 1161 | 3.19 | 1.13 |

| 先行調査における尺度得点の平均・標準偏差(山本他 1982) |     |      |      |     |      |      |
|--------------------------------|-----|------|------|-----|------|------|
|                                | 男性  |      |      | 女性  |      |      |
|                                | 度数  | 平均   | 標準偏差 | 度数  | 平均   | 標準偏差 |
| 社交                             | 398 | 3.00 | 1.04 | 244 | 3.22 | 1.08 |
| 優しさ                            | 395 | 3.49 | 0.86 | 243 | 3.43 | 0.80 |
| 生き方                            | 399 | 3.21 | 1.06 | 244 | 2.84 | 1.08 |
| まじめさ                           | 400 | 3.44 | 0.82 | 243 | 3.41 | 0.86 |
| 知性                             | 400 | 2.99 | 0.92 | 243 | 2.56 | 0.89 |
| 容貌                             | 399 | 2.76 | 0.95 | 243 | 2.58 | 0.94 |
| 趣味・特技                          | 399 | 3.30 | 1.11 | 244 | 3.02 | 1.19 |

| 両調査の平均値の差(本調査－先行調査) |              |              |
|---------------------|--------------|--------------|
|                     | 男性           | 女性           |
| 社交                  | -0.07        | -0.20        |
| 優しさ                 | 0.13         | 0.15         |
| 生き方                 | -0.12        | -0.13        |
| まじめさ                | <b>-0.28</b> | <b>-0.34</b> |
| 知性                  | -0.11        | -0.11        |
| 容貌                  | <b>-0.31</b> | <b>-0.49</b> |
| 趣味・特技               | 0.14         | 0.17         |

## 2. 体験学習と自己認知

それでは、こういった自己認知の諸側面に関して、「トライやる」をはじめとする体験学習は、何らかの影響を与えているのだろうか。次の図は、「トライやる」の体験者と、他府県における「トライやる」同様事業の体験者、そしていずれも体験していない人たちの3カテゴリについて、自己認知尺度の平均値を示したものである。

図から、7つの尺度の内、「社交」「優しさ」「行き方」「まじめさ」「知性」「趣味・特技」の6項目において、「トライやる」体験者の平均値がもっとも低くなっていることが分かる。ただし、こういった違いが有意なものかどうか検討する必要があるため、以下では分散分析をおこなう。

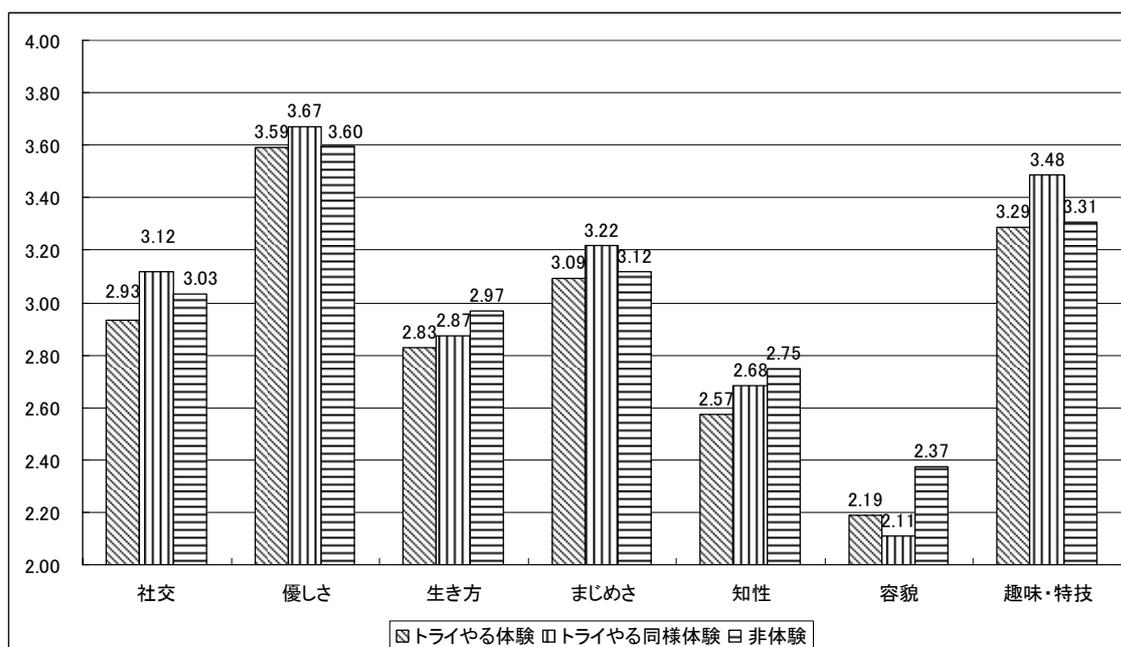


図 7：体験学習の経験と自己認知尺度

中学時代における体験学習の経験と、現在の自己認知に関して、有意な差がみられるかどうかを検討するため、分散分析をおこなった。その結果、「生き方」「知性」「容貌」の3項目で1%水準、「社交」については5%水準で有意な差が認められた。

ただし、有意差が認められた項目についても、体験学習が自己認知尺度を説明する割合は決して高くない。「イータの2乗」は、従属変数に対するインパクトを示している。たとえば、「容貌」についての「イータの2乗」が.01であることから、体験学習の経験が「容貌」の1%を説明しているということが分かる。

表 6：体験学習×自己認知の分散分析表

| 従属変数  | d.f. | F 値    | 有意確率 | イータの 2 乗 |
|-------|------|--------|------|----------|
| 社交    | 2    | 3.589  | .028 | .003     |
| 優しさ   | 2    | 0.438  | .645 | .000     |
| 生き方   | 2    | 4.760  | .009 | .004     |
| まじめさ  | 2    | 1.030  | .357 | .001     |
| 知性    | 2    | 8.466  | .000 | .008     |
| 容貌    | 2    | 10.145 | .000 | .010     |
| 趣味・特技 | 2    | 1.635  | .195 | .002     |

次に、より具体的に検討するために、合成尺度ではない元々の項目と、体験学習についてクロス集計をおこなった。以下の図は、「トライやる」の体験者と、他府県における「トライやる」同様事業の体験者、非体験者の 3 カテゴリと、自己認知に関するクロス集計表で、有意な関連が認められたものだけを示している。

その結果、自己認知に関する 22 項目の内、9 項目について有意な関連が認められた。体験学習の経験の有無により、自己認知に違いが出るということが分かる。また、具体的に中身を見ていくと、「トライやる」を体験した人たちにおいて、自己認知が低くなるという、分散分析の結果と同様の傾向が見られた。

特に「趣味・特技に自信がある」「交際範囲が広い」「自分の生き方に自信がある」「人よりいろいろなことを知っている」「知的能力に自信がある」「自分に自信がある」「自分の顔に気に入っているところがある」の 7 項目では、肯定的（「あてはまる」「ややあてはまる」）に回答した割合は、「トライやる」体験者でもっとも低くなっていた。

ただし、体験学習の違いにより有意差が認められたのは 22 項目中半分以下であること、および関連の強さを示す Cramer'sV 係数がいずれも.08 未満であることから、体験学習によって生じる自己認知の違いは大きなものではないと言える。

しかし、大きな違いではないとはいえ、このような有意差が生じた背景を検討しておく必要があるだろう。以下ではこの点について若干の考察を加えたい。

表 7：体験学習と自己認知

|  | 体験活動    | あてはまる | ややあてはまる | どちらともいえない | ややあてはまらない | あてはまらない | 人数(人) |
|--|---------|-------|---------|-----------|-----------|---------|-------|
| 交際範囲が広い*<br>( $\chi^2=16.636$ , df.=8, $V=.063$ )                | トライやる   | 11.2% | 22.1%   | 32.1%     | 22.3%     | 12.3%   | 1255  |
|  | トライやる同様 | 20.7% | 27.0%   | 20.7%     | 21.6%     | 9.9%    | 111   |
|  | 非体験     | 12.0% | 24.7%   | 32.0%     | 21.2%     | 10.1%   | 756   |
| 自分の生き方に自信がある*<br>( $\chi^2=17.865$ , df.=8, $V=.065$ )           | トライやる   | 10.4% | 15.1%   | 34.8%     | 26.8%     | 12.9%   | 1253  |
|  | トライやる同様 | 9.9%  | 17.1%   | 44.1%     | 17.1%     | 11.7%   | 111   |
|  | 非体験     | 11.9% | 18.3%   | 37.5%     | 22.9%     | 9.4%    | 755   |
| 自分に自信がある*<br>( $\chi^2=18.232$ , df.=8, $V=.066$ )               | トライやる   | 5.9%  | 11.2%   | 32.9%     | 26.0%     | 24.0%   | 1252  |
|  | トライやる同様 | 6.3%  | 14.4%   | 26.1%     | 30.6%     | 22.5%   | 111   |
|  | 非体験     | 7.3%  | 14.4%   | 35.9%     | 24.4%     | 18.0%   | 755   |
| 知的能力に自信がある**<br>( $\chi^2=21.327$ , df.=8, $V=.071$ )            | トライやる   | 4.1%  | 14.3%   | 34.4%     | 29.3%     | 17.9%   | 1254  |
|  | トライやる同様 | 3.6%  | 15.3%   | 38.7%     | 31.5%     | 10.8%   | 111   |
|  | 非体験     | 5.2%  | 16.0%   | 40.4%     | 26.4%     | 12.1%   | 755   |
| 人よりいろいろなことを知っている*<br>( $\chi^2=16.224$ , df.=8, $V=.062$ )       | トライやる   | 4.6%  | 15.0%   | 31.8%     | 29.7%     | 18.9%   | 1254  |
|  | トライやる同様 | 7.2%  | 14.4%   | 33.3%     | 33.3%     | 11.7%   | 111   |
|  | 非体験     | 5.7%  | 16.7%   | 35.7%     | 28.5%     | 13.4%   | 754   |
| 目鼻立ちが整っている*<br>( $\chi^2=19.538$ , df.=8, $V=.068$ )             | トライやる   | 2.2%  | 6.5%    | 32.4%     | 27.3%     | 31.7%   | 1255  |
|  | トライやる同様 | 2.7%  | 5.4%    | 27.0%     | 28.8%     | 36.0%   | 111   |
|  | 非体験     | 2.6%  | 9.1%    | 36.6%     | 27.0%     | 24.6%   | 756   |
| 自分の外見に自信がある**<br>( $\chi^2=26.383$ , df.=8, $V=.079$ )           | トライやる   | 1.2%  | 4.5%    | 28.4%     | 27.1%     | 38.8%   | 1252  |
|  | トライやる同様 | 2.7%  | 2.7%    | 19.1%     | 33.6%     | 41.8%   | 110   |
|  | 非体験     | 1.5%  | 6.6%    | 33.6%     | 27.2%     | 31.1%   | 756   |
| 自分の顔に気に入っているところが<br>ある*<br>( $\chi^2=15.970$ , df.=8, $V=.061$ ) | トライやる   | 4.9%  | 11.6%   | 27.3%     | 26.1%     | 30.1%   | 1254  |
|  | トライやる同様 | 5.4%  | 13.5%   | 24.3%     | 22.5%     | 34.2%   | 111   |
|  | 非体験     | 7.2%  | 13.4%   | 31.0%     | 23.3%     | 25.1%   | 754   |
| 趣味・特技に自信がある*<br>( $\chi^2=16.549$ , df.=8, $V=.062$ )            | トライやる   | 15.7% | 25.1%   | 29.3%     | 16.1%     | 13.7%   | 1253  |
|  | トライやる同様 | 20.9% | 31.8%   | 23.6%     | 15.5%     | 8.2%    | 110   |
|  | 非体験     | 15.6% | 22.6%   | 33.2%     | 18.1%     | 10.4%   | 756   |

VはCramer'sV係数、\*\*は1%水準、\*は5%水準で有意な値を示す

### 3. 自己認知に違いが生じる背景

上述したように、体験直後の調査においては「トライやる」体験が子どもの自信を高めるという報告がなされていた。しかし、体験後数年を経た大学生を対象としたところ、有意な関連ではなかったものの、むしろ「トライやる」体験者において自己認知が低いということが明らかになった。それでは、なぜこのような違いが生じたのだろうか。

聞き取り調査における対象者の語りを踏まえると、「トライやる」体験が自己認知を引き下げると考えるのは無理があるように思われる。また、「トライやる」体験者の自己認知が高まってもなお、非体験者等と比較すれば低い状態にあるというのも、やはり考えづらい。そこで、このような違いの背景として、本調査が持つ特性を合わせて検討する必要がある。すでに述べたように、本調査はランダムサンプリングによっておこなわれている訳ではなく、兵庫県下の大学に協力を依頼し、集合調査を実施した。

つまり、「トライやる」を体験している人は、中学時代から現在にかけてずっと兵庫県下で生活している場合が多いのに対して、非体験者および他府県での同様事業体験者は中学から現在までのいずれかの時点で、県外から県内に移動している人が多い。そして後者については親の仕事による移動なども考えられるが、大学生という調査対象の年齢層を考えると、移動の最大要因として挙げられるのは、やはり大学進学である。

このことから、自己認知に関する上記のような違いは、大学進学によって県境を越える移動を経たか否かによって生じた可能性が考えられる。資金的・人間的な制限から、本調査ではランダムサンプリングを採用することは出来なかった。しかし、兵庫県独自の施策であり、かつこれまで高い評価を得ている「トライやる」の長期的な影響を真に検討するためには、大学進学等による移動の影響を除外した分析が可能なランダムサンプルをもちいることも必要になるだろう。

#### 第3節 就業意識と「トライやる・ウィーク」

##### 1. 若年就業対策としての効果と評価

###### (1) 希望する職業の有無

「トライやる」に関しては、既存調査において、「勤労観」が高まるという指摘や（古田・小林 1998）、ニート・フリーター対策と関連づけた議論がなされている（重松 2005, 2006）。ここでは、このような議論と関連が深いと思われる、希望の職業を持つか否かという点に、「トライやる」がどのような影響を与えているのかを検討したい。

まず、聞き取り調査において、「やっぱり先生は職業体験をしてみて、将来に向けて意欲とかがつけて欲しいのかなと思いましたけれども」「ほんとは、中学生が就業意識を高めるためにやっていると思う」といった声が聞かれた。職場体験活動が7~8割を占めていることもあり、体験者は学校や教員の意図が、就業対策にあると考えているようだ。

その一方で、体験者自身は学校や教員の意図しているものとは異なる体験として受け

止めている。たとえば、「実際は、ほんとに体験学習、これから社会のためとか、絶対将来こうやって働くんだとか、そういう意識じゃなくて、ただ、体験学習みたいになっていると思う」「先生たちは、1週間仕事ができる場とか考えているかも知れないですけど、私たちはそんなこと何も思っていないで、遊び感覚じゃないけど、多分そんな先生たちが何を望んでかわからないけど、そんな堅苦しく思っていないで、結構気軽にみんな行ってたと思う」といった語りから、職業選択等に直結する「職場体験」としては受け止めていないことがうかがえる。

ここで、中学1年、3年、現在の3時点において、希望する職業を持っているか否かを示したグラフを見てみよう。年齢が高くなるにつれて、希望する職業を持つ人の割合が高まることが分かる。

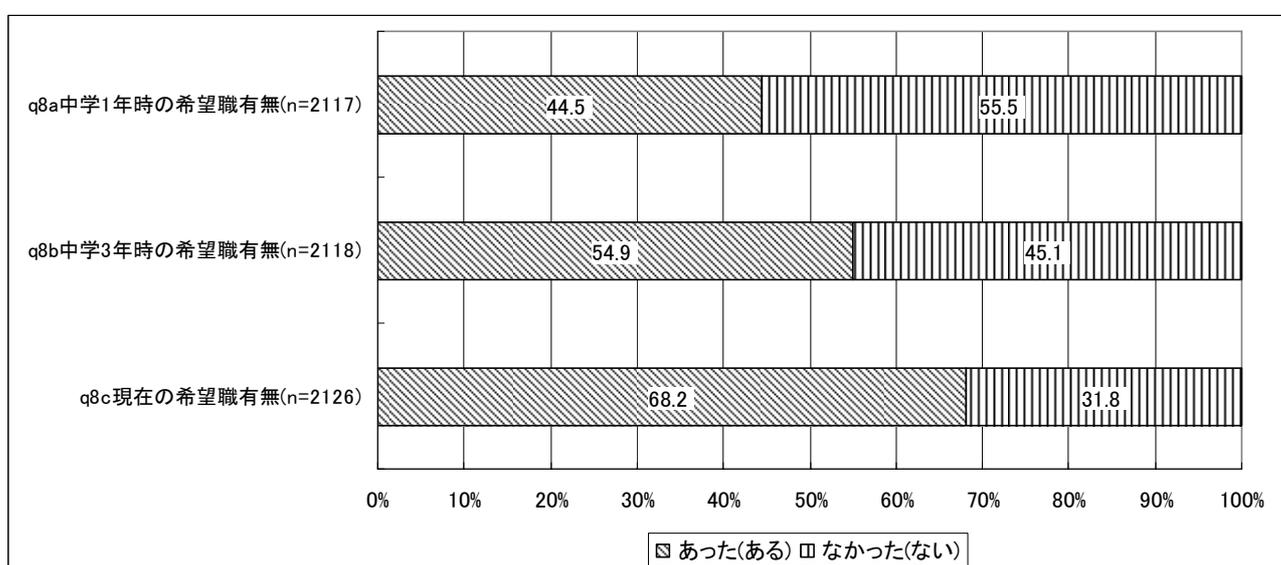


図 8 : 時点別希望職の有無

以下の表は、中学3年および現在において、「トライやる」体験者と非体験者で、希望の職業を持っているかどうかをクロス集計したものである。結果としては、「トライやる」体験と、希望職業の有無の間には有意な関連は認められなかった。

また、パーセンテージを見ると中学3年時点で希望職を持っている割合は、「トライやる」体験者で53.9%、非体験者で56.4%となっていた。現在においても体験者67.0%、非体験者70.0%となっており、いずれの時点においても、体験していない人の方が、むしろ希望する職業を持っていることが分かる。

したがって、長期的な視点から検討した場合には、ニート・フリーター対策としての有効性は疑わしい可能性がある。もちろん、「トライやる」はすでに述べたようにニート・フリーター対策として始まったものではないが、そういった部分にも重点を置くのであれば、この点は「トライやる」が持つ課題の1つと言えるだろう。

表 8 : 「トライやる」体験と中学 3 年時における希望する職業の有無

|               | 中学 3 年時の希望職有無 |          | 合計     |
|---------------|---------------|----------|--------|
|               | あった(ある)       | なかった(ない) |        |
| トライやる体験者(人数)  | 676           | 578      | 1254   |
| %             | 53.9%         | 46.1%    | 100.0% |
| トライやる非体験者(人数) | 487           | 377      | 864    |
| %             | 56.4%         | 43.6%    | 100.0% |
| 合計(人数)        | 1163          | 955      | 2118   |
| %             | 54.9%         | 45.1%    | 100.0% |

表 9 : 「トライやる」体験と現在における希望する職業の有無

|               | 現在の希望職有無 |          | 合計     |
|---------------|----------|----------|--------|
|               | あった(ある)  | なかった(ない) |        |
| トライやる体験者(人数)  | 839      | 414      | 1253   |
| %             | 67.0%    | 33.0%    | 100.0% |
| トライやる非体験者(人数) | 604      | 259      | 863    |
| %             | 70.0%    | 30.0%    | 100.0% |
| 合計(人数)        | 1443     | 673      | 2116   |
| %             | 68.2%    | 31.8%    | 100.0% |

それでは、どういった要素が、中学 3 年時および現在における希望職の有無に影響を与えているのだろうか。次の 2 つの表は、中学 1 年時と 3 年時の希望職種の有無と、中学 3 年時と現在の希望職種の有無についてクロス集計したものである。

その結果、いずれの時点においても有意な関連が認められ、また Cramer'sV 係数が.647 および.384 であり、その関連の度合いが強いことが明らかになった。つまり、その時点で希望する職業を持っているか否かは、それ以前の時点で希望職を持っているか否かが強い影響を与えていると言える。

表 10 : 中学 1 年時と 3 年時の希望職の有無

|       |          | 中学 3 年時の希望職有無 |          |       |        |
|-------|----------|---------------|----------|-------|--------|
|       |          | あった(ある)       | なかった(ない) | 合計    |        |
| 希望職有無 | 中学 1 年時の | あった(人数)       | 856      | 86    | 942    |
|       |          | %             | 90.9%    | 9.1%  | 100.0% |
|       | なかった(人数) | 306           | 868      | 1174  |        |
|       |          | %             | 26.1%    | 73.9% | 100.0% |
|       | 合計(人数)   | 1162          | 954      | 2116  |        |
|       |          | %             | 54.9%    | 45.1% | 100.0% |

$\chi^2=886.56^{**}$ 、d.f.=1、V=.647  
V は Cramer'sV 係数、\*\*は 1%水準、\*は 5%水準で有意な値を示す

表 11 : 中学 3 年時と現在の希望職の有無

|       |          | 現在の希望職有無 |          |       |        |
|-------|----------|----------|----------|-------|--------|
|       |          | あった(ある)  | なかった(ない) | 合計    |        |
| 希望職有無 | 中学 3 年時の | あった(人数)  | 980      | 181   | 1161   |
|       |          | %        | 84.4%    | 15.6% | 100.0% |
|       | なかった(人数) | 462      | 492      | 954   |        |
|       |          | %        | 48.4%    | 51.6% | 100.0% |
|       | 合計(人数)   | 1442     | 673      | 2115  |        |
|       |          | %        | 68.2%    | 31.8% | 100.0% |

$\chi^2=312.53^{**}$ 、d.f.=1、V=.384  
V は Cramer'sV 係数、\*\*は 1%水準、\*は 5%水準で有意な値を示す

(2) 気軽な体験学習として

聞き取り調査においても、以上のような、「トライやる」と仕事との間に関連が認められないという、同様の傾向が見られた。それでは、職業や仕事に直結するものとしては受け止められていない「トライやる」は、体験者たちにとって、あまり満足のいくものではないのだろうか。

たとえば、体験者である C さんおよび J さんは次のように述べている。

C さん：<職業選択への影響は>余りないと思います。トライやるはトライやるという一つの経験であって、自分のなかの経験であって、私にとっては、<「トライやる」を経験した妹も、進路等への影響を>受けてないですね。

普通にそのまま高校に行って、きっと妹も大学受験すると思うんですけど、その後に妹

がしたいことというのがあるかどうかは、まだ高校生だし、わからないですけど、子ども、児童館とか児童にかかわる仕事につくねんとはまだ言ってないので、そんなに変わりはないのかな。

ただ、今、日本でフリーターが多いだとか、ニートが多いだとかいわれるじゃないですか。そういうことを踏まえてもしするんだったら、中学生より高校生にした方がいいんじゃないかなとか思ったりする<傍点引用者。以下すべて傍点は引用者>。

Jさん：中学校のうちは、まだ遊びで行くぐらいしか余り考えていないんですよ。仕事とか、遠い将来の話じゃないですか。高校とかでやったら、もっと進路を選ぶときにたまるかもしれないですね。何もしたいことがないから大学へ行くという子が多いじゃないですか、今は。

だから、したいことが、高校でしたら見つかるかもしれないですね。コンビニとか行っても、コンビニの店員になりたいとか、余りないじゃないですか。だから、余り関係ないと思いますけれどね。楽しかったということしかないですね。

そんなに、この中学2年生では仕事とかは深く受けとめていないと思うんです。こういう行事があるから行くというぐらいで、何になりたいからここに行くとかは、そんなみんな思っていないと思います。

こういった受け止め方は、「ほんまもんの職業体験をするのであれば、高校生でもいいと思いますわ。高校でやらせてあげた方が、かえっていいんと違うかなと思ったりしますね。だから、社会体験っていう捉え方でいくなら、別にいいんじゃないかなと、中2の時期でね」と語る指導ボランティアのそれとも親和的である。

以上から、「トライやる」が持つ体験者にとっての特徴として、[1]体験時は進路選択や職業選択といったことはあまり意識しておらず、そういった側面への影響は感じられないということ、[2]進路・職業選択やニート・フリーター対策を念頭におくなら、高校時代に実施した方が良いということの2点が指摘出来るだろう。

こういった体験者の認識とは異なり、体験学習がフリーターやニート対策に有効であるとする指摘は「トライやる」以外の体験学習でも見られる。たとえば、小林美希(2005)は「フリーターが少ない 富山 地域ぐるみ『14歳の挑戦』」という論考において、「14歳の挑戦」が「仕事や働くということを考えさせること」につながっている点を指摘している。実際、富山県の新卒フリーター率が全国でもっとも低い5.0%であることを示している<sup>6</sup>。

一方、「トライやる」を実施している兵庫県の新卒フリーター率はむしろ高く、全国13位の14.2%となっている。「トライやる」と「14歳の挑戦」は、きっかけこそ異なっているものの、目的や位置づけに大きな違いはない(玄田他 2004)。また聞き取り調査においても、体験者の受け止め方に大きな差異は認められなかった。それにもかか

<sup>6</sup> 同時に、高校における職業教育の熱心さ、企業の「優秀な人材は手放さない」という人事戦略があることも例に挙げられている。

ならず、兵庫県と富山県でフリーター率が大きく異なっているのは、両事業で体験学習の有効性に差があるということではなく、他の社会経済的要因によるものであると考えた方が妥当であろう。

ただし、Jさんは「トライやる」が職業選択や進路選択に役立ったとは思わないとしながら、一方で次のようにも述べている。

Jさん：役立ったと思わないですけど、楽しい行事のうちには入っていましたね、本当に。でも、自分の子どもが大きくなった時って、ほんまに今近所づき合いがないじゃないですか。だから、ほんまに大人と接する機会とか、社会に出る機会とかないから、自分の子どもはほんまに経験してほしいですけどね。

長期間が経過してから振り返った場合には、「トライやる」は進路選択や職業選択に対して「役に立つ体験」としては受け止められていない<sup>7</sup>。ただし、ここで注目したいのは、体験者たちが就業対策等としての影響はないと認識しているにもかかわらず、全般的には体験を肯定的に受け止めているという点である。

Jさんの場合「役だったと思わない」が、「楽しい」行事として受け止めており、さらに自分自身が体験した「トライやる」を、子どもにも「経験してほしい」という思いを持つようになっていく。他にも、「ふだんの授業とかではできないような体験」「何か普通に学校だけ行ってたら体験できないことだし、中学校のときに社会を見るじゃないけど、お店に行ったり保育園へ行ったり、そういう経験ができるのはすごいと思います」といった声が聞かれたように、学校だけでは経験できない貴重なものとして位置づけられている。

つまり、「トライやる」という体験が肯定的に受け止められるかどうかについては、進路や職業選択等に直接的に役立つか否かではなく、むしろその他の要素こそが重要であると言える。体験者たちの語りから、仕事等に関連する「職場体験」ではないが、「堅苦しく」ない「気軽」な「体験学習」となっている点が重要であるように思われる。

## 2. 働くことのイメージと視野の広がり

### (1) 緩やかに広がりを持つ影響

中学時代に日常的に接する機会のあった大人について尋ねたところ、親をのぞくと「中学の先生ですね。大人って、それぐらい。あとは買い物に行って、店員さんに会うとか、それぐらいですね」という声が聞かれた。恐らく、こういった状況は多くの中学生に共通のものではないだろうか。そんな中学生にとって、見知らぬ大人と5日間をわたって関わった経験は、彼ら・彼女らにどのような影響を与えているのだろうか。

たとえば美容院で「トライやる」の体験をしたIさんと、幼稚園で体験したCさんは

<sup>7</sup> もちろん、本人に意識されていない部分で、進路や仕事に影響を与えている可能性は否定できない。その点については、ランダムサンプリングをもちいた大規模かつ詳細な調査によって、当事者の意識ではなく、進路や就職状況などに関する検討が必要になるだろう。

次のように語っている。

I さん：どうしても、お店とか仕事ってなると、自営業のイメージだったんです。親も親で、お母さんは仕事はしてないわけじゃないですか。昔してたよって言われても、へえって感じだったし。

お父さんも公務員なんで、そんなにがっつりばりばり会社でっていう感じじゃなくて、むしろ、あんま仕事の話は一切家でしなかったんで、仕事っていうイメージが結構薄かったんで、勝手にサラリーマン大変とかそういうふうにししか思ってた。ほんでやっぱり仕事をしながら、何か家のこととかやってるっていうとかで、何かそんな人おるんやみたいな。新しいといえば新しかったですね。

C さん：＜事後の報告会で聞いた＞クリーニング屋に行った友達の話が印象に残っています。自分の制服を出しに行くクリーニング屋の話って、やっぱり自分が知ってるところのことで、こんなことやってたんやと知らなかったことを知るという意味ですごい印象的やったと思う。お客としてしか行ってないところで、友達がその裏側を経験したとか。

第一希望が外れた人とかでも、そんな嫌だったとかは余り聞かない。やっぱり知らないから嫌だっていう部分ってあるじゃないですか。イメージだけが先行して、こんなんは嫌だとか。でも、やっぱりやってみたら全然違って、いいやんって思えるところとかあるし。やっぱり1週間同じ人とかかわって、いろいろ教えてもらったりするうちに、その仕事が好きか嫌いかは別として、自分のなかで、何かを見出せたりとかして、それもいいんじゃないかって。

I さんについては、地域の大人たちと出会って仕事をするなかで、公務員の父や専業主婦の母など身近な親と比較して、働くことについて考える契機となっている。そして、それまでIさんのなかにあった、仕事に関するイメージに変化が生じている。また、Cさんは普段から利用しているクリーニング屋で体験した友達の話から、まるで知らなかった裏側があることが印象的だったと語っている。そして、それまで知らなかった部分を知ることによって、仮に体験先が第一希望ではなかったとしても、何かを見出すことが出来るのではないかと考えている。

Cさんの言葉にある「やってみたら全然違って、いいやんって思えるところとかある」という点は、受け入れる側からも同様の話が聞かれた。たとえば、農業協同組合で受け入れを担当しているRさんは、次のように話してくれた。

R さん：一度うちへ来た3人はね、他の希望にもれて、残ってたところへ来たって言ってました。でもね、来たら来たで頑張ってるね、やりましたよ。そういうことって大事だね、何でもね、やっぱり与えられたことを一生懸命頑張るっていうのはね

先述したように、体験者たちは「トライやる」が進路や職業選択に直接的な影響があったとは認識していない。しかし、日常的に接する大人が極めて限られている状況にお

いて、見知らぬ大人と関わる一週間が持つインパクトは決して小さなものではないようである。以上のような体験者の語りからは、働くということのイメージが薄かった体験者たちが、「トライやる」体験から大きな影響を受け、変容している様子が見えてくる。

また、Cさんが語った「それまで知らなかった裏側を知る」ということは、仕事に関するイメージが修正されるといったことにとどまらない重要な意味を持っている。先のIさんは、進路や職業選択への影響は「ないですね」と断言していた。その一方で、「トライやる」から受けた影響について、次のように語っている。

Iさん：何か自分の視野を広げることに關しては、すごくあると思いますね。多分、こういうのがなかったら、絶対美容師の裏側っていうか、生で感じることはできなかったと思いますし。何か表面で私たちがお客さんとして見るところはわかるんですけど、やっぱり裏がどうか。何かすごい努力とかがあって、やっとなんかこういう仕事ができるっていうのが、すごい思いましたね。

店長さんの話もあつたりするし、何かいいとこばっかじゃないんやなって思いました。免許取って店開いて、切っとなんか勝手に客も来るわみたいな感じで見てたんですけど、そうじゃなくて、どんどん下の人を育てていかなきゃいけないし、トレンドもちゃんとしっかりチェックしなきゃいけないし、雑誌もめっちゃ読まないかんしとか。だから、勉強がなくなるときはないんやなって思いました。

多分、今やからそうやってそこまで思えるんだと思うんですけど。多分、どの仕事でも終わりがなくて、日々みんなちゃんと努力してるから、注目を浴びる人は浴びるし、つぶれていくような店つぶれていくみたいな感じだと思います。何か新しい世界じゃないですけど、そっち側を見た感じがしましたね。自分が今まで知ってた世界はすごい狭かったんやなって思いました。

Iさんは、客という立場で見ていた「美容師」というイメージと、体験を通して知った実態との乖離に言及している。美容師という仕事が立ちっぱなしで休憩も不定期であるということや、直接もしくは鏡越しにずっと客の目があるために気が抜けないということ、髪型のイメージをきちんと聞いた上でカットしても、納得してもらえないこともあるといったことに触れ、「すごい繊細やし、何かすごいキラキラした仕事ではあるんですけど、すごい裏の苦労とかも大変」と話す。またIさんは、自身が体験した美容師についてのみではなく、どのような職業であっても同じであり、「自分が今まで知ってた世界はすごい狭かった」と「トライやる」での体験から、広く他の仕事などについても想像が及ぶようになっている。

そして「裏側」での「すごい努力」を知り、「勉強がなくなるときはない」ということに思い至ったのは、現在だからこそだと述べている。中学時代に体験したことを、現在に至って初めて言葉に出来るようになったという点は、当時の経験がその場限りの影響に終わった訳ではないことを示すという意味で、重要ではないだろうか。

つまり、「トライやる」での体験が契機となって、職業や仕事について考えることは、直接的に将来の仕事に影響を与えるといった限定的なものではないのである。実際の体

験を通して、それまでのイメージが実体のないものであることを知る。そして視野を広げることにつながるという点で、むしろもっと緩やかに広がりを持つ影響があるのだと考えることが出来るだろう。

## (2) 体験学習の問題点

Iさんは、現在から思い返しても、さまざまなことを学んだと述べていた。しかし他方で、「トライやる」が持つ問題点にも言及している。具体的には、同じように美容院で体験学習をしても、「意味がない」場合もあるという。

Iさん：同じ美容院行った子でも、私みたいにこんながつつりやってない子もいっぱいいて、だれも客が来ない美容院に行ったりとか。友達が行ったところは、1日に二、三人しか来なくて、空いてる時間はずっと漫画読んでたとか、そんなんは多分意味がないんですよ。

楽しかったって言ってたんですけど、私は多分それやと別に意味がないように思ってしまった、やっぱ差があるじゃないですか。いろいろやって、全部はわかんないけど、仕事って大変なところもあるけど、何かできるようになったりとか、ほめられたらどんどんうれしいし、頑張れるし、何か美容師っていう仕事も全然知らなかったけど、すごいカッコいいとかも思ったんですけど、その子は、もうあっこつづれるから無理やわみたいない感じ。

ここでは、空き時間にマンガを読むことになるような、お客の少ない美容院では意味がないと指摘されている。このような語りから、一見、中学生の受け入れ先に求められていることは、お客の数すなわちやるべき仕事の量であるとも考えられる。

しかしIさんは、同時にどこの職場でも学ぶことはあると語る。ただしそのためには、そこでの仕事にちゃんと参加できること、そして「生で感じる」ことが重要であるという。また、何かできるようになったり、ほめられたりすると「うれしいし、頑張れる」とも述べている。つまり、問題となるのはお客の数という、受け入れ先が抱える仕事の量そのものというよりは、むしろ指導ボランティアの適切な配慮の有無であると考えられる。

たとえばIさんは、空いた時間にもマネキン人形にロット（パーマをあてるための道具）を巻いていく練習をさせてもらったり、指導ボランティアの人自身がどういった経緯で美容師になったのかという話を聞いたりしたという。つまり、空いた時間をちょっとした配慮によって有効に活用するか、マンガを読んで終わらせてしまうのかといった点に、大きな違いがあると言える。

この点の重要性は、「喫茶店の子は本当に、アルバイトしてたみたいない感じで、普通に接客ばかりしてたみたいなんも言ってましたし。それは多分、マイナスです。（中略）本当にこき使われてただけというイメージの子もいましたね」というEさんの語りにも現れている。また、体験者たちは、「トライやる」に一週間という長さがある点を評価していたが、指導ボランティア等による適切な配慮を受けられず、「あまり人と接

することもなく、毎日同じこと、それこそ一日中玉子割ったりばかり」「雑用みたいな、道の草むしり」ばかりといった場合、逆に「1週間でも長い」と受け止められることになる。

「トライやる」での職業体験において、中学生用に配慮された仕事を体験するのが良いのか、普段通りのその職場における仕事を体験するのが良いのかは意見の分かれるところである。ただし、中学2年生が対象である以上、受け入れ先の仕事内容にもよるが、現実問題としては、普段通りの仕事をおこなうのは難しい場合が多い。

仮に、対応できないほどのお客が来る美容院であっても、言うまでもなく「トライやる」の中学生がカットを担当することはないだろう。しかし、その内容がたとえアシスト的なことであっても、「トライやる」による影響が十分に認められるということ、Iさんは示している。

Iさん：実際作業には入れないけど、アシスト的なことをするじゃないですか。(中略)最初は、初日は本当に、多分、来てもそんな力には絶対、私むしろ邪魔やろなみたいなぐらいのレベルだと思うんですけど。

やっぱ渡すとかそういうのってちょっと参加してる感じというか、多分いなかったらだれかがするんでしょうけど、いることによって、その一人分が違うところに回れるから、力になれてると言ったらちょっと大きいんですけど、何か必要とされている感じというか、仕事に参加できてる感じがだんだん出てきて、やってることに対して。

ちょっと、4日目ぐらいになったらもう要領とか、このタイミングで掃いたらいいとか、次はこれを洗ったらいいとかもちょっとわかるようになって、ちょっとできるとか。何かちょっと自分が新しいことをちょっと身につけてるというか、できるようになってるというのは、ちょっとうれしかった。

また、指導ボランティアによる配慮を受け、普段の仕事をそのまま体験しない場合でも、体験者たちは置かれた立場や状況をかなり正確に把握している。そのことは、「やっぱり、お客さんじゃないけど、すごく気を遣われてた」と述べる体験者がいることから明らかであろう。Hさんは次のように語り、「できる範囲」の「簡単な」仕事であっても、中学生にとっては難しく、その大変さを理解することができると考えている。

Hさん：ふだんやっている仕事のなかでも、中学生ができる範囲の仕事をさせてもらったと思います。中学生にとってやっぱり仕事するというのは、どれをしても初めてのことだから、大変だと思うんですね、簡単なやつだったとしても。だから、別にそれでわかると思う。

このように、体験者たちは指導ボランティアとのかかわりにおいて、大人たちから配慮を受けているということ、十分に理解している。また、「その子がレジしとるときは、何か普通のお客さんも暖かい目で見てくれるというのは聞きましたけれども。今日『トライやる・ウィーク』だって、この子みたいな。頑張りよって言ってくれるとか」とい

った語りから、指導ボランティアのみではなく、体験者に対する一般の人のまなざしがどのようなものであったのかを感じ取っていることが分かる。

それでは、「トライやる」において地域の人たちとかかわり、適度な配慮を受けてきた経験は、体験者の現在および今後はどういった影響を及ぼしているのだろうか。かつての体験者たちも、大学4年生相当の年齢になっている現在では、中学生とは異なる立場で「トライやる」に接する機会を持つ人も少なくない。そういった際に、現在の中学生たちにどのようなまなざしを向けているのかを見てみよう。

次のBさんは、「トライやる」の中学生を受け入れているそば屋に入った時の経験を、Cさんは自分が受け入れ側になった場合について語っている。

Bさん：その子らがつくついたらしい、ぐたぐたのそばが出てきたんですよ。こんな出していいのかなと思うぐらいのが出てきて。結構僕が文句言う人やったら、めっちゃ文句言うてたと思います。びっくりしました。めっちゃひまそうでしたし。

でもだから、トライやる・ウィークの子たちが来て、おそばのそば湯とか出してくれたから、その食べ方みたいなんとか、最初は何か……「つゆ入れてください」みたいな説明とかして、頑張っていましたけど。やっぱり怒れないですよ。何これ」とは言いにくいですよ。

頑張ってるんかと思いましたがけれども。びっくりしましたけれどね、これがびっくりしましたね。(中略)すごいほんまにもろもろで、太さもばらばらな感じのやつが出てきましたね。それで結構普通のいい値段取りました。

Cさん：中学2年生の子がホテルに来たら、やっぱりホテルってこういうこともするんだよということはいっぱい教えてあげたいなと思います。と思ったら、やっぱり会社の人も、こういうことがお仕事というのはこんなんで、こんなこともあるんだよというのは、今まで知ってたイメージ以外のこと、それこそ裏方のことですよ。裏のこと、こういうこともあるんだよということを会社は教えてあげたいんじゃないかなって感じます。

Bさんは何度も「びっくりした」と言いながらも、「頑張ってるんか」という気持ちで、現在の中学生たちを眺めている。Cさんは自分が中学生を受け入れ、指導ボランティアのような立場になった場合のことに言及し、「いっぱい教えてあげたいな」と語る。また、「中学生だから、まだ何もわからないので、怒るとかじゃなくて、優しく接する、教えてあげないと何もわからないじゃないですか。だから、優しく接してあげたら、あと聞かれたことには答えていったらいいんじゃないかなと思う」といったコメントからも、中学生の置かれた状況に対する想像力や寛容さがうかがえる。

つまり、かつて自分が受け入れられていた時の状況を踏まえた上で、他者への想像力、他者への寛容さを発揮しているのだと考えられる。

## 第4章 「トライやる・ウィーク」の受け止められ方

### 第1節 感想文・新聞記事にみる「トライやる」

#### 1. 感想文と新聞記事の違い

次に、体験直後の感想文および「トライやる」に関連する新聞記事に目を向けてみたい。表12は、2006年度の体験者たちによる感想文151名分（男性82名、女性69名）から、頻出語彙とその出現数を示したものである。

次の表は、頻出語彙を出現数の多い順に上位100位まで示したものである。このように頻出語彙を抽出することで、体験者たちが、「トライやる」をどのように捉えているのかが浮かび上がる。

感想文からは、おおまかに「仕事」「保育」「遊ぶ」「子」「掃除」「子供」「小学校」「教える」など「トライやる」の体験内容への言及や、「楽しい」「大変」「学ぶ」「緊張」「嬉しい」「疲れる」「思い出」など体験についての感想が述べられている様子が見えてくる。

表 12：感想文中の頻出語彙と出現数

| No. | 抽出語        | 出現数 | No. | 抽出語  | 出現数 | No. | 抽出語  | 出現数 | No. | 抽出語  | 出現数 |
|-----|------------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|
| 1   | 行く         | 373 | 26  | 体験   | 64  | 51  | 初日   | 41  | 76  | 今日   | 32  |
| 2   | 思う         | 370 | 27  | たくさん | 63  | 52  | 見る   | 40  | 77  | 良い   | 32  |
| 3   | 仕事         | 228 | 28  | 教える  | 63  | 53  | 初めて  | 40  | 78  | 頑張る  | 31  |
| 4   | トライやる      | 192 | 29  | 時間   | 63  | 54  | 拭く   | 40  | 79  | 生かす  | 31  |
| 5   | 楽しい        | 188 | 30  | 作業   | 60  | 55  | 給食   | 39  | 80  | いい   | 30  |
| 6   | 子          | 187 | 31  | 次    | 60  | 56  | 分かる  | 39  | 81  | 雨    | 30  |
| 7   | トライやる・ウィーク | 178 | 32  | 学ぶ   | 57  | 57  | 思い出  | 38  | 82  | 始まる  | 30  |
| 8   | 人          | 145 | 33  | 緊張   | 55  | 58  | 声    | 38  | 83  | 店    | 30  |
| 9   | 言う         | 132 | 34  | 自分   | 55  | 59  | あいさつ | 37  | 84  | 袋    | 29  |
| 10  | 終わる        | 122 | 35  | お客   | 54  | 60  | 運動会  | 36  | 85  | ミニ   | 28  |
| 11  | 保育         | 122 | 36  | 小さい  | 54  | 61  | 家    | 36  | 86  | 知る   | 28  |
| 12  | 掃除         | 109 | 37  | 入れる  | 54  | 62  | 帰る   | 36  | 87  | 別れ   | 28  |
| 13  | 遊ぶ         | 97  | 38  | 疲れる  | 51  | 63  | 残る   | 36  | 88  | 学校   | 27  |
| 14  | 来る         | 93  | 39  | 行う   | 50  | 64  | 出る   | 36  | 89  | 働く   | 27  |
| 15  | 大変         | 91  | 40  | 入る   | 50  | 65  | 優しい  | 36  | 90  | 牛乳   | 26  |
| 16  | 最後         | 87  | 41  | その後  | 49  | 66  | レジ   | 35  | 91  | 着る   | 26  |
| 17  | 食べる        | 85  | 42  | 経験   | 48  | 67  | 草    | 35  | 92  | 店長   | 26  |
| 18  | 最初         | 83  | 43  | 嬉しい  | 45  | 68  | 活動   | 34  | 93  | 難しい  | 26  |
| 19  | 先生         | 80  | 44  | 最終   | 45  | 69  | 慣れる  | 34  | 94  | 聞く   | 26  |
| 20  | 一番         | 75  | 45  | 一緒   | 44  | 70  | 切る   | 34  | 95  | 話    | 26  |
| 21  | 牛          | 67  | 46  | 配達   | 44  | 71  | 洗う   | 34  | 96  | 本    | 25  |
| 22  | 少し         | 66  | 47  | よい   | 43  | 72  | 商品   | 33  | 97  | 良い   | 25  |
| 23  | 小学校        | 65  | 48  | 昼    | 42  | 73  | 前    | 33  | 98  | いろいろ | 24  |
| 24  | 作る         | 64  | 49  | 本当に  | 42  | 74  | 朝    | 33  | 99  | お世話  | 24  |
| 25  | 子供         | 64  | 50  | 花    | 41  | 75  | センター | 32  | 100 | きれい  | 24  |

さらに、こういった感想文が持つ特徴は他との比較でより一層明瞭なものとなる。ここでは、比較対象として新聞記事をもちいて、「トライやる」という語彙が、どういった語と関連しているのかを検討しよう。

表 13 は、「トライやる・ウィーク」もしくは「トライやる」と関連の深い語彙、品詞、出現数、Jaccard 係数を示したものである。Jaccard 係数とは、2 値変数間の類似性測度の指標である。この指標は 0 から 1 までの範囲をとり、値が大きいほど類似性が高いことを意味している<sup>8</sup>。

感想文において、3 番目にリストアップされている「楽しい」という語彙が含まれる段落は 171 回出現しており、その内 50 回は「トライやる・ウィーク」「トライやる」といった語彙と同時に出現しているということを意味している。つまり、体験者たちが感想文中で「トライやる」を楽しいものとして位置づけていることが分かるのである。

新聞記事では、「中学」「教育」「一環」といった語彙から教育活動として位置づけられていることや、「社会」「体験」「学習」「地域」などから「トライやる」の意義、「殺傷」「連続」「事件」からは「トライやる」実施の背景について言及されていることがうかがえる。

それに対して感想文の方に目を向けると、「楽しい」「学ぶ」「思い出」「経験」「大変」といった語彙から、体験者たちは大変ではあるものの、その経験を楽しみ、印象深いものとして位置づけていることが分かるだろう。

---

<sup>8</sup> Jaccard 係数は、次の式で算出出来る。

$$S_{ij} = \frac{A}{A+B+C}$$

ij: サンプル、A : サンプル ij ともに値が 1 である指標の数、B : サンプル i の値が 1 で、サンプル j の値が 0 である指標の数、C : サンプル i の値が 0 で、サンプル j の値が 1 である指標の数

表 13: 「トライやる」と関連の深い語彙 (感想文・新聞の比較)

| No | 感想文 |      |     |         | 新聞記事 |      |      |     |         |
|----|-----|------|-----|---------|------|------|------|-----|---------|
|    | 抽出語 | 品詞   | 全体  | Jaccard | No   | 抽出語  | 品詞   | 全体  | Jaccard |
| 1  | 行く  | 動詞   | 297 | 0.1603  | 1    | 体験   | サ変名詞 | 195 | 0.3360  |
| 2  | 思う  | 動詞   | 284 | 0.1513  | 2    | 中学   | 名詞   | 73  | 0.2771  |
| 3  | 楽しい | 形容詞  | 171 | 0.1085  | 3    | 活動   | サ変名詞 | 120 | 0.2512  |
| 4  | 仕事  | サ変名詞 | 161 | 0.0797  | 4    | 教育   | サ変名詞 | 164 | 0.2169  |
| 5  | 小学校 | 名詞   | 51  | 0.0683  | 5    | 教委   | 名詞   | 80  | 0.2099  |
| 6  | 学ぶ  | 動詞   | 50  | 0.0656  | 6    | 社会   | 名詞   | 115 | 0.2095  |
| 7  | 終わる | 動詞   | 103 | 0.0624  | 7    | 学習   | サ変名詞 | 77  | 0.2067  |
| 8  | 保育  | サ変名詞 | 88  | 0.0620  | 8    | 中学生  | 名詞   | 76  | 0.2011  |
| 9  | 思い出 | 名詞   | 37  | 0.0620  | 9    | 実施   | サ変名詞 | 79  | 0.1913  |
| 10 | 体験  | サ変名詞 | 49  | 0.0542  | 10   | 一環   | 名詞   | 29  | 0.1748  |
| 11 | 本当に | 副詞   | 41  | 0.0525  | 11   | 兵庫   | 地名   | 181 | 0.1679  |
| 12 | 先生  | 名詞   | 66  | 0.0518  | 12   | 神戸   | 地名   | 141 | 0.1667  |
| 13 | 経験  | サ変名詞 | 46  | 0.0518  | 13   | 始める  | 動詞   | 34  | 0.1611  |
| 14 | 一番  | 副詞可能 | 71  | 0.0512  | 14   | 地域   | 名詞   | 114 | 0.1606  |
| 15 | 大変  | 形容動詞 | 76  | 0.0479  | 15   | 中学校  | 名詞   | 58  | 0.1453  |
| 16 | 行う  | 動詞   | 49  | 0.0457  | 16   | 生徒   | 名詞   | 153 | 0.1451  |
| 17 | 今回  | 副詞可能 | 20  | 0.0375  | 17   | 公立   | 名詞   | 37  | 0.1355  |
| 18 | 前   | 副詞可能 | 30  | 0.0364  | 18   | 児童   | 名詞   | 56  | 0.1337  |
| 19 | 生かす | 動詞   | 31  | 0.0363  | 19   | 参加   | サ変名詞 | 57  | 0.1264  |
| 20 | 初めて | 副詞   | 40  | 0.0354  | 20   | 殺傷   | サ変名詞 | 34  | 0.1234  |
| 21 | 知る  | 動詞   | 26  | 0.0339  | 21   | 連続   | サ変名詞 | 36  | 0.1218  |
| 22 | 始まる | 動詞   | 28  | 0.0337  | 22   | 事件   | 名詞   | 83  | 0.1156  |
| 23 | 残る  | 動詞   | 33  | 0.0332  | 23   | 取り組む | 動詞   | 37  | 0.1139  |
| 24 | 将来  | 副詞可能 | 24  | 0.0312  | 24   | 県内   | 名詞   | 44  | 0.1091  |
| 25 | 神代  | 名詞   | 16  | 0.0289  | 25   | 学校   | 名詞   | 126 | 0.1088  |

## 2. 性別による違い

次に、同じ感想文のなかでも、性別によって何らかの違いが生じていないかを検討する。以下の表は、感想文における特徴的な語彙を上位 20 語まで男女別に示したものである。

表から、感想文中で使われている語彙には明確な違いが見いだせる。女性の感想文においてもっとも特徴的な語彙は「楽しい」であり、78.3% (69 ケースの内、54 ケース) でもちいられている。また、「嬉しい」「思い出」など、「トライやる」での体験を非常に肯定的に受け止めていることがうかがえる。

その一方で、男性の感想文に特徴的な語彙としては、女性で挙がっていた「楽しい」「嬉しい」「思い出」はいずれも見あたらない。逆に、女性の感想文には見られなかった「緊張」「疲れる」「掃除」といった語彙が見られる。このような特徴的な語彙の違いからは、男性よりはむしろ女性の方が「トライやる」を肯定的に受け止めているようである。

また、こういった「トライやる」に関する男女の違いについては、体験後、男性よりも女性で「勤労観」「社会的協調」が高まる傾向があるという小林 (1999) の指摘と親和的である。しかし、感想文データの分析では、性別以外の独立変数について検討することが出来ない。そこで、以下では量的調査の結果をもちいて、長期間が経過した後においても、性別によって「トライやる」の受け止め方に違いが見られるのか、また見られるとしたらどのような要因によって異なっているかなど、合わせて検討を進めていく。

表 14：感想文に特徴的な語彙（男女別）

| No. | 女性の感想文 (n=69) に特徴的な語彙 |      |     |         | 男性の感想文 (n=82) に特徴的な語彙 |            |      |     |         |
|-----|-----------------------|------|-----|---------|-----------------------|------------|------|-----|---------|
|     | 抽出語                   | 品詞   | 全体  | Jaccard | No.                   | 抽出語        | 品詞   | 全体  | Jaccard |
| 1   | 楽しい                   | 形容詞  | 96  | 0.4865  | 1                     | トライやる・ウィーク | タグ   | 100 | 0.4918  |
| 2   | 行く                    | 動詞   | 137 | 0.4610  | 2                     | 終わる        | 動詞   | 65  | 0.4848  |
| 3   | 思う                    | 動詞   | 128 | 0.4593  | 3                     | 仕事         | サ変名詞 | 82  | 0.4775  |
| 4   | トライやる                 | タグ   | 99  | 0.3770  | 4                     | 次          | 名詞 C | 42  | 0.3333  |
| 5   | 子                     | 名詞 C | 52  | 0.3750  | 5                     | 時間         | 副詞可能 | 48  | 0.2871  |
| 6   | 大変                    | 形容動詞 | 49  | 0.3409  | 6                     | 緊張         | サ変名詞 | 47  | 0.2647  |
| 7   | 保育                    | サ変名詞 | 34  | 0.3377  | 7                     | 食べる        | 動詞   | 44  | 0.2600  |
| 8   | 人                     | 名詞 C | 80  | 0.3304  | 8                     | 疲れる        | 動詞   | 37  | 0.2526  |
| 9   | 言う                    | 動詞   | 74  | 0.3241  | 9                     | 掃除         | サ変名詞 | 39  | 0.2474  |
| 10  | 来る                    | 動詞   | 60  | 0.3163  | 10                    | 出る         | 動詞   | 30  | 0.2444  |
| 11  | 少し                    | 副詞   | 45  | 0.2955  | 11                    | 作業         | サ変名詞 | 31  | 0.2418  |
| 12  | 教える                   | 動詞   | 41  | 0.2941  | 12                    | 入る         | 動詞   | 37  | 0.2396  |
| 13  | 嬉しい                   | 形容詞  | 28  | 0.2933  | 13                    | その後        | 副詞可能 | 33  | 0.2366  |
| 14  | 遊ぶ                    | 動詞   | 44  | 0.2841  | 14                    | 見る         | 動詞   | 36  | 0.2292  |
| 15  | 思い出                   | 名詞   | 31  | 0.2821  | 15                    | 小学校        | 名詞   | 27  | 0.2247  |
| 16  | 最後                    | 名詞   | 59  | 0.2800  | 16                    | 昼          | 副詞可能 | 26  | 0.2135  |
| 17  | 行う                    | 動詞   | 41  | 0.2791  | 17                    | ありがとう      | 感動詞  | 33  | 0.2105  |
| 18  | 最初                    | 名詞   | 56  | 0.2755  | 18                    | 体験         | サ変名詞 | 35  | 0.2062  |
| 19  | 本当に                   | 副詞   | 34  | 0.2716  | 19                    | 作る         | 動詞   | 35  | 0.2062  |
| 20  | 一番                    | 副詞可能 | 58  | 0.2700  | 20                    | 入れる        | 動詞   | 35  | 0.2062  |

## 第2節 大学時代に振り返る「トライやる・ウィーク」

### 1. 質問紙調査における「トライやる」体験者の概要

本報告書であつかうデータ 2126 票の内、「トライやる」体験者は 1258 サンプルである<sup>9</sup>。以下の表は、対象者を性別・年齢別に示したものである。性別によって、年齢にやや偏りがあり、男性では 20 歳、女性では 18 歳がもっとも多くなっている。

表 15：「トライやる」体験者の年齢・性別

|       |        | 年齢    |       |       |        |        |  |
|-------|--------|-------|-------|-------|--------|--------|--|
| 性別    | 18 歳以下 | 19 歳  | 20 歳  | 21 歳  | 22 歳以上 | 合計     |  |
| 男性(人) | 90     | 140   | 175   | 98    | 51     | 554    |  |
| %     | 16.2%  | 25.3% | 31.6% | 17.7% | 9.2%   | 100.0% |  |
| 女性(人) | 267    | 223   | 133   | 67    | 10     | 700    |  |
| %     | 38.1%  | 31.9% | 19.0% | 9.6%  | 1.4%   | 100.0% |  |
| 合計(人) | 357    | 363   | 308   | 165   | 61     | 1254   |  |
| %     | 28.5%  | 28.9% | 24.6% | 13.2% | 4.9%   | 100.0% |  |

また、次の 2 つの表は体験先までの交通手段、所要時間および活動の種類が何種類あったのかを示している。「トライやる」体験者の内、徒歩で通っていた者がもっとも多く、ついで自転車が多くなっている。

こういった交通手段が多数を占めていることから、体験先までの所要時間は平均して 20 分となっている。活動の種類については、30 種類程度となっていた。

表 16：体験先までの交通手段

|     | 度数   | 有効パーセント | 累積パーセント |
|-----|------|---------|---------|
| 徒歩  | 625  | 51.1%   | 51.1%   |
| 自転車 | 339  | 27.7%   | 78.9%   |
| バス  | 116  | 9.5%    | 88.4%   |
| 電車  | 32   | 2.6%    | 91.0%   |
| 自転車 | 107  | 8.8%    | 99.8%   |
| その他 | 3    | 0.2%    | 100.0%  |
| 合計  | 1222 | 100.0%  |         |

<sup>9</sup> 表中では、性別もしくは年齢のいずれかが無回答のケースは除外されているため、合計が 1258 サンプルにはならない。

表 17：体験先までの所要時間・活動種類

|               | 平均    | 標準偏差  |
|---------------|-------|-------|
| 活動先までの所要時間(分) | 20.19 | 22.98 |
| 活動の種類         | 30.79 | 25.83 |

## 2. 「トライやる」とその影響

### (1) 「貴重」で「楽しい」体験

ここで、質問紙調査の結果に目を向けてみよう。「トライやる」体験直後に実施された既存調査によると、多くの人々が体験を肯定的に捉えていることが報告されている。それでは、その後時間が経過した現在において、かつての体験者たちはどのように体験を受け止めているのだろうか。

図9は、現在から振り返り「トライやる」をどのように受け止めているのかを、棒グラフにまとめたものである。「そう思う」から「そう思わない」まで4件法で尋ねており、「そう思う」と答えた人の割合が高い項目から順に並べている。24項目の内、16項目において（「違う行き先を選べば良かった」については、「そう思わない」ことを「肯定的」とする）、5割以上の人々が肯定的に答えていた。

特に、「受入先での活動内容には満足した」「人付き合いの大切さが分かった」「授業がなくてうれしかった」「将来、自分の子どもたちにも体験して欲しい」「楽しい体験だった」「貴重な体験だった」「学校では学べないことが経験出来た」の7項目に関しては、8割以上の人々が「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した。つまり長期間が経過した後も、おおむね肯定的に受け止められていることが分かる。

しかし、「当時の体験が、その後の進路選択に影響を与えた」「仕事に偏見を持っていたことが分かった」という進路や仕事に関連する項目に対して、肯定的な回答をしたものは3割前後にとどまり、就業意識との関連についての検討と同様の傾向が見られた。

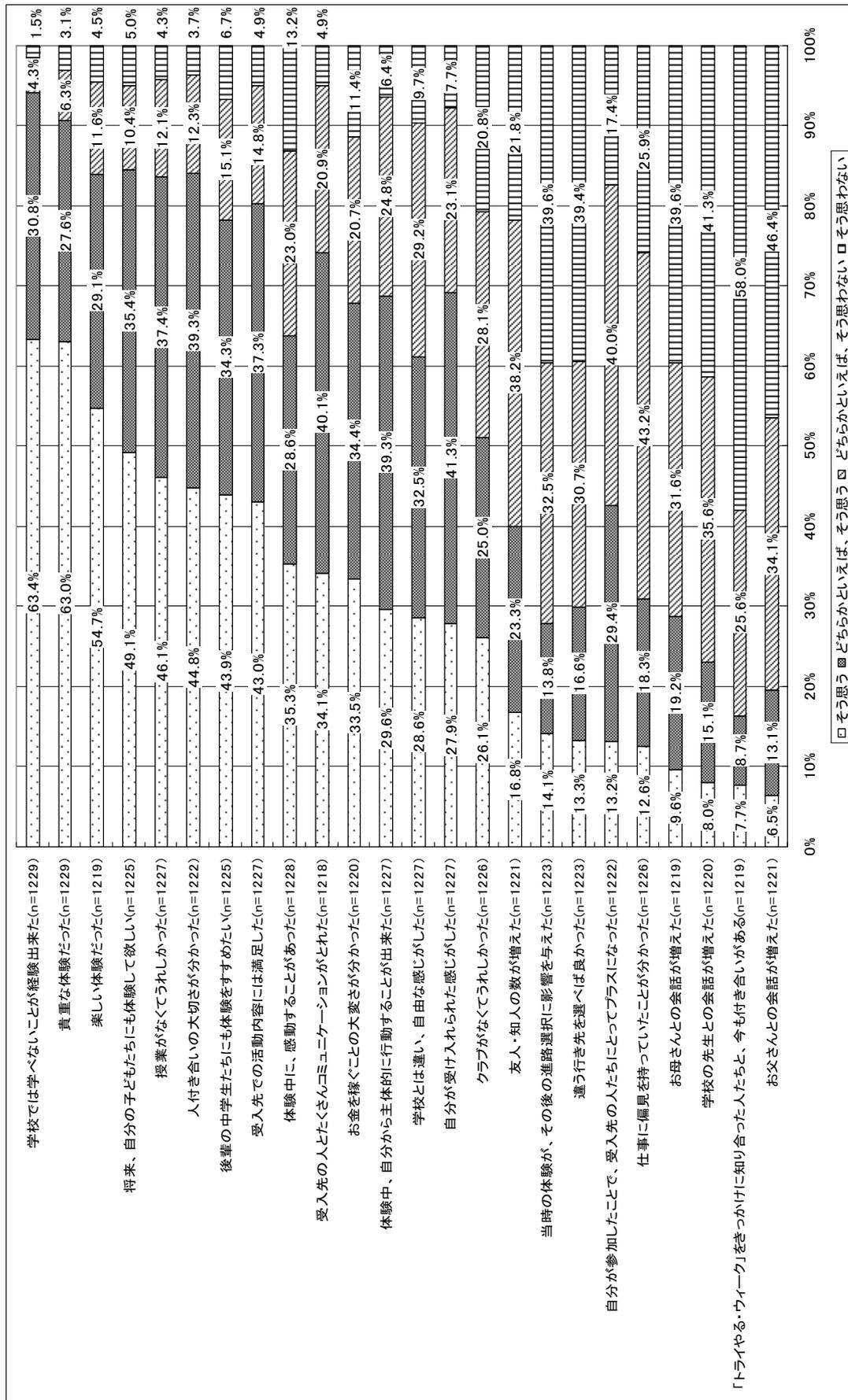


図 9: 「トライやる・ウィーク」の受け止められ方

(2) 父母・教員とのコミュニケーションへの影響

以下の表は、「トライやる・ウィーク」評価検証委員会が実施した調査で、体験前および期間中における家族との会話について尋ねたものである。

評価検証委員会は、約 60%の生徒が体験の内容について家族で話し合っていると答えたことから、「家族との絆を深めたり家族について考えたりする機会」になっていると報告している（「トライやる・ウィーク」評価検証委員会 2003: 12）。しかし、本調査の会話に関する結果では、7～8 割が否定的な回答をしており、「トライやる」体験によって、父母および学校の教員との会話が増えたとは認識していないことが分かる。

また、体験直後の調査においても、保護者では「よく話し合った」「話し合った」とする割合が高い一方で、体験者本人である生徒では低くなっており、親子間で認識にズレが生じていると言える。

この点について、河合隼雄は「対話が増えているという親は多いのに、子どもはそうでもない。子どもが言いたいことを親が聞いていないのでしょう。（中略）下手な親ほど紋切り型です。少し待って話を聞くのが大切です」と述べているという（網 2002: 140）。

表 18：家族との会話（「トライやる・ウィーク」評価検証委員会 2003）

|            | よく話し<br>合った | 話し<br>合った | どちらとも<br>いけない | ほとんど（ママ）話<br>し合わなかった <sup>10</sup> | まったく話し<br>合わなかった |
|------------|-------------|-----------|---------------|------------------------------------|------------------|
| 生徒（事前・期間中） | 16.0%       | 41.1%     | 22.0%         | 14.2%                              | 6.7%             |
| 保護者（事前）    | 16.5%       | 60.0%     | 12.5%         | 9.4%                               | 1.6%             |
| 保護者（期間中）   | 27.2%       | 58.1%     | 9.3%          | 4.6%                               | 0.8%             |

それでは、体験者たちは、現在、「トライやる」での体験と家族とのかかわりをどのように受け止めているのだろうか。まず家族とのコミュニケーションについては、以下のような反応が多かった。

D さん：＜家族と＞よく話す方ですね。小学校のときは、すごい話とかして。で、中学校になったら、それほどしゃべらないですけど。でも大体、今日、こんなことがあったとか、大体学校の友達の名前とか言っても、お母さんだったら大体知ってるので、しゃべるんですけど。でも、トライやる・ウィークのこと、特にトライやる・ウィークだけ何かしゃべったという感じじゃなかったです。いつもどおりでした＜括弧内引用者＞。

<sup>10</sup> 上記項目は、回答選択肢のワーディングが不均衡になっており、「よく話し合った」「話し合った」と回答する方向にバイアスがかかっている可能性が高い。こういったバイアスを避けるためには「ほとんど話し合わなかった」ではなく、「あまり話し合わなかった」といった形にする必要がある。

また、別の体験者は同じように「トライやる」を体験した弟との会話について、「しようもないことばかりで、別にそんな学校の『トライやる』の話は上がってこない。きょうは何した何したっていう、そのぐらいを聞いていたぐらいかな」と語っている。

あるいは、「トライやる」を体験していない姉との会話について「余りしゃべらなかつたですけど、『いいな』って、『学校の授業がないからいいな』って言っていたのは覚えています」と話す体験者もいた。

以上のように、少なくとも現時点においては、「トライやる」を経験したことによって急に家族との会話が増えたとは認識していないようである。その点で、既存調査とはやや異なっている部分もあるが、体験期間中に、家族との話題として「トライやる」がのぼっていたようである。

ただし、今回のインタビュー調査からは、「トライやる」の体験によって家族との会話頻度が増減するといったことよりも、むしろそのコミュニケーションの内容こそが重要であるということがうかがえる。たとえば、Cさんは次のように述べている。

Cさん：やっぱりうちの人が、何でも経験しとくべきやとか言ってくれたら、ああそうか、だってもう一生でけへんかもしれへんやんとか思ったら、経験もいいかもとか思えるかもしれないし。

まだ中学生って、自分たちはもう大人やとか思っているかもしれないですけど、全然だめじゃないですか。だから、やっぱり親とか先生とかもプラスの面とかのところがちょっとでも助言とかしてあげたら全然変わってくるんじゃないかなとは思んですけど。

つまり、親をはじめとする周囲の家族や大人たちが、「トライやる」をどのように捉えているのか、それをどのように子どもに伝えているのかが重要になってくると言える。

### 第3節 受け止められ方の潜在因子とその規定要因

#### 1. 受け止められ方の潜在因子

本節では、「トライやる」の受け止め方がどういった要因によって規定されているのかを検討していこう。しかし、前節で見た24項目にわたる体験学習の受け止め方を1つ1つ検討していくことは現実的ではない。そこで、直接観測された変数に影響を与えている潜在的な因子を抽出するために、各項目とも「そう思う」と答えているほど、得点が高くなるように尺度を反転した上で、因子分析をおこなう。

因子分析は、抽出される因子間に相関があると想定されるため、最尤法・プロマックス回転によって実施した。そして、十分な因子負荷量を示さなかった「お金を稼ぐことの大変さが分かった」を除外して、再度、因子分析をおこなった。

その結果、回転前の固有値1以上の因子が4つ抽出された。次の表は、プロマックス回転後の因子負荷量を示したものである。各質問項目について、もっとも因子負荷量の高い値を太字で囲むとともに、負荷量が.35以上の値を太字にしている。

因子 1 は「楽しい体験だった」をはじめとする、体験学習そのものを肯定的に捉える項目や、後輩や子どもに体験をすすめる項目などが高い因子負荷量を示していることから、＜体験満足度＞の因子であると解釈した。因子 2 は父母および教員との会話が増えたとする項目であるため、＜コミュニケーション活発化＞と命名する。因子 3 は進路や仕事に関する項目の他、友人・知人の数や「トライやる」で知り合った人との付き合い・コミュニケーションが高い因子負荷量を示しているので、＜進路・仕事・つながり＞因子とする。因子 4 は体験そのものよりも、授業・クラブ活動がないことのうれしさや、相対的な学校に対する窮屈さに関連していることから、＜消極的体験満足度＞の因子と解釈する。

表 19：体験学習影響の因子分析結果（プロマックス回転後の因子負荷量）

| 項目                                    | 因子 1   | 因子 2   | 因子 3   | 因子 4   | 共通性 |
|---------------------------------------|--------|--------|--------|--------|-----|
| 楽しい体験だった                              | .842   | .038   | -.073  | .055   | .69 |
| 後輩の中学生たちにも体験をすすめたい                    | .833   | .019   | -.029  | -.025  | .66 |
| 将来、自分の子どもたちにも体験して欲しい                  | .824   | .036   | -.062  | -.015  | .62 |
| 貴重な体験だった                              | .818   | .086   | -.090  | -.037  | .59 |
| 学校では学べないことが経験出来た                      | .780   | .011   | -.139  | -.002  | .51 |
| 受入先での活動内容には満足した                       | .697   | -.016  | .077   | .091   | .61 |
| 違う行き先を選べば良かった                         | -.667  | .074   | .177   | .074   | .32 |
| 体験中に、感動することがあった                       | .646   | .019   | .201   | -.117  | .54 |
| 人付き合いの大切さが分かった                        | .434   | -.025  | .225   | -.041  | .32 |
| 体験中、自分から主体的に行動することが出来た                | .381   | -.096  | .376   | .057   | .45 |
| 自分が受け入れられた感じがした                       | .375   | -.034  | .355   | .061   | .44 |
| お母さんとの会話が増えた                          | .092   | .909   | -.056  | .014   | .81 |
| お父さんとの会話が増えた                          | -.026  | .820   | .054   | .017   | .72 |
| 学校の先生との会話が増えた                         | -.025  | .756   | .184   | .007   | .74 |
| 自分が参加したことで、受入先の人たちにとってプラスになった         | .013   | -.048  | .670   | .020   | .44 |
| 友人・知人の数が増えた                           | .052   | .103   | .581   | -.050  | .42 |
| 「トライやる・ウィーク」をきっかけに知り合った人たちと、今も付き合いがある | -.208  | .188   | .541   | -.047  | .33 |
| 当時の体験が、その後の進路選択に影響を与えた                | .097   | .070   | .513   | -.106  | .33 |
| 仕事に偏見を持っていたことが分かった                    | -.140  | .060   | .500   | .087   | .25 |
| 受入先の人とたくさんコミュニケーションがとれた               | .327   | -.096  | .423   | .060   | .44 |
| 授業がなくてうれしかった                          | .028   | .016   | -.168  | .762   | .52 |
| 学校とは違い、自由な感じがした                       | .107   | .010   | .161   | .504   | .42 |
| クラブがなくてうれしかった                         | -.157  | .014   | .079   | .499   | .23 |
| 寄与率%                                  | 30.663 | 11.531 | 4.333  | 3.090  |     |
| 累積寄与率%                                | 30.663 | 42.194 | 46.527 | 49.617 |     |

因子回転前の固有値 1.0 以上の因子を抽出

## 2. 規定要因としての体験先

### (1) 性別と受け止め方、体験先の相関関係

すでに見たように、男子よりも女子生徒において体験学習の影響が強いことが指摘されている（古田・住本 1999）。そこで、性別および先に抽出した4因子との相関分析をおこなった。各変数間の相関係数を示したものが、次の表である。

その結果、性別と「因子1：体験満足度」および「因子4：消極的体験満足度」との間に有意な関連が認められた。つまり、男性よりも女性において「体験満足度」「消極的体験満足度」の得点が高くなる傾向があると言える。この結果は、一部先行調査を支持するものである。

表 20：性別と潜在因子の関連（相関係数）

| 項目                    | 性別    | 因子 1:<br>体験満足度 | 因子 2:コミュニケー<br>ション活発化 | 因子 3:進路・<br>仕事・つながり | 因子 4:消極的<br>体験満足度 |
|-----------------------|-------|----------------|-----------------------|---------------------|-------------------|
| 性別(男性=0、<br>女性=1)     | 1.0   |                |                       |                     |                   |
| 因子 1:<br>体験満足度        | .21** | 1.0            |                       |                     |                   |
| 因子 2:コミュニケー<br>ション活発化 | -.06  | .16**          | 1.0                   |                     |                   |
| 因子 3:<br>進路・仕事・つながり   | .06   | .63**          | .58**                 | 1.0                 |                   |
| 因子 4:<br>消極的体験満足度     | .05*  | .50**          | .10**                 | .47**               | 1.0               |

\*\*は 1%、\*は 5%水準で有意な値を示す。欠損値はリストワイズで処理。N=1191

しかし、これまでの調査研究において、女性で体験学習の影響が強い背景として、「トライやる」で体験した活動場所が関連している可能性が指摘されている（小林 1999）。

社会体験学習の場の提供は、従来女性の職場進出も多く、また女性の特性を生かせる職場であることが多い。例えば、医療機関において、将来医師として働きたい志望を有する男子生徒も、看護婦志望である女子生徒も、用意される体験内容は「介護補助体験」や「看護補助体験」の場合が多い。また、例えば幼稚園や保育園を男子生徒が希望しても、自らの「モデル」たりうる同性の「保父」等がいる職場はきわめて少ない。このような傾向が、本尺度における性差として反映したのではないかと推測される。

今後、地域社会との一層の交流を図りながら、特に男子生徒の体験内容を検討する必要がある。また、学校にあっては、（古田・住本）も指摘するように、今後「トライや

る・ウィーク」を啓発的体験学習の観点からも捉え返し、学校における進路指導、特に職業的発達や進路成熟の観点からの位置づけを行う必要もあるものと思われる（小林1999）。

上記のように、小林は男女で違いが生じるのは、「女性の特性を生かせる職場であることが多い」こと、および男子生徒にとっての「モデル」が少ないからではないかと推測している。

そこで、まず性別および活動場所と、上記の因子とがどのように関連しているのか、分析する必要がある。本調査では、『トライやる・ウィーク』で活動した場所は、どこでしたか（例：幼稚園、病院）」という自由記述形式で、活動場所を尋ねている。そこから、体験先のカテゴリを作成したところ、度数が30ケース以上の10カテゴリとなった。次の表は、各カテゴリと人数およびその割合を示したものである。

ただし、5日間の期間中に2カ所以上の体験先に行った者もいるため、合計は1258ケースを上回る。また割合は、この合計に占めるパーセンテージを示している。

表 21：体験先カテゴリと度数

| 体験先カテゴリ            | 人数   | 割合     |
|--------------------|------|--------|
| 1 幼稚園・保育所          | 320  | 24.3%  |
| 2 スーパー・コンビニ        | 133  | 10.1%  |
| 3 飲食店              | 113  | 8.6%   |
| 4 福祉施設             | 98   | 7.4%   |
| 5 個人商店・自営業等        | 59   | 4.5%   |
| 6 公的施設(図書館・公民館・役所) | 53   | 4.0%   |
| 7 医療機関             | 52   | 3.9%   |
| 8 農家等              | 43   | 3.3%   |
| 9 小学校              | 36   | 2.7%   |
| 10 工場              | 30   | 2.3%   |
| その他                | 340  | 25.8%  |
| 無回答                | 42   | 3.2%   |
| 合計                 | 1319 | 100.0% |

次に、10 カテゴリの中で比較的多くの人々が活動していた「幼稚園・保育所」「スーパー・コンビニ」「飲食店」「福祉施設」と、性別および先に抽出した因子との相関関係を検討する。

以下の表は、性別、4つの潜在因子、4カテゴリの活動種類についての相関係数を示したものである。ここから、次のことが分かる。

先に確認した通り、男性に比べて、女性は「体験満足度」および「消極的体験満足度」において、得点が有意に高くなっていた。

しかし、性別と「幼稚園・保育所」にプラスの相関、「スーパー・コンビニ」にマイナスの相関があった。この点から、女性は「幼稚園・保育所」、男性は「スーパー・コンビニ」で体験している割合が高いことが分かる。また、体験満足度と「幼稚園・保育所」にプラスの相関、体験満足度と「スーパー・コンビニ」にマイナスの相関があり、活動場所によって満足度が異なっているのである。

ここから、性別と満足度の関連は、疑似相関である可能性が考えられる。つまり、満足度を高める「幼稚園・保育所」という活動場所に、女性が多く参加していることにより、性別と満足度が関連しているように見えるという可能性である。そこで、こういった相関が擬似的なものではないか、また他の因子についてもどのような要因によってどの程度規定されているのかを明らかにするために、以下では重回帰分析をおこなって検討する。

表 22：性別と潜在因子・体験先の関連 (相関係数)

| 項目                    | 性別     | 因子 1:<br>体験満足度 | 因子 2:コミュニケ<br>ーション活発化 | 因子 3:進路・<br>仕事・つながり | 因子 4:消極的<br>体験満足度 | 幼稚園<br>・保育所 | スーパ<br>ー・コンビニ | 飲食店    | 福祉<br>施設 |
|-----------------------|--------|----------------|-----------------------|---------------------|-------------------|-------------|---------------|--------|----------|
| 性別(男性=0、女性=1)         | 1.0    |                |                       |                     |                   |             |               |        |          |
| 因子 1:体験満足度            | .21**  | 1.0            |                       |                     |                   |             |               |        |          |
| 因子 2:コミュニケーション<br>活発化 | -.06   | .17**          | 1.0                   |                     |                   |             |               |        |          |
| 因子 3:進路・仕事・<br>つながり   | .06    | .63**          | .58**                 | 1.0                 |                   |             |               |        |          |
| 因子 4:消極的体験<br>満足度     | .06*   | .51**          | .11**                 | .48**               | 1.0               |             |               |        |          |
| 体験先:幼稚園・保育所           | .34**  | .32**          | .03                   | .21**               | .07*              | 1.0         |               |        |          |
| 体験先:スーパ<br>ー・コンビニ     | -.16** | -.16**         | -.00                  | -.08**              | -.04              | -.18**      | 1.0           |        |          |
| 体験先:飲食店               | .06    | .08**          | .03                   | .05                 | .07*              | -.19**      | -.10**        | 1.0    |          |
| 体験先:福祉施設              | .07*   | -.01           | -.05                  | .01                 | -.07*             | -.15**      | -.09**        | -.08** | 1.0      |

\*\*は 1%、\*は 5%水準で有意な値を示す。欠損値はリストワイズで処理。N=1191

(2) 規定要因の検討

重回帰分析でもちいる変数を次の表に示した。「トライやる」に直接関係しない説明変数としては、性別、年齢といった基本的な属性の他、同居人数や食事頻度、友人数を含めている。既存調査によって、「トライやる」が家族のコミュニケーションに影響を与えるという指摘がなされていることから、同居人数や食事頻度について検討する必要があると考えられる。

「トライやる」に関連する項目としては、活動先までの所要時間、活動の種類への印象<sup>11</sup>、そして活動場所を説明変数としている。所要時間および活動の種類は、いずれも聞き取り調査において体験の受け止め方にかかわる項目であることが明らかになったものである。たとえば所要時間については、活動先が遠いことため「毎日行き帰りが嫌で1週間毎日行かなくちゃあだめだったから、それが嫌でした、行くのが、と帰りに行くのが」といった声が聞かれた。

表 23：重回帰分析にもちいる変数

|       |                          |  |
|-------|--------------------------|--|
| 説明変数  | 性別                       | 女性=1、男性=0 を割り当てるダミー変数  |
|       | 年齢                       | 調査時年齢  |
|       | 同居人数                     | 15 歳時の同居者数の実数(単位:人)  |
|       | 食事頻度                     | 15 歳時の食事頻度。ほぼ毎日=1、週に 4~5 日=2、週に 2~3 日=3、                         |
|       | 活動先までの所要時間               | 実数(単位:分)   |
|       | 活動の種類(印象)                | 多いと思った=1、どちらかといえば多いと思った=2、どちらかといえば少ないと思った=3、少ないと思った=4            |
|       | 活動場所                     | 幼稚園・保育所、スーパー・コンビニ、飲食店、福祉施設について、それぞれあてはまる=1、あてはまらない=0 を割り当てるダミー変数 |
| 被説明変数 | 「トライやる」の受け止め方に関する 4 つの因子 | 「体験満足度」「コミュニケーション活発化」「進路・仕事・つながり」「消極的体験満足度」                      |

表 24 は 4 因子を被説明変数とした重回帰分析の結果である。性別、年齢、同居人数、食事頻度を投入したモデル 1 では、「体験満足度」および「コミュニケーション活発化」のみ有意であるが、「トライやる」関連変数を含めたモデル 2 ではすべてが有意なモデルとなっている。

まず、「体験満足度」について見てみよう。性別、活動種類、体験場所の内「幼稚園・保育所」「スーパー・コンビニ」「飲食店」が有意な効果を持っていた。ここから、男性に比べて女性で「体験満足度」の得点が高いことが分かる。「活動種類への印象」の効果は、1%水準で有意であり、かつ標準化偏回帰係数の値が.149 と比較的強くなっている。つまり、「体験満足度」を高めるためには、少なくとも体験者たちが「多い」と感じられる程度の活動種類を確保することが重要である。また、この「活動種類への印象」は「コミュニケーション活発

<sup>11</sup> 本調査では「トライやる」における活動種類の実数も尋ねている。しかし、回答が 1 種類から 300 種類まで幅が広く、記憶違いの可能性も低くないことから、実数ではなく、4 件法で尋ねた活動の種類への印象をもちいることとした。

化」をのぞく 3 因子に対して有意な効果を持っている。したがって、「トライやる」という体験活動において、活動種類の確保は重要な要素になっていることが分かる。

活動場所については、「幼稚園・保育所」「スーパー・コンビニ」「飲食店」が有意な効果を持っていたが、特に「幼稚園・保育所」の効果が強くなっていた。この「幼稚園・保育所」で体験したことの効果は、「コミュニケーション活発化」および「進路・仕事・つながり」に対しても有意となっている。つまり「幼稚園・保育所」で体験するということが、「トライやる」の受け止め方を非常に強く規定していることが分かる。この点は、「飲食店」もほぼ同様であり、「体験満足度」の他「進路・仕事・つながり」および「消極的体験満足度」に対しても有意な効果を持っていた。

ただし、一方で「体験満足度」に対してのみではあるが、「スーパー・コンビニ」の持つ効果はマイナスとなっていた。このように体験場所によって「トライやる」の受け止め方が異なることは、この体験学習が持つ大きな特徴の 1 つと言えるが、負の効果を持つという点については、改良の余地があると言えるだろう。

次に「コミュニケーション活発化」については、「幼稚園・保育所」での体験の他に、「同居人数」および「食事頻度」が有意となっていた。また、標準化偏回帰係数は「食事頻度」が.123、「同居人数」が.090、「幼稚園・保育所」が.083 となっていた。したがって、父や母、教員とのコミュニケーションの活発化をはかるためには、むしろ日ごろから食事をともにとるなどコミュニケーションの場の確保が重要となっていることが分かる。

「進路・仕事・つながり」については、3 つの活動場所に加えて、「活動種類への印象」および「食事頻度」が有意な効果を持っている。活動場所による効果のなかでは、「体験満足度」と同様「幼稚園・保育所」によるものが強くなっていることが分かる。また、活動場所では「福祉施設」による効果は、この「進路・仕事・つながり」において唯一有意となっている。

「消極的満足度」については、「活動種類への印象」「飲食店」の 2 項目をのぞき、いずれも有意な効果を持っていなかった。また、調整済み決定係数が.015 となっていることから、モデルが持つ説明力自体が低いものとなっている。

モデルが持つ説明力については、「体験満足度」で約 15%、「進路・仕事・つながり」で 7% となっている。しかし、「コミュニケーション活発化」については「消極的満足度」と同様に非常に低くなっている。したがって、「トライやる」の受け止め方の規定要因を探るためには、本調査でもちいられていない項目についても検討していくことが必要になるだろう。

最後に、先の相関分析における性別と満足度の関連が疑似相関か否かという点を検討しておこう。すでに見たように、「体験満足度」に対する性別が持つ効果は、標準化偏回帰係数で.073 であるのに対して、「幼稚園・保育所」の効果が.292 となっていた。つまり、性別と満足度の間には実際に関連が認められるものの、相関係数で高い値が示されていたのは、一部「幼稚園・保育所」への女子の参加が多いことによるものであることが分かる。

また、性別が有意な効果を持っているのは「体験満足度」のみであるのに対して、「幼稚園・保育所」および「飲食店」は「トライやる」の受け止め方に関する 4 因子の内、3 つに対して効果を持っている。したがって、「トライやる」全般については、男性より女性で影響が強いということは出来ず、むしろ、体験先の効果が大きいと言える。

では、さらにこういった規定要因に性別による違いがないのか、より詳細に検討してみよう。

表 24: 「トライやる」の受け止め方に関する重回帰分析

|               | 因子 1: 体験満足度 |        | 因子 2: コミュニケーション活発化 |        | 因子 3: 進路・仕事・つながり |        | 因子 4: 消極的体験満足度 |        |
|---------------|-------------|--------|--------------------|--------|------------------|--------|----------------|--------|
|               | モデル 1       | モデル 2  | モデル 1              | モデル 2  | モデル 1            | モデル 2  | モデル 1          | モデル 2  |
| 女性ダミー         | .181**      | .073*  | -.031              | -.056  | .062*            | -.027  | .045           | .028   |
| 年齢            | -.067*      | -.049  | -.006              | -.004  | -.010            | .001   | -.021          | -.017  |
| 同居人数          | .029        | .034   | .090**             | .090** | .048             | .052   | -.031          | -.028  |
| 食事頻度          | .014        | .036   | .116**             | .123** | .043             | .062*  | -.004          | .001   |
| 活動場所までの所要時間   |             | -.016  |                    | .020   |                  | .021   |                | -.016  |
| 活動種類への印象      |             | .148** |                    | .010   |                  | .110** |                | .088** |
| 体験: 幼稚園・保育所   |             | .292** |                    | .083*  |                  | .254** |                | .045   |
| 体験: スーパー・コンビニ |             | -.063* |                    | .008   |                  | -.003  |                | -.026  |
| 体験: 飲食店       |             | .118** |                    | .035   |                  | .101** |                | .066*  |
| 体験: 福祉施設      |             | .040   |                    | -.021  |                  | .068*  |                | -.058  |
| 調整済み決定係数      | .042**      | .149** | .019**             | .021** | .005             | .070** | .000           | .015** |

標準化偏回帰係数( $\beta$ )を示す。\*\*は 1%水準、\*は 5%水準で有意な値を示す。N=1131

表 25 は、モデル 2 の結果を男女別に示したものである。ここでは特に「トライやる」に直接関連するものについて検討していこう。まず、男女別に示すことで分かることは、今回採用したモデルは、どの因子に対しても女性においてより当てはまりが良いということである。「体験満足度」および「進路・仕事・つながり」については、女性でより決定係数が高くなっていたが、他の 2 因子に対しては男性ではモデル自体が有意でなくなっていた。

「体験満足度」に対して男女とも有意になっていたのは「活動種類への印象」「幼稚園・保育所」「飲食店」の 3 項目だった。ただし、「活動種類への印象」「幼稚園・保育所」については女性、「飲食店」については男性でより効果が大きくなっていた。つまり「幼稚園・保育所」での体験は女性でより満足度を高めるのに対して、「飲食店」は男性に大きな影響を与えていることが分かる。

こういった性別による違いは「進路・仕事・つながり」においても、ほぼ同様の傾向が見られる。体験場所の効果としては、「幼稚園・保育所」が女性に強く、「飲食店」が男性に強く出ている。加えて、女性では「福祉施設」も 1%水準で有意な効果を持っていた。つまり、「福祉施設」で体験した女性は、「自分が参加したことで、受入先の人たちにとってプラスになった」「友人・知人の数が増えた」「トライやる・ウィーク」をきっかけに知り合った人たちと、今も付き合いがある」といった項目に対して肯定的に答える傾向が高まると言える。

以上から、「幼稚園・保育所」および「飲食店」での体験は、「トライやる」をより充実したものとするために大きな影響を与え、また「福祉施設」での体験は女性に対してのみ有意な効果を持つ場合もあることが分かった。つまり、「トライやる」の受け止め方を規定する要因は、性別によって異なる部分もあるが、上述したようにやはり体験先が持つ効果の方がより大きいと言える。

表 25：男女別「トライやる」の受け止め方に関する重回帰分析

|               | 因子 1: 体験満足度 |        | 因子 2: コミュニケーション活発化 |        | 因子 3: 進路・仕事・つながり |        | 因子 4: 消極的体験満足度 |        |
|---------------|-------------|--------|--------------------|--------|------------------|--------|----------------|--------|
|               | 男性          | 女性     | 男性                 | 女性     | 男性               | 女性     | 男性             | 女性     |
| 年齢            | -.035       | -.059  | .014               | -.019  | .000             | .000   | -.031          | .000   |
| 同居人数          | .103*       | -.016  | .068               | .110** | .084             | .030   | .045           | -.084* |
| 食事頻度          | .047        | .029   | .098*              | .146** | .044             | .077*  | .027           | -.019  |
| 活動場所までの所要時間   | -.022       | -.015  | -.010              | .063   | .007             | .040   | -.004          | -.032  |
| 活動種類への印象      | .113*       | .187** | .031               | -.008  | .084             | .136** | .106*          | .075   |
| 体験: 幼稚園・保育所   | .229**      | .309** | .029               | .110*  | .183**           | .282** | .106*          | .000   |
| 体験: スーパー・コンビニ | -.063       | -.056  | .036               | -.034  | .014             | -.022  | -.007          | -.039  |
| 体験: 飲食店       | .144**      | .106** | .012               | .056   | .129**           | .086*  | .085           | .044   |
| 体験: 福祉施設      | .035        | .042   | -.054              | .000   | .009             | .106** | -.022          | -.094* |
| 調整済み決定係数      | .087**      | .136** | .001               | .033** | .041**           | .090** | .014           | .015*  |

標準化偏回帰係数( $\beta$ )を示す。\*\*は 1%水準、\*は 5%水準で有意な値を示す。男性 N=487、女性 N=644

## 第5章 「トライやる・ウィーク」の背景とその影響

### 第1節 背景としての体験現場

#### 1. 指導ボランティアのスタンス

ここまで、体験者たちの語りから、どのような影響があったと受け止められているのかについて検討してきた。次に、そういった影響を生み出してきた背景としての「トライやる」の現場に目を向けてみよう。ここでは「トライやる」において家庭、学校とともに重要な役割を果たしている指導ボランティアについて注目する。

##### (1) 陶芸教室・Qさんの場合

Qさんは「トライやる」実施と同時に受け入れを始め、陶器制作を指導している。最初の年は8人、もっとも少なかった年で2人、平均すると5人くらいを受け入れており、だいたい男女は半々であるという。基本的に一人で指導しているが、粘土を乾かすためには3～4時間の時間がかかる。その間、生徒たちに何もさせず待つわけにはいかないので、Qさんの妻が染め物を教えている。

「普通の陶芸教室とは違う」として、まず陶器の原料になる粘土をつくることから始めるという点を挙げている。「トライやる」1日目の作業としては、岩のような粘土層の固まりをたたいて粉にし、ふるいにかけてさらに細かくするということがある。体力を使うということもあり、ここが生徒たちにとって一番苦しい作業になるそうである。

粘土をつくるという作業におよそ1日半かかり、そこからいわゆる「普通の陶芸教室」同様に制作に入る。特に「菊練り」という、粘土の内部から空気を出す作業は重要であるという。Qさんはその理由として、きちんと空気を抜いておかなければ、釜のなかで粘土が爆発すること、爆発を起こした場合は自分の作品のみならず、一緒に焼いている友だちの作品まで傷つけてしまうということに言及している。制作は、最初に簡単なお皿の制作から入り、湯呑みコップをつくり、最後にその年の干支の置物に至る。

Qさんは、親戚の中学教員から依頼を受け、「トライやる」の受け入れ先として、ガソリンスタンドや飲食店は多いが、創作活動が少ないと言われ、指導ボランティアをすることになった。使い捨てられる道具や、ファーストフードのような食べ物など、スピード感あるものがもてはやされる傾向が強いということに疑念を感じている。そこで非常に時間がかかるが、1つ1つに味がある作品をつくる陶芸という営みをとおして、1つのものでも大切にすることを伝えているという。

最初にそういうことを話した時と、実際に作業を終えてからでは、中学生の受け止め方が異なっていることを、次のように述べている。「そのときは最初やから、ふんふんふん言うて聞くけどね。作業かかってでき上がったら、なるほどあれ、いやこんだけ時間かかったなという実感をして、体験できたと思いますね」。

このように、Qさんは「トライやる」の5日間を通して、中学生が変化していく過程を実感するという。そういった変化を及ぼす背景には、市販の粘土を買ってきて手軽に陶芸を始めるといった「普通の陶芸教室」とは異なり、粘土をつくるという大変な作業が含まれていることや、ただ待つだけの時間をつくらない、あるいは易しいものをつくることからステップアップしていくという配慮、そしてものを大切にしたいという伝えたい気持ちがあるということがうかがえる。

また、Qさんはボランティアとしてただ単に「与える」ばかりではないと考えている。遊び盛りの中学生が来ることで、怪我の心配など「ちょっと煩わしいこともあるけれども、職場全体が気分転換できる」と、自分自身にもプラスがあると受け止めている。この点は、Qさんが指導ボランティアを続けていく上でも、「トライやる」という事業が続いていく上でも重要であろう。

## (2) 農業協同組合・Rさんの場合

Rさんは県内の農協において、「トライやる」受け入れの担当をしている。農協では、受け入れ人数が0人の年もあるが、平均すると4~5名の中学生を受け入れている。比較的、男子生徒の方が多くなっているという。Rさん自身は2年前に前任者から引き継いでいるため、「トライやる」を受け入れるようになった経緯等については分からないという。

「トライやる」用のプログラムとして、中学生が一通りの体験をできるように、農協内でも5カ所くらいの部署を回る日程を組んでいるという。具体的には、配送や箱流し作業補助、ヨーグルト製造・充填補助、荷造り作業補助といった作業で、商品の品質に影響がない範囲において「トライやる」の中学生に担当させている。

6月に「トライやる」を受け入れていること、そして工場の空調設備が小規模であることによって、特にヨーグルトの充填場は非常に暑く中学生にとって大変な作業になっているという。ただし、最初からあまり大変すぎてもかわいそうだという配慮から、作業時間を短めに設定している。

それぞれの現場で仕事の直接的な指導にあたるのは、その現場の担当者になっている。そのため、Rさん自身がそれぞれの中学生と直接コミュニケーションをとることはあまりない。複数の部署を体験するというスケジュールを組んでいるため、子どもたちは毎日新しい現場で知らない人と出会うことになり、その点は大変なのではないかと感じている。

それでも、現場の人は快く対応しており、なかにはシルバー人材センターから来ている人が、孫に接するような感じで優しく指導にあたっている場合もあるという。「トライやる」の受け入れにあたって「そんなかたつくらしいことは現場の人に直接指導したわけではないので、いろんな自分の思いを話す人もあつたり」とRさんが語るように、現場担当者から人生論のようなものを聞いたという体験者もいるという。

中学生の段階では将来の職業が決まっていない人が大半であり、また上記のような現場担当者と中学生のかかわりを踏まえて、Rさんは「トライやる」の意義を、「仕事

を体験するのと大人と接する」という点に見いだしている。

R さん：大人の人と一緒に仕事をするっていうこと、それがいいん違うかなって思いますけどね。全然知らない人に出会うわけじゃないですか。そういったなかで優しくしてくれることもあるでしょうね。

厳しさもある。でも私は子どもには言うんですけど、あんたらが経験したほど仕事は甘いのと違うよ言うんですけどね、けどまあそうじゃないですか、実際は。

そんな厳しいとこなんて、覚えるところまでは全然無理なわけで、だからこうやって働いてる人がいるっていう、人間と人間の、何ていうのかなあ、そういう人と接して一緒にちょっと仕事をしたっていうね、勉強とは違う、何か体験もできて。

このように知らない大人と出会うなかで、優しくされることもあるという点に言及する一方で、「トライやる」の 5 日間では仕事の本当の厳しさは分からないともいう。ただし、実際にその職場で働き続けるならともかく、体験学習をする上ではそれ以上長くても意味はなく、ちょうどよい期間だと感じている。そして、この 5 日間では「トライやる」が掲げる「心の教育」の部分を重視して、もしその後「仕事としてそれをしてほしい」という人がいれば「トライやる・アクション」という形で体験すればいいのではないかと、R さんは提案している。

また R さんの語りからは、指導ボランティアたちと接するなかで、直接大人からの影響を受けるのみではなく、一緒に参加した仲間同士の関係においても、受け入れ先の大人の配慮が働いていることがうかがえる。R さんによると、初日はみんなにこにこしている。しかし、その後疲れた顔でやって来る中学生がいたことを見つけた時、次のような対応をとったという。

R さん：この子がムードメーカーやなって思った人にちょっとね、一日目でもうちょっと疲れが出たような子に、ちょっと大丈夫か聞いてきてと言って、ちょっと励ましてあげてとかって言って（中略）おとなしかった子励ましに行って、おい頑張れよと、言ってくれたことがありましたね。

先に見たように、「トライやる」の体験者たちは、本当の厳しさを伴う実際の仕事をしなくても、ある程度その現場の大人たちから配慮を受けていることを理解していた。しかし、R さんのケースから、直接的な部分のみならず、間接的にも何らかの配慮を受ける場合があるということがうかがえる。

R さんは、こういった「トライやる」を経験しても「何が残ったというほど、目に見えてっていうものを期待しても、それはないと思う」と語る。それでも、子どもたちの時間に余裕がある限り「トライやる」は体験して欲しいと思うし、大切だと考えている。

### (3) 保育所・Sさんの場合

Sさんが所長をしている保育所では、毎年付近の中学生10名ほどを受け入れている。参加する中学生は、7対3くらいの割合で女性が多い。近隣の中学校、小学校とは「トライやる」によるつながりのみではなく、連携を保っており、グラウンドを借りたり、中学校の運動会を見学に行ったり、小学校が取り入れているオペレッタの鑑賞に5歳児も参加したりといった具合である。Sさん自身は3年前に赴任してきたため、受け入れに至った経緯等、それ以前のことは知らないが「トライやる」が始まった年くらいから受け入れをしていたのではないかと話す。

「トライやる」の受け入れに際して、特に活動のプログラムといったものは準備していない。各部屋には保育士が2名ずつ入っており、中学生は保育士の指示で動くことになる。保育所には、ゼロ歳児から5歳児までいるが、中学生にゼロ歳児を任せるのは難しい。そこで、1～5歳児までの5つのクラスに、2名ずつペアで入ってもらうことにしている。

園児の安全が第一であることから、やるべき作業は取捨選択をして、中学生でも無理のない範囲で活動してもらっている。中学生たちは、一緒に遊ぶといったことについては、しっかり遊んでくれるし、結構上手であるという。「トライやる」で保育所にやってくる中学生たちは、基本的に子どもが好きで、将来保育士を目指していたり、幼児教育にかかわる勉強に興味をもっているという。

それでも、園児の昼寝の時間であっても、眠らずにぐずつく園児の対応や、保育にかかわる日誌や保護者に対する文書作成などで気を緩めることは出来ない。体験した中学生たちは、保育士の仕事が思っていたよりもハードだという感想を述べるそうである。しかし、そういった感想も日にちを経るにつれて、変わっていく。具体的には、「くたびれました」「大変なんだということが分かりました」といった1日目、2日目のものから、後半では「子どもとこんな遊びができた」「いい体験ができた」というように変化するという。

また、保育所で中学生たちに注意していることとしては、保護者にも明るくあいさつすることや、園児にかかわる際、上から見下ろすのではなく、しゃがんで子どもの目線で話すこと、集団から外れて一人だけ滑り台やうんていなど、やや怪我をしやすい遊具に近づく子どもにもきちんと気を配ることなどを挙げる。ただしそういったことを伝えるにも、最初にいくつも項目を挙げて説明しても忘れてしまうだろうから、「こういう遊びの時は、こことここを注意して」といった形で、その場その場で注意するようにしている。

保育所として中学生を受け入れると、園児に対応する人数が増えるために、子どもの安全により目が行き届くようになるとして、保育所にとってもプラスになると述べる。加えて、体験者たちは「子どもの遊びのなかでしっかりかかわって」くれるため、園児たちはすぐになついていくという。Sさんはこの点で、保育所にいる園児たちにとっても、「トライやる」がプラスになっていると考えている。またSさんの保育所に

勤める保育士も、中学生が来ることで、保育所の子どもたちが喜び、その様子を眺めていると自分まで嬉しくなると述べる。

このように、「トライやる」を非常に肯定的に捉えている S さんは、「トライやる」が始まった当初、高等学校に勤めていた。その時、高校で「トライやる」の中学生を受け入れてもらえないかという打診を受けた。しかし、資格のない中学生では教えることはもちろん、高校生相手に話をするのもなかなか難しいと考えた。

校庭の草抜きや倉庫の掃除をすることも考えたが、それは「中学生にとって働くことのおもしろくなさを、意欲を失わせる行為になる」という理由から、受け入れを断ったという。やることがないから、掃除しなさい、草抜きしなさいということは、「時間つぶしで、中学生の教育には全く無理だと思います」と考えている。一方で、同じ掃除や草抜きであっても、それにどういった意味があるのかによって、中学生に与える影響はまったく異なるとして、次のように述べている。

S さん：働いている職員にとっても、トライやるで来た中学生たちにしても、ここに来て園児たちが安全で安心して気持ちよく、園児を中心に、子どもにとって何がいいかっていう価値判断で作業をしたり、仕事に当たってますね。

そうすると、布団を干すことも、掃除することも、お絵かきすることも、園児がどう喜んでくれるかいう、結局ここに来ている乳幼児にとってどっちがいいかっていう価値観、価値判断で、こうしてやることが子どもたちのためっていう思いで中学生に考えさせたら、この掃除、中学生だと保育所のためっていうより子どものためっていう。

だから、働かされてるっていう思いでなしに、子どもが喜んでくれるかどうか。その意味では、わかりやすい仕事の体験の場だと思いますよ。だから、保育所の先生は、子ども中心に考えてるんだというのがわかってくれたときには積極的になるし、また来ようかっていう。そのなかで、人に喜んでもらえる、子どもに喜んでもらえるというのは、やりがいのある部分というのも体験できてると思いますね、5日間で。

以上のように、S さんたちは体験者が保育士の仕事の大変さを身をもって知ることなどを、「トライやる」による影響として語っている。また、「トライやる」において中学生が保育所を訪れることで園児が喜び、その点で保育所自体にとってもプラスになっているということがうかがえる。

保育士の仕事は、中学生にとって想像以上にハードなものとなっていた。しかし、その背景では、掃除 1 つをとっても、単なる時間つぶしではなく、子どもたちのためになっているのだという、その作業や仕事の意義が、体験者たちに十分伝わっているということが重要な要素になっていると考えられる。

#### (4) 女性センター・T さんの場合

T さんは、これまで複数の女性センターに勤めてきており、現在、兵庫県内の女性センターで所長をしている。女性センターとは、女性の自立や社会参加を支援する拠

点であり、情報の収集や提供、研修会の開催、調査研究など総合的な機能を持っている。都道府県、市町村等自治体が設置するものであるが、現在では公設民営の施設が増えているという。

「トライやる」が始まった時、Tさんは現在とは別の女性センターにおいて「トライやる」の受け入れ担当者をしていました。初年度は、4～5人の女子生徒ばかりだったが、先例がないものを受け入れるということで、楽しくもあったが、5日間きちんと来てくれるのかどうか、無事に来て機嫌良く帰ってくれるか、3日目あたり疲れてはいないかなど、心配もあり気を遣ったという。

女性センターでは、2～4人の受け入れのこともあれば、年度やセンターの規模、付近の受け入れ可能先の状況によって、20人を受け入れることもある。内容としては、どういった業務をしているのかなど、センターを知ってもらうための講義や、館内の案内、DV被害者のために名刺サイズリーフレットの作成等をおこなっている。また、リーフレット作成については、名刺サイズにして女子トイレに置くということを伝え、ずっと監視されているようなDV被害を受けている人でも一人になることができ、リーフレットを鞆に忍ばせることができるからと、その理由も説明する。

ある年、Tさんが勤めていたセンターで二人の女子生徒を受け入れた。「トライやる」に先だって、先生側から「なかなか自分の気持ちを伝えにくい子なんで」と事前に伝えられていた。実際にそう言われた生徒は非常におとなしかったが、反対に他方はしっかりと意思などを伝えることができるタイプだったという。

Tさんは、名札をつけるかつけないか、体操服にするか制服にするかなど、「自分たちで決めて良い」ということにしたという。2人でいろいろなことを相談して決めることになったが、「トライやる」の期間中にとってもしゃべるようになったという印象はなかった。

しかし終了後、受け入れ先として「トライやる」の成果発表会に呼ばれた時、おとなしかった子も自分を見つけて一生懸命手を振ってくれたという。Tさんはそれを見て、「自己表現できるんやわ」と感じた。発表会での様子も、しっかり伝えられる方に任せ切りになることはなく、きちんと交代でやっていたという。そんなに大きく変わったというわけではないが、「ちょっと変わったと思う」と語る体験者を見て、「ああ、よかったな」と実感した。

また、乳幼児の一時保育もおこなっているため、「トライやる」の体験者も保育にかかわることがある。しかし、ある男子生徒は、乳幼児とかかわった経験がほとんどなかったこともあり、最初はどのようにいいか分からなかったと話していたという。そこで、生徒たちはまず自分たち同士でブロック遊びを始めた。そうすると、年齢の若いお兄ちゃん、お姉ちゃんであるということもあって、次第に子どもたちが集まり、とても喜んだという。

さらに「トライやる」の生徒たちがいたことで、「子どもが喜んでました」と保護者からの声が寄せられた。Tさんは「トライやる」では短絡的に1つのことをさせて終わるのではなく、向かい合う子どもにも親御さんがいるということから、中学生たちに、自分が幼い頃、働いていた母はどうしていたのか、こういうセンターはなかった

のか、といったことに思いをはせてもらうことが重要であると考えている。

また決して中学生も家族と学校だけで生きているのではないということ、そういった点において広がりを持たせることが、公共施設で受け入れる時の良さ、1つの使命であると感じている。このように Tさんは「トライやる」をとおしていくらかでも体験者に変化が見られること、また日常的に家族と学校という狭い範囲だけで生きている中学生が思考に広がりをもてるようながすことなどに、意義を見いだしている。

しかし、その一方でいくつかの問題点も感じている。たとえば初年度に受け入れた際、センターが新設であったにもかかわらずよく来てくれたと喜んだが、中学生から「第4志望でもなかった」と聞いた。中学生では女性センター自体知らないだろうし、恐らく抽選か先生側の声かけで決まったのだろうなと感じた。また、Tさんは初年度に近くの文具屋が、「トライやる」の生徒を受け入れると手を挙げたにもかかわらず、希望者がいなかったということで非常に失望していたことが、印象に残っているという。

さらに学校側に対しては、個人情報の扱いにもう少し注意が必要だと感じている。受け入れの際、生徒の住所等が記載されているファイルを受け取ったからである。女性センターは公共の機関であるからともかく、「トライやる」の受け入れ先に対して個人情報を流す必要はないということを学校側に伝えるとともに、センター内では、個人情報を消した上で回覧した。

Tさんはまた、「トライやる」の受け入れ先がどういった仕事内容であるかによって、男女の偏りが大きいという点に言及している。たとえば、介護の施設に行くのは女子生徒で、ゴミパッカー車に乗るのは男子生徒という具合に、生徒も周囲の大人も性別役割への思い込みが強いという。だからこそ、チャンスがあれば事業所の受け入れ担当者や、学校の先生に対して、「トライやる」の行き先を決定するのは性別ではないということを伝えたいと考えている。

#### (5) コンビニエンスストア・酒屋・Uさんの場合

コンビニエンスストアと酒屋を合わせて3店舗経営するUさんは、各店舗に3~4人ずつ「トライやる」の生徒を受け入れている。性別はおおよそ半分ずつになっているという。

コンビニエンスストア、酒屋のいずれにおいても、「トライやる」の中学生用に何らかのプログラムを組んでいるわけではなく、「アルバイトのマニュアル」にのっとって仕事をしてもらっている。具体的には、いらっしゃいませという声を出して接客したり、棚に商品を陳列したり、店舗の掃除をする。また、慣れてきた生徒は、レジに入ってバーコードを通し、金銭の授受をするという。

したがって、「トライやる」の中学生たちは基本的にアルバイトと同じ仕事をするようになる。仕事のなかには、中学生にできることと、できないことがあるが、Tさんは中学生に合わせて基準を下げるのは、「トライやる」の本来の趣旨から外れる上にナンセンスではないかと考えている。中学生にとって現時点ではできないことであって

も、将来肉体的に成長すればできるようになることであったり、本人が努力する必要のあることであったりすると感じている。そして、「今は無理でも、今は無理だねっていうことを知ってくれるだけでも、別にいいんじゃないの」と語る。

ただし、それでも中学生に対する配慮は働いており、Uさんの場合は「段階に分ける」ということを重視し、次のように述べている。

Uさん：段階に分けていくというかね。きついから全部はさせられない、だから今はこれだけっていうのでも、きついのはきついんだよっていうのは、やっぱり教えてやらないと。(中略) 100%させると、それは大変ですよ。ビール 10 ケースを、じゃあ、2 階まで運びなさいと。これはきついですよ。だから、少しでもとりあえず 1 つでも持ちなさいと。どんなものなのか、これの 10 倍だよっていうわけですよ。今はこれでいいけども。

つまり中学生たちは、基本的にはコンビニおよび酒屋で普段からおこなわれている業務をそのまま体験する。しかし、現場では「できないこと」に直面するために、分けられた段階の内、可能な部分のみを担うことになる。そこで、大人たちが自分よりも大変なことを担っているということに気づくよう、うながしているのである。そういった作業を経て体験学習が終了すると、普段コンビニを利用しているだけでは気づかないたくさんのことに気づいたという感想が多く寄せられるという。

おぼろげながらにでも将来を考えて、「トライやる」を経験し、保育士など実際の仕事へとつながっていく場合もあるが、Uさんはその点に「トライやる」の意義があるとは考えていない。「トライやる」をコンビニで経験する中学生の動機は、普段から利用している場所で一度働いてみたいという興味本位であることがほとんどで、たとえば流通業界に進みたいなど将来を見据えているわけではないという。そのため、この体験によって「道が変わる」ことは少なく、具体的に何らかの職業選択等に影響を与えるとは考えていないのである。

それでも、「トライやる」の 5 日間は「必ず何かできる」期間であって、その後「経験として生きてくる」ものだと感じている。職業選択に影響を与えるか与えないかといったことより、1 つの製品でもいろいろな人の手が入ってできあがっているということや、親からもらっているお金の大事さ、そういったことに気づいて欲しいという。

たとえば、実際に商品を並べることで、そのように陳列することにどういった意味があるのかを知り、掃除をしてゴミを拾うことで、汚さずゴミを捨てないようになっていく。また Uさんによると、これまで「商品をポンッと置いて、お金をジャラッと渡していた人間」が、ホスピタリティーを学んでいくという。同じことを自分がされた場合、気分が悪いということに気づいていくのである。

つまり、学校ではできない体験をとおして経験値をあげていくことこそが重要であると考えている。また「トライやる」をとおして、中学生が変化していく過程を眺めるのは、Uさんにとってもおもしろい経験になっているという。

複数の店舗を経営し、多忙な毎日を過ごしている Uさんにとって、その忙しい日々

の間にやってくる中学生はある意味で「邪魔」な存在であるという。ケアや指導をしなければならぬ対象が増えるという点で、「トライやる」を受け入れる側の負担というものは決して小さくはない。

それにもかかわらず、第1回目から継続して「トライやる」の中学生を受け入れている。なぜなら、「ありがとう」とはっきり言えたり、「すみません」と謝れる人間になって欲しいという中学生に対する思いがあるからであり、また中学生の教育についても地域に「甘える」部分は甘えればいい、助けてもらえばいいと考えているからである。

## 2. 中学校教員と指導ボランティア

### (1) 中学生にとっての教員

次に、「トライやる」体験者たちにとって、上記のような指導ボランティアがどのように受け止められているのかを見ていこう。まず、比較対象として、体験者たちが中学校教員をどのように捉えているのかを検討する。建設局、水環境センターで体験したBさんは、他の学校行事と大きく異なる点として「先生がいない」ことを挙げている。

Bさん：トライやるは学校行事の一環。でもちょっと違うかもしれないですね、やっぱり。外で、先生とかもいないですもんね。行くときも先生じゃなくて保護者、地域の保護者の人がそこまで連れて行ってくれる役割をかって出してくれました。その場所までは保護者の人が送り届けて、また帰るときになったら迎えに来てくれるみたいな。

聞き取り調査において、中学時代で印象に残っている出来事を尋ねると、多くの人がクラブ活動や修学旅行、運動会といったことを挙げていた。考えてみれば、そういったいずれの場にも当然のように「学校の先生」がいた。だからこそ、「先生がいない」ということが、他の出来事と「トライやる」の違いとして意識されるのである。また、Dさんはその学校の先生という存在について、次のように語っている。

Dさん：学校にいるときは、何か先生とかいたら、何か見られてるって感じがするんですよ。何か見られてて。例えば授業中だったら、見られてるから、ちゃんとしないといけないという感じがあったんです

このような感覚は、体験中に各活動先を訪問する教員について「見張りというか、何回か来るよな、先生がチェックしに」と語ったFさんや、「監視しに來ただけやろうと思って。何かあったら先生の責任になるから、多分先生も回ってると思う」というAさんの言葉にも如実にあらわれている。

Dさんは、中学の教員に「見られている」と感じる理由を、小学校までの教員と比較し、「成績とかが関わってくるからだと思う」「小学校のときって、多分『よくでき

ました』とか、そういうのだったので。中学校だったら 5 段階。なので、やっぱりい  
いように見られたいと思って頑張ったりしてたので」と話した。つまり、「見られてい  
る」と感じる背景には、厳格な評価の対象にされるという点があるのだと言える。

## (2) 体験者にとっての指導ボランティア

それでは、以上のように受け止められている教員に対して、「トライやる」の現場で  
指導にあたるボランティアは、どのように受け止められているのだろうか。F さんは、  
受け入れ先を巡回している教員が訪れた際、体験中の中学生のみではなく、指導ボラ  
ンティアもまた、生徒同様に緊張していたということを明かしている。

F さん：だからその都度、そのおばちゃんも教員や、緊張しますみたいな。ああ、先  
生が来たみたいな。そんで帰ったら、ああ、やっと帰ったわみたいな感じやん。みんな  
も緊張して。

このような語りからは、評価・監視する立場にある教員と、「指導ボランティア」が  
異なった存在として受け止められていることがうかがえる。体験者にとって、指導ボ  
ランティアは教員とはスタンスが異なり、むしろ生徒に近い側面も持っているように  
感じられたのだろう。

また、F さんが指導を受けたボランティアは、受け入れ先を訪れた中学校教員から  
生徒の様子を尋ねられた際に、肯定的に答えたという。そして、「良かったよ、と言っ  
ておいてあげたよ」ということを F さん自身にも伝えている。この点からは、指導ボ  
ランティア自身も、生徒を評価する学校・教員側と一線を画そうとしている様子があ  
りうかがえる。

学校の教員には「見られている」と感じたという D さんは、指導ボランティアにつ  
いては、むしろ「見守ってくれている」感じだと述べる。

D さん：学校だったら、何かふざけてたりとかしたら、多分、先生はすぐ注意とかす  
るでしょう。けど、そこだったら別に何しても、そんなに怒らないじゃないですか。子  
どもにかかわらないというか、危ないようなこととかしてなかったら、ずっと見守って  
くれるというか、そんなに言ったりとかはしてこなかったの。

ただしその条件として、幼稚園での「トライやる」体験者たちが、園児にかかわる  
危険なことさえしていなければという点を挙げている。つまり、生徒の言動を全般的  
に管理する教員と比べて、「トライやる」先では幼稚園教諭としてもっとも重要な園児  
に関することのみに管理が限定されているために、「監視」ではなく、「見守り」であ  
ると受け止めているのである。

体験者たちの語りから、指導ボランティアと中学校の教員の違いとして、特に次の 2

点が指摘できるだろう。まず第 1 は、厳格に評価・監視する存在であるかどうかという違いである。そして第 2 に、その管理が限定的か否かという違いである。これらの点は、学校とは異なる「トライやる」の現場で、先に検討してきたような影響が生じる背景として重要であると考えられる。

## 第 2 節 境界を越える体験

### 1. 評価・指導のあり方とその影響

#### (1) 評価対象としての感想文

すでに見たように、「トライやる」を参考事例とするキャリア教育実践プロジェクトでは評価を重視し、評価の対象の 1 つとして感想文を挙げていた。「トライやる」体験者も同様に感想文を提出させられる場合が少なくない。

笹倉千佳弘は、課題として書かされる感想文の問題性を次のように指摘している。

課題として感想文をつづることは楽しい経験とはなりがたい。なぜなら、感想文を書くために児童・生徒は感動しなければならず、あるいは、少なくとも感動したふりをしなければならず、しかも、その感動の中身は、本を読む前や啓発映画を見る前にほぼ決まっているからだ。書かされる側は、書かせる側が求めている内容を事前に予想する必要がある。自由に書いてかまわない、と言う教師の言葉は、個々の教師と個々の児童・生徒（集団）の関係の質にしたがって、受け取り方は大きく異なるだろう。もちろん、自分の思いを素直に文字にしていく場合もあるにちがいない。しかし、教師の発言である以上、彼や彼女の意図をまったく考慮しないで感想文をつづる児童・生徒などめったにいないものではない。

そのため、感想文の多くは、それを書くことによって、教師が望むような児童・生徒の変容をうながされることはあまり期待できない。それよりも、感想文の実質的な機能は、教育活動の正当性を保証するための証拠、言い換えれば、学校や教師のアリバイ作りという役割を担わされているのではないだろうか。（笹倉 2000: 213）

職場体験が終了した後、教員から「課題」として感想文を課され、さらにそれが評価の対象になるとすれば、「トライやる」においても笹倉の指摘通りになるだろう。たとえば、ある体験者は「終わった後は、確かみんな感想文とか日記とか書いて先生に渡したと思うんですけど。多分、文章がうまい子とかは新聞に載ったりとか、後で文集になったりとかした」と語っている。

体験者である D さんが、先生と指導ボランティアの異なる点として「成績とかがかわってくるから」「いいように見られたいと思って」いたことと合わせて考えるならば、「文章がうまい子」とは、まさに教員の意図を良くも悪くも適切に理解し、求められている内容を事前に予測した上で、感想文を書ける生徒なのである。

## (2) 過剰な教育的配慮

笹倉はまた、受け入れ先への質問項目を事前に「指導」しておくことや、礼状の書き方をマニュアル化して事後指導するといったことを取り上げて、次のように指摘している。

教員の過剰な教育的配慮が、結果として、生徒の「体験活動」にマイナスの効果を及ぼす可能性があることは、十分、自覚的でなければならない。明示的であれ暗示的であれ、教員の意図する結果の先取りを生徒に強要することは、「体験活動」では厳に慎むべきであるからだ。(笹倉 2001: 139)

先に挙げたキャリア教育実践プロジェクトの『中学校職場体験ガイド』では、受け入れ先がどういったところであるかにかかわらず、5日間のスケジュールが細かく決められており、また生徒が指導ボランティアに尋ねるべき質問項目のひな形まで準備されている(文部科学省 2005: 15)。そして、このマイナスの効果を及ぼすものとしての過剰な教育的配慮は、「トライやる」の現場においても実際に問題として生じている。以下は、初年度から「トライやる」の中学生を受け入れている指導ボランティア Q さんの話である。

Q さん：本人からは、あれは多分、先生に強制されんのかな、9人とも葉書、おんなじような形の葉書来ます。うん。内容はほとんど一緒です。いい体験をさせていただきました、お世話になりました、お世話になりました、いう。ある程度のひな形つくって先生が渡すんやろな。ここをちょっと変えただけのやつですね。来ます、終わってから。

Q さん自身、「まあ、けども私としたらば、たとえひな形で先生が指導したとしても、お世話になった人には礼状を出すというのを、しつけていくというのかな。それはそれでいいかなあとと思うんですけどね」と、その指導に理解を示している。

しかしその一方で、受け入れた中学生の父親から届いた葉書については、表情を緩めながら次のように語った。

Q さん：だからね、僕も自分からはお父さんやお母さんの反応は何にも聞かんのやけどね。でもね、一人だけ、今まで一人だけやったけど、葉書が来ました。お父さんからね。そう、受け入れた中学生のお父さんから、いい体験をさせてもらってありがとうございました、言うて。これはもう一人だけやね。受け入れを9年やったなかで。

上記の2つの語りから、「トライやる」に参加した子どもの様子を見て父親が綴った感謝の手紙と、過剰な教育的配慮を受けて作成された礼状とでは、受け取った Q さんの反応が明らかに異なっていることが分かる。「先生に強制」され「ひな形」を「ちょ

っと変えただけ」という内容に対する Q さんの印象は芳しいものではない。

生徒の葉書が「書かされた」ものであるのに対して、父親は誰かに強制された訳ではない。恐らく、その内容も「書かされた」ものとは異なり、生き生きとした文面になっていたことだろう。この例が示しているように、「ひな形」を修正した手紙や、あらかじめ準備された質問—回答のやり取りは、指導ボランティアにとっても、体験者にとっても好ましい影響を与える可能性は低いと考えられる。少なくとも、こういった状況は、Q さんおよび葉書を送った体験者のいずれにとっても幸福なものとは言い難いだろう。

お世話になった相手に対するお礼状の書き方を教える際、ひな形を示すというやり方それ自体は特異なものではないかも知れない。ただ、そういったお礼状の書き方は、「トライやる」という特別な体験学習ではなく、机上の学習でも身につけることは可能である。

そもそも、「トライやる」は「従来のように結論を教え込むのではなく、活動や体験を通して、子どもたち一人一人が自分なりの生き方を見つけられるよう支援していく教育にシフトしていくことの重要性」の指摘とともに導入され（兵庫県教育委員会 2007: 1）、「自分で判断し行動し問題を解決する多様な価値観を受け入れる心を育てる」ことを目指すものであるという（兵庫県教育委員会 1999: 3）。

それならば、ベルトコンベア式の細かなスケジュールを組んだり、教員等が事前に礼状や質問項目の「ひな形」を作ったりするよりは、むしろ出来る限り「遊び」の余地＝体験者が自ら工夫を重ねる余地を残しておくことが重要であろう。生徒一人ひとりの主体性を重視する活動として実施される以上、同じように体験した結果であっても、礼状を書く生徒がいる一方で、書かない生徒があらわれる可能性も否定できない。しかし、そういった学校もしくは教員にとって望ましくない状況をも受け止める必要があるだろう。

なぜなら、決められたスケジュールを順番にこなしていくことより、信頼された上で任された「遊び」の部分においてこそ、体験者の自立や自律性、判断力といったものが養われると考えられるからである。以下ではそういった「遊び」の余地が用意されている様子と、そのことによる影響について検討する。

### (3) 「遊び」の余地とその影響

すでに見たように、体験先がどのような場所であるかは、「トライやる」の受け止め方を規定する大きな要因となっていた。特に、保育所・幼稚園での体験者は「トライやる」を非常に肯定的なものとして捉えていた。そこで、改めて保育所の事例を取り上げ、もっとも肯定的に受け止められている背景を検討する。

保育所で所長をつとめる S さんは、5日間の「トライやる」体験を通して、体験者たちが変化していく過程を実感していた。それでは、具体的には保育所や幼稚園という活動場所において、どのような変化が見られ、またそういった変化はどういった背景によるものなのだろうか。

Sさんは、たとえば「トライやる」期間が終了してからも保育所を訪ねてきて、子どもと一緒に遊ぶようになったりするということを挙げている。

Sさん：トライやるが終わってからも、例えば、先月の初めですかね、試験中なので、試験が終わって「今日は何もないので遊びに来ました」言うて訪ねてきて、子どもと一緒に庭で遊んでくれたりとか。

こういった点は、「トライやる」が抱える課題を克服するものであると言える。なぜなら、「トライやる・ウィーク」評価検証委員会によると、体験後に体験先との交流がはかられていない点や、「トライやる」で学んだことを「日常の生活に積極的に活かそうとする姿勢が十分でない」という点が課題として挙げられているからである（「トライやる・ウィーク」評価検証委員会 2003）。

ただし、体験者たちにこういった変化が生じる背景には、体験先を再訪するか否かが、誰に強制されることもなく、自由意志・主体性に任されているという状況があるだろう。体験者は「何もないから」という理由で、気軽に保育所を訪れている。もしも受け入れ先を再訪することが成績に関係するとすれば、あるいは「トライやる」の受け入れ先が生徒を評価する立場であれば、体験者たちはこのように、気軽に受け入れ先を再訪するだろうか。

仮にそういった状況で「トライやる」先を再訪したとしても、それは内申点や成績を意識してのことであり、評価する側による強制と言える。言うまでもなく、そういった状況が体験者たちに好ましい影響を与える可能性は低いと言えるだろう。

また、Sさんは「子どもと一緒に遊んでくれたり」と語り、明らかに体験者の再訪問をありがたいものとして受け止めている。受け入れ側にとっても、体験者が自分の意志によって気軽に訪問するからこそ、ありがたいものとして捉えているのである。したがって、事後訪問が評価の対象であり、成績を上げるためという理由で訪れる体験者を、受け入れ先が歓迎するとは考えにくい。まして、受け入れ先を再訪問した中学生には10点、再訪問しない場合は0点などと評価する立場に位置づけることは、Sさんが経験しているような体験者との好ましい交流を途絶えさせるものと言えるだろう。

Sさんによると、もうひとつの大きな変化として、中学生たちが「トライやる」期間のなかで、ただ単に言われたことをやるだけではなく、自分たちでさまざまな工夫をするようになっていくということを挙げる。たとえば、大きな名札をつけてくることで、園児に名前を覚えてもらおうとしたり、子どもと遊ぶなかでもっと楽しんでもらうためにはどうしたらいいかを考えて、折り紙を作ってきたりという具合である。

こうした変化が生じる背景には、「自分の存在がはっきりしている」という点があるとSさんは考えている。「トライやる」を受け入れることは、中学生にとってのみではなく、保育所や園児にとってもプラスになるそうである。たとえば、園児に対応する人数が増えるために、子どもの安全により目が行き届くようになるという点や、体験者たちは「遊びのなかで、子どもとしっかりかかわって」くれるため、園児もすぐになついていくという。保育士からも、中学生が来ることで、保育所の子どもたちが喜

び、その様子を眺めていると自分まで嬉しくなるという言葉が聞かれた。このように、自分の存在が頼りにされているという感覚を持てる状況も重要であると言えよう。

また、保育士たちから「一人ひとりを認めてあげることが一番の受け入れる者としての態度やと思うし、それが責任やと思ってるから」という配慮もあるために、改めて自己を肯定的に捉え直すことができるのだと考えられる。これらの点は、一律にやるべきこと決められて、それに従わせるといった方法の対極にあるものと言えるだろう。

こういった扱いを受けることは、体験者に明らかに何らかの影響を与えている。たとえば、保育所ではないものの、青少年女性センターへ行って同様の体験をしたという A さんは、「やんちゃな男の子」が子どもたちに優しい様子を見て、見直したと語っている。

A さん：私が行ったところはやんちゃな男の子も結構いて、やんちゃというか、不良と言ったらいいんですか。とりあえず子どもが来る時間が決まっているから、子どもがいない時は、みんなでぼーとした時間もあって、その男の子たちは、走り回ってて何か壊したりして、やばいとか言ってるんです。

でも、子どもが来たら絶対子どもにはそういうことはないので、ちゃんと遊んでるし、だっこもしてるし。先生らがそういうのを見たら、意外で喜んだりとかしてたと思います。やったらできるやん、子どもには優しいんやなみたいに感じました。

以上のように、保育所・幼稚園での「トライやる」体験が非常に肯定的な者として受け止められる背景には、一人ひとりが認められ、園児や保育士たちから頼りにされた上で、指示や注意は活動場所における重要事のみにとどめられていたこと、またそれによって体験者たちが主体的に考え、行動する余地が十分に用意されていたことが指摘出来るだろう。

## 2. 「やりたいことをやる」ということ

ある中学の「トライやる」体験感想文集に、次のような文章が掲載されている。

私は最初からトライやるウィークなんか別にやりたくなかった。私は運が悪いし、希望とは全然ちがう所だろうと思ってたら、やっぱり全然希望とちがってた。第一希望も第三希望もなかった。呼び出されて第四希望を決めさせられたけど、やっぱりそれもだめだった。だいたい第四希望が児童センターなのに何で食品加工なのかもわけわからなかった。いっしょになりたい人も別々で、もうどうでもよかったし、早く4日すぎたらいいと思った。1日目は、食品加工なので、工場内は、けっこうすごいにおいがしたし、水仕事なのでつめたかった。3日目にすごいつかれてバスにのって帰るとなかに、コープ配送センターに行った友達が、楽しい、と言ってて、それもムカついた。めっちゃ不平等だと思った。

こういうのは、行く所によって感想もちがうし、体験したこともちがうと思うので、2年生の大事な時には不必要だと思った。

最後の日には、2分間スピーチをしろ、と言われた。前日、あらかじめ紙に書いておいたやつを読もうと思ったけど、私の前にスピーチをした人が、すばらしかったので、読みにくくなった。私の心のなかには、コープ配送センターに行きたかったということでいっぱいだった。だから、来年からはこんな悲劇がおこらないようにしてほしいです。

「トライやる」に対する非常に強い不満が綴られているこの事例は、いわば感想文を課した教員の意図を、ほぼ考慮せずに書かれたものと言えるだろう。この感想文を受け取った際、教員が戸惑ったであろうことは想像に難くない。またひょっとしたら、文集に掲載されるまでに教員からこの生徒に対して、何らかの「働きかけ」もあったかも知れない。

最初に見たように、「トライやる」は「生徒の興味・関心に基づく1週間の体験活動」であり（兵庫県教育委員会 1999: 8）、やりたいこと（多くの場合はやりたい職業）を経験することが大事な事業であるとされている。しかし、表 26 に示したように、第一希望の場所で「トライやる」を体験するのは7割程度であり、第三希望さえ叶わない生徒が約5%存在している。1年で約5万人の生徒が体験することを考えると、毎年2500人程度が第三希望でさえない場所で体験していることになる。中学生たちの希望がさまざまであることや、受け入れ先での対応可能人数に上限があることなどを考慮すると、恐らく今後もすべての生徒が第一希望に行けるような状況にはならないだろう。

確かに体験者の興味・関心を尊重することは重要であろう。ただ、こういった状況において、希望する場所での体験学習が望ましいと強調しすぎることには、注意が必要である。なぜなら、かえって上記のような不満を生み出すことにつながりかねないからである。むしろ、場所によって違いはあっても、それぞれに学べることや楽しめることがあるということ、そして美容院における体験者の例からも分かるように、知っているはずのところさえ、知らない裏側があると伝えることが大切ではないだろうか。中学生たちは総じて大人との関わりが少なく、働くとういことについても実体を伴わないイメージしか持っていなかった。つまり、仮に第一希望であっても、イメージとは異なる体験に対して、興味を持てなくなる可能性もあると考えられるからである。

何よりも今回の調査において、希望と異なる活動場所であっても、実際に体験することで良い部分を見出せると話す体験者や、「他の希望にもれて」も「来たら来たで頑張る」体験者の様子を語る指導ボランティアがいたことは示唆的である。体験者が語ったように、「やっぱり知らないから嫌だっていう部分ってあるじゃないですか。イメージだけが先行して、こんなんは嫌だとか。でも、やっぱりやってみたら全然違って、いいやんって思えるところとかある」という認識を持って「トライやる」に参加していれば、上記の感想文が異なったものになっていた可能性もあるのではないだろうか。

表 26：体験先についての希望達成割合（兵庫県教育委員会 2007）

|              | 1998  | 1999  | 2000  | 2001  | 2002  | 2003  | 2004  | 2005  | 2006  |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 第一希望が叶えられた生徒 | 71.2% | 72.8% | 74.2% | 75.6% | 71.6% | 73.5% | 70.4% | 71.2% | 72.0% |
| 第二希望が叶えられた生徒 | 16.8% | 15.4% | 15.6% | 14.7% | 16.4% | 15.8% | 16.3% | 16.7% | 16.6% |
| 第三希望が叶えられた生徒 | 6.6%  | 5.8%  | 6.0%  | 5.4%  | 6.7%  | 5.9%  | 6.3%  | 6.5%  | 6.5%  |
| その他          | 5.4%  | 6.0%  | 4.2%  | 4.3%  | 5.3%  | 4.8%  | 7.0%  | 5.6%  | 4.9%  |

### 3. 学校の「ソト」へ

それでは最後に、質的調査および量的調査をもちいて検討してきたことを踏まえて、「トライやる」がどのような事業として位置づけられるのかを考察してみよう。すでに見たように、「トライやる」実施の背景には、「地域の子どもは地域で育てる」というねらいがあり（兵庫県教育委員会 1999: 8）、「生徒の教育は学校で」という学校に対する依存への批判があった（神原 1999）。

いわば、学校の「ソト」である地域の力を借りようとするものである。学校への過度な依存から脱却し、地域社会において日常的な学校生活とは異なる体験をするために、学校から地域へと越境する体験である。言うまでもなく、そのような体験をするためには、その間に境界が存在することが重要である。四方利明は、学校のなかにウチ／ソトが出会い、混在する場としての境界が生成する可能性を探り、次のように述べている。

境界が生成するためには、学校という共同体のウチ側に新たにソトからモノを挿入することよりも、ウチにあるモノがいかにして教育的な意味づけから逃れ新たにソト的な意味づけを獲得することに成功するか、そしてそのための余地が学校のウチにどれだけ残されているかがポイントになってくる。（四方 2003: 176）

つまり、生徒の評価や管理といった学校的な価値基準を持ち出して、体験先を学校の内部に取り込もうとすることは、まさに脱却を目指したはずの「生徒の教育は学校で」という考えを、逆に地域にまで敷衍するものであり、境界を消失させることであると言えよう。「トライやる」が導入される前、一部では教員免許を持たない地域の人間が指導することに疑問の声もあったという。しかし、「トライやる」が他の学校行事と異なる点として「先生がいない」ことを挙げていた体験者の例があるように、学校の「ソト」の人たちが「ソト」であり続けながら、体験者たちと関わることが出来るという点にこそ、「トライやる」の最大の特徴があるのではないだろうか。

## 第6章 体験学習の今後に向けて

### 第1節 体験学習の評価に対する提言

それでは改めて本調査研究で明らかになったことをまとめるとともに、こういった体験学習の今後に向けての提言をすることで、本報告書を締めくくりたい。まず、「トライやる」および「自然学校」など体験学習をより良いものにしていくために実施される評価・調査については、次のことが重要になるだろう。

- ① 適切なサンプリングの必要性
- ② 意識変数に依存しない評価項目の導入
- ③ 事例の多面性を把握する分析の必要性
- ④ 体験者と非体験者の比較

#### ① 適切なサンプリングの必要性

まず、言うまでもないことではあるが、量的調査のデータ分析をする際にもっとも重要なことの1つは、データの適切性である。つまり、サンプルが代表性を持つものであるかどうか、ランダムサンプリングを採用しているか否かが重要になる。本報告書も含め、既存の調査研究のほとんどがランダムサンプルによるものではないため、結果としてあらわれた違いが、サンプルの偏りによるものである可能性を排除出来ない。

#### ② 意識変数に依存しない評価項目の導入

また本調査研究は、既存の調査研究が体験学習の直前・直後に実施されているということに対して、長期間が経過した後の検討を目的の1つとして進められ、なかには既存調査を支持しない結果も見られた。

そういった違いの要因は、体験直後に見られた効果が長期的には薄れていったと考えることも出来るが、社会調査論に関するテキストの多くが指摘するように、現在から（特に遠い）過去を振り返ったデータ、いわゆる回顧データ自体が抱える信頼性の問題による可能性もある。特に、既存調査および本調査研究では、体験者自身の意識を問う項目が多い。こういった意識項目では、高校生を対象とした既存調査や、大学生を対象とした本調査において、14歳や11歳時点の経験について尋ねるのは、正確性の点で課題を残すと言わざるを得ない。

しかもこういった問題点は、時間経過によってのみ生じるのではない。笹倉（2000）が指摘していた通り、たとえば感想文を課題として課される場合、生徒は教師から期待される内容を先読みして書かざるを得ないように、体験直後の教室で教師からアンケートを配布されれば、やはり一定の回答傾向を示さざるを得ないことは想像に難くない。

そこで、「トライやる」等の体験学習の影響を把握するためには、時間経過による記

憶違いや、調査対象者が置かれた状況による回答の歪みなどが生じにくい事実項目を指標とすることが必要になるだろう。たとえば、体験学習の目的を進学や進路選択に置くのであれば、進学率やどういった進路に進んだのかを被説明変数とするという方法が考えられる。

### ③ 事例の多面性を把握する分析の必要性

聞き取り調査に代表される質的な研究は、「客観性に欠ける」といった批判がなされる場合がある。その影響もあってか、既存の調査研究では体験後のアンケート調査が主流となっていた。

しかし、ユーラン・アーネらが指摘するように、量的な研究は多数の事例について広くおこなわれるのに対して、質的な研究は事例の多数の側面を全体関連的にインテンスィヴに分析されるものであり、両者はともに長所と短所を併せ持っている。両者が持つ短所を克服するためには、両者の長所を生かすような「量的なアンケート調査から得られる全体的な情報と、質的なインタビューから得られる具体的な微妙な差異のある情報を組み合わせることにより、全体的な傾向を把握し、調査から得られた回答の具体像を得る」ことが必要になる（ユーラン・アーネ他 2001）。

たとえば、「トライやる」による影響は、数ページのアンケート用紙への回答で把握出来るものばかりではない。両者が必要であるということは、質問紙調査では既存研究が指摘してきた「トライやる」の効果の中に、本調査では認められないものがあつた一方で、聞き取り調査では指導ボランティアとの関わりなどを生き生きと語る体験者がいたことから明らかではないだろうか。

### ④ 体験者と非体験者の比較

また既存調査は、体験学習の前と後との比較に終始するものが多かった。しかし、本調査研究において、体験者と非体験者との比較をおこなったところ、一部では既存調査を覆す結果も得られた。何らかの体験学習を経たことによって変化したのか、単に年齢を重ねることによって変化したのかを検討するためには、体験者と非体験者の比較が欠かせない。

同じ「トライやる」の体験者であっても、体験した場所によってその受け止め方が大きく異なることは本報告書で示した通りである。今後の調査研究では、体験した場所にとどまらず、地域性の問題や体験先での指導ボランティアと体験者数の比率、男女比など、さまざまな比較の視点が重要になるだろう。

## 第2節 「自然学校」への提言

「自然学校」事業に対して、本調査研究から提言出来ることは、以下の3点である。

- ① 主体的に行動する余地の確保・拡大
- ② 5泊6日という長期体験学習の維持

### ③ 「はじめて体験」の重視

#### ① 主体的に行動する余地の確保・拡大

「自然学校」は、質問紙調査においても、聞き取り調査においても、おおむね肯定的に受け止められていた。ただし、受け止め方に男女で有意差があり、女性にとってより印象深い体験となっていることが分かった。本調査研究では十分に検討することは出来なかったが、なぜこのような性別による違いが生じるのかを明らかにすることで、男性にとってもより良い体験学習のあり方を模索することが出来るかも知れない。

こういった体験学習の位置づけから特に重要であるにもかかわらず、肯定的な回答が比較的少なかった項目としては、「体験中、自分から主体的に行動することが出来た」および「自然学校」に参加して、自分の考えや行動に影響があった」が挙げられる。

前者から、体験者たちが主体的に行動する余地が十分に準備されていない可能性が考えられる。体験者が小学校 5 年生であることを考えると容易ではないかも知れないが、この点を改善することは、主体性を育むとともに、「自分の考えや行動への影響」についての肯定感を高めることにもつながるだろう。

#### ② 5泊6日という長期体験学習の維持

長期体験学習の維持については、次の③と併せて述べてみたい。

### ③ 「はじめて体験」の重視

また、肯定的に受け止められていた背景としては、それが 5泊6日という長期にわたる体験学習であること、そして長期間親と離れる経験や、自然に触れるさまざまな活動が「はじめての体験」であることが挙げられる。こういった点を重視することは、「自然学校」をより豊かなものにすると考えられる。

## 第3節 「トライやる・ウィーク」への提言

本調査研究で明らかになったことから、「トライやる」をより良くしていくためには、次の4点が重要であると考えられる。

- ① 「トライやる・ウィーク」の目的の再確認
- ② 情報の収集と周知による体験内容のより一層の充実
- ③ 強制によらない体験の捉え直しの必要性
- ④ 境界を越える体験であるということ

#### ① 「トライやる・ウィーク」の目的の再確認

まず、「トライやる」の受け止め方に関する質問 24 項目の内、16 項目において 5 割以上の人が肯定的に回答していた。特に、「受入先での活動内容には満足した」「人付き合いの大切さが分かった」「授業がなくてうれしかった」「将来、自分の子どもたち

にも体験して欲しい」「楽しい体験だった」「貴重な体験だった」「学校では学べないことが経験出来た」の7項目については、肯定する割合は8割以上にのぼった。

また聞き取り調査においても、指導ボランティアとの関わりや、体験を通して「ふだんの授業とかではできないような体験」「何か普通に学校だけ行ったら体験できないことだし、中学校のときに社会を見るじゃないけど、お店に行ったり保育園へ行ったり、そういう経験ができるのはすごいと思います」という感想を持つなど、「トライやる」が持つインパクトの大きさが明らかになった。

以上から、体験学習によって視野を広げるなど、緩やかで広がりのある影響を持つものであることが分かったと言える。何より自らが経験したことを後輩や自分の子どもたちに体験して欲しいという思いを持っているということが、この体験学習が十分に機能していることを示している。

しかしその一方で、既存調査が指摘してきたニート・フリーター対策としては、その有効性に疑問符を付けざるを得ない結果も見出された。聞き取り調査において、体験者たちは進路選択や職業選択といったことは意識しておらず、そういった側面への影響は感じられないと述べていた。

質問紙調査においても、希望の職業を持っているか否かと、「トライやる」を体験したかどうかに関連は認められなかった。つまり、体験者の内8割が職業体験をしているにもかかわらず、それによって希望する職業を持つようになっている訳ではないのである。また、「当時の体験が、その後の進路選択に影響を与えた」「仕事に偏見を持っていたことが分かった」といった仕事や進路に関わる項目に対して肯定的に答える割合は3割前後にとどまっていた。

さらに、「トライやる」開始の翌年から同様事業を実施している富山県では、統計上フリーター率が全国でもっとも低く、それを体験学習の有効性によるものとする指摘がある(小林 2005)。しかし、兵庫県のフリーター率は全国でもむしろ高い方であり、兵庫と富山の事業内容に大きな差異は認められないため、富山県におけるフリーター率の低さは、体験学習によるものではなく、他の社会経済的要因によると考える方が妥当であろう。

したがって、「トライやる」を就業対策やニート・フリーター対策として位置づけ直すのであれば、現在でも体験者の内2割程度が経験している「職場体験」以外の「勤労生産活動」や「文化・芸術創作活動」、「ボランティア・福祉体験活動」を撤廃した上で、その内容についても根本的に検討し直す必要があるかも知れない。

しかし、「トライやる」は、当初「自律性の向上」や「体験を通して自分なりの生き方を見つけ出す」ことを目的として始められたものである。また、本調査で明らかになったように、仕事等に直結しない気軽な体験学習であるからこそ、体験者たちは肯定的に受け止め、また印象深いものとして心に残っていた。進路・職業選択やニート・フリーター対策を念頭におくなら、高校以降に実施した方が良いという声も聞かれた。

また本田由紀によると、「働く意欲がない」いわゆる「ニート」は世間でイメージされているほど増えてはいない。「ニート」という言葉で一括りにされている人たちは多様で、働く意欲自体のないものは少数であること、フリーター問題の最大要因は本人

の意識ではなく、若者の採用を抑制する企業側にあること、したがって納得できる仕事さえあれば働きたいと考えている人たちに対して「勤労観の醸成」などの対策は不適切であることを指摘している（本田他 2006）。

すでに述べたように、「トライやる」は文部科学省のキャリア教育実践プロジェクトの参考事例とされており、「トライやる」もまた就業対策としての側面を強調されることが多い。しかし、体験者や指導ボランティアの言葉、質問紙調査の結果およびニート・フリーターを取り巻く実際の状況から考えるならば、単なる就業対策としての「職場体験学習」という流れに取り込まれるのではなく、むしろ原点を見直した上で広い意味での社会体験学習として再設定することが望ましいと言える。

## ② 情報の収集と周知による体験内容のより一層の充実

聞き取り調査および質問紙調査から、「トライやる」はおおむね肯定的に受け止められていることが分かった。しかし一方で、より充実させていくための改善の余地も見出すことが出来た。たとえば、「多い」と受け止められる程度の活動種類が確保されていることが重要であるということや、性別および体験する場所によって、その受け止め方が大きく異なっているということなどである。

「保育所・幼稚園」では、特に肯定的な受け止め方が多くなっていた。保育所所長の S さんは、その背景として「自分の存在がはっきりしている」ということを指摘していた。「トライやる」で受け入れた中学生たちの存在は、園児や保育所にとってプラスになるとして、ある意味で頼りにしていた。体験者自身も園児たちになつかれることによって、そして園児たちとの関わりを保育士たちが「見守ってくれる」ことによって、頼りにされていることを実感する。そこには、体験者たちが主体的に考え、行動する余地が十分に用意されていたのである。「園児」のいない体験先であっても、こういった点は参考になるだろう。

また保育所に限らず、「そこでの仕事にちゃんと参加できること」が重要なこととして挙げられていた。もちろん、対象が中学生である以上、活動先が職業体験の場合は特に、普段通りのすべての仕事への参加は不可能であり、指導ボランティア等からの適切な配慮が不可欠である。そういった配慮を受けた「できる範囲」の「簡単な」仕事であっても、体験者たちは「お客さんじゃないけど、すごく気を遣われてた」といった形で、置かれた立場や状況を把握しており、仕事の大変さなどを理解していた。

たとえば、美容室での体験者が、空き時間に人形をつかってパーマをあてる練習をさせてもらったり、指導ボランティアが美容師になった経緯を聞かせてもらったことを記憶にとどめていたことも、その好例と言えるだろう。指導ボランティアの配慮による時間の有効活用などが欠けた場合には、たとえば「空いてる時間はずっとマンガ読んでた」「あまり人と接することもなく、毎日同じこと、それこそ一日中玉子割ったりばかり」「雑用みたいな、道の草むしり」「喫茶店の子は本当に、アルバイトしてたみたいな感じで、普通に接客ばかりしてたみたいななんも言ってましたし。それは多分、マイナスです。（中略）本当にこき使われてただけというイメージの子もいましたね」といった形でネガティブな受け止め方になるのだと考えられる。

ただし、指導ボランティアたちは日常的に中学生と接している訳ではないため、どういった部分で中学生を頼りにすることが出来、またどのような配慮が必要なのが分からないことが多いはずである。こういった点については、「トライやる」の事後に教育委員会等が実施している調査によって、体験者が肯定的に受け止める活動場所ではどのような工夫がなされているのかなどを調べるとともに、そういった情報の周知が求められるだろう。

### ③ 強制によらない体験の捉え直しの必要性

聞き取り調査において、「今こうやって話してたら、トライやるあったなあって感じなんですけど、ふだんは余り思い出さないですね。思い出すことないかな」といった声が聞かれた。また上述したように、美容院で体験した I さんは次のように述べていた。

多分、今やからそうやってそこまで思えるんだと思うんですけど。多分、どの仕事でも終わりがなくて、日々みんなちゃんと努力をしてるから、注目を浴びる人は浴びるし、つぶれていくような店はつぶれていくしみたいな感じだと思います。何か新しい世界じゃないですけど、そっち側を見た感じがしましたね。自分が今まで知ってた世界はすごい狭かったんやなって思いました。

このように、現在では「トライやる」を体験した時点では思い至っていなかったことまで理解出来ると語っている。つまり、体験の振り返り、捉え直しをすることで、「トライやる」はその場限りのものではなく、長期的にも意味のある体験学習になると言えるだろう。

その意味で体験したことを誰かに語ったり、文章化したりする作業は重要なものであると言える。ただし、そうした作業をすること自体および、作業のなかで特定の内容を書いたり語ったりすることへの強制力が働く状況では、真に体験を振り返り、捉え直すということにはつながらないだろう。なぜなら、たとえば学校という場で教師から課題として課され、ましてそれが評価の対象となるのであれば、多くの場合「書かされる側は、書かせる側が求めている内容を事前に予想」した上で（笹倉 2000）、当たり障りのない内容を書き・語る他ないからである。

それでは、どのような形で「体験の捉え直し」が可能になるだろうか。聞き取り調査では、G さんがそのヒントになることを語っている。

親が買い物行くところに、友だちがトライやるで行ってたりするじゃないですか。それで、何とかちゃんは、お寿司売ってたよとか聞いて。自分が1週間友達に会わない間に、ほかの友達はこんなこともしてたんやとか、あんなこともしてたんやって。それはそれで楽しかったと思うんです。

体験後、友だち同士でその内容を話し合ったという体験者は少なかった。しかし、「ト

ライやる」期間中は、普段、毎日顔を合わせている友だちと、少なくとも学校では会うことがなくなる。そして、日常的には自分の方がより知っているはずの友だちの話を親から聞くことによって、興味を示していることが分かる。

聞き取りにおいて「自分が知ってるところのことで、こんなことやってたんやと知らなかったことを知るという意味ですごい印象的やったと思う。お客としてしか行ってないところで、友達はその裏側を経験したとか」といった語りがあったことから明らかなように、友だちが自分の知らない 1 週間を過ごしていることは、興味をそそるものなのである。また、同時に自分自身が興味深い体験をすれば、友だちに語りたくなるものではないだろうか。

つまり、体験の捉え直しのためには、体験者たちがより「トライやる」を楽しむことが重要であると言えよう。充実した体験であれば、あとから思い返すことも多くなるだろう。また、客として入ったそば屋で「トライやる」生に出会ったかつての体験者や、バイト先であるホテルで「トライやる」を受け入れれば、いろいろ教えたいという語りがあったように、異なる立場で「トライやる」と関わる際に、自らの体験を振り返ることにもなるだろう。そして、本調査で明らかになったように、体験を楽しむ、肯定的に受け止めるためには、強制ではなく、自由意志・主体性に任されているということが重要になっていた。

恐らく、体験先の再訪問が内申点に関わるという理由で訪れたことや、授業のなかで教師に指示されて「ひな型」にそった礼状を書いたことなどは、友だちとの会話の話題にはなり得ない。しかし、「体験先の保育所に行ったら、子どもたちが覚えてくれていた」とか、「指導ボランティアに手紙を出したら、こんな返事が来た」「お客には分からないだろうけど、ケーキ屋の仕事では、実はこんなことがある」といったことであれば、友だちに語りた、また友だちから聞きたいと思える話題になるのではないだろうか。

#### ④ 境界を越える体験であるということ

4 点目として重要なことは、「トライやる」が学校から地域へと境界を越えていく体験であるということである。繰り返すが、そもそも「トライやる」は「地域の子どもは地域で育てる」というねらい（兵庫県教育委員会 1999: 8）、「生徒の教育は学校で」という学校に対する依存への批判（神原 1999）、この両者を背景に持っていた。

聞き取り調査でも、地域の人である指導ボランティアが「教員や、緊張しますみたいな」「帰ったら、ああ、やっと帰ったわみたいな感じ」だったと体験者は語っている。指導ボランティアの方もまた、生徒を評価する学校・教員側と一線を画そうとしていた。そして体験者たちは、そういった指導ボランティアに親近感を感じていた。

また、園児を危険にさらすことがない限りは「見守ってくれている」保育士を肯定的に受け止めていた。もしも親しみを込めて「おばちゃん」と呼んだ指導ボランティアから、教員と同じ評価的なまなざしを向けられていたら、もしも保育士から児童への接し方を事細かに指示され、一挙手一投足を監視されていたら、恐らく体験者たちの「トライやる」の受け止め方は大きく異なったものになっていただろう。

「トライやる」は、学校とは異なる価値基準を持つ、ある種の異文化である地域へと分け入っていく体験学習である。その地域に対してまで、学校的な価値基準を持ち込み、体験先を学校の内部に取り込んでしまうとすれば、恐らくこの体験学習の重要な要素を削ぎ落とすことになるだろう。したがって、あくまでも学校から地域へと境界を越えていく体験学習であり続けることが、これからの「トライやる・ウィーク」にとって重要であると考えている。

## ◆参考・引用文献

- ユーラン・アーネ/クリスティーン・ロマーン，友子 ハンソン他訳，2001，『家族に潜む権力：スウェーデン平等社会の理想と現実』青木書店。
- 網麻子，2002，『トライやる・ウィーク ひょうご発・中学生の地域体験活動』神戸新聞総合出版センター。
- 江上佳宏，2003，「心の教育の充実をめざして--地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」」『都市問題研究』55(11)，都市問題研究会，93-106。
- 玄田有史・岡田大作，2004，『若年就業対策としての「14歳の就業体験」支援』。
- 本田由紀・内藤朝雄・後藤和智，2006，『「ニート」って言うな！』（光文社）。
- 古田猛志・小林宏，1998，「地域に学ぶ『トライやる・ウィーク』の教育的効果に関する一考察—中学生の『生きる力』をどのように育んだか」兵庫県立教育研修所『研究紀要』110。
- 古田猛志・住本克彦，2000，「自己効力感から見た『トライやる・ウィーク』の教育的効果—『学校不適応感』群の変化を中心にして」兵庫県立教育研修所『研究紀要』112。
- 兵庫県教育委員会，1999，『'98 地域に学ぶトライやる・ウィーク中学生体験活動週間』。
- 兵庫県教育委員会，2006，『地域に学ぶ中学生・体験活動週間「トライやる・ウィーク」—青春への助走—指導の手引き（H18）』。
- 兵庫県教育委員会，2007，『平成18年度 地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」のまとめ』。
- (財)ひょうご震災記念 21世紀研究機構，2007，『自然学校、トライやる・ウィーク等 兵庫型体験学習の効果、評価の分析（中間報告）』。
- 神原吉三郎，1999，「提言 地域に学ぶ『トライやる・ウィーク』」『教育展望』45(5)，教育調査研究所，44-49。
- 小林宏，1999，「中学生の『社会体験学習』の効果に関する研究—中学生は『トライやる・ウィーク』で、どう変わったか」兵庫県立教育研修所『研究紀要』111。
- 小林美希，2005，「フリーターが少ない 富山 地域ぐるみ『14歳の挑戦』」『エコノミスト』83(51)，毎日新聞社，29-31。
- 文部科学省，2005，『中学校職場体験ガイド』，2007年3月1日閲覧。  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/05010502/026.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/05010502/026.htm)
- 大林英夫・高橋史朗，2000，『「トライやる・ウィーク」誕生秘話—兵庫県地域体験活動はこうして生まれた』『感性・心の教育 2000年6月号「トライやる」企画実行のマニュアル』明治図書，7-11。
- 尾嶋史章編著，2001，『現代高校生の計量社会学—進路・生活・世代』ミネルヴァ書房。
- 大瀧友織，2008，「境界を越えることの意味—学校から地域への体験学習」『教育の境界』5，30-44。

- 笹倉千佳弘, 2000, 「感想文」教育解放研究会編『学校のモノ語り』東方出版, 212-213.
- , 2001, 「『心の教育』における教育関係の批判的考察 : 兵庫県の『トライやる・ウィーク』を事例として」『千里山文学論集』65, 125-143.
- , 2003, 「学校化する予備校の戦略」中島勝住編著『学校の境界』阿吽社, 126-142.
- 重松司郎, 2005, 「夢に挑戦する子どもたちの『生きる力』の育成を目指して—『トライやる・ウィーク』の実践から (特集 ニートをめぐる諸問題)」『青少年問題』52(6), 28-33.
- , 2006, 「事例研究 14歳からの職業体験の取組(トライやる・ウィーク)(特集 ニート・フリーター問題を考える)」『自治体学研究』92, 44-47.
- 四方利明, 2003, 「学校のウチ／ソト考」中島勝住編著『学校の境界』阿吽社, 158-177.
- 杉本健三, 2005, 「地域に学ぶ中学生・体験活動週間『トライやる・ウィーク』」キャリア・スタート・ウィーク推進連絡会議 (第1回) 配付資料 [資料6] 2007年2月1日閲覧.
- 住友剛, 1999, 「いわゆる『心の教育』論の批判的検討」『千里山文学論集』61, 81-101.
- 田淵重遠, 1994, 「兵庫—子どもを主体としてとらえる—自然学校のとりくみを通して」『教育評論』562, 56-59.
- 「トライやる・ウィーク」評価検証委員会, 2003, 「『トライやる・ウィーク』5年目の検証 (報告)」.
- 山本真理子・松井豊・山城由紀子, 1982, 「認知された自己の諸側面の構造」『教育心理学研究』30, 64-68.

# 資料編

- 単純集計結果
- 調査票

◆単純集計結果

| q1年齢  |       |        |         |
|-------|-------|--------|---------|
|       | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
| 17歳   | 2     | 0.1%   | 0.1%    |
| 18歳   | 582   | 27.5%  | 27.6%   |
| 19歳   | 633   | 29.9%  | 57.5%   |
| 20歳   | 494   | 23.3%  | 80.8%   |
| 21歳   | 269   | 12.7%  | 93.5%   |
| 22歳   | 86    | 4.1%   | 97.5%   |
| 23歳以上 | 52    | 2.5%   | 100.0%  |
| 合計    | 2,118 | 100.0% |         |

| q1性別 |       |        |         |
|------|-------|--------|---------|
|      | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
| 男性   | 953   | 45.0%  | 45.0%   |
| 女性   | 1,167 | 55.0%  | 100.0%  |
| 合計   | 2,120 | 100.0% |         |

| q2aきょうだい数 |       |       |         |
|-----------|-------|-------|---------|
|           | 度数    | パーセント | 累積パーセント |
| 1人        | 153   | 7.2%  | 7.2%    |
| 2人        | 1,148 | 54.3% | 61.5%   |
| 3人        | 699   | 33.0% | 94.6%   |
| 4人        | 91    | 4.3%  | 98.9%   |
| 5人以上      | 24    | 1.1%  | 100.0%  |
| 合計        | 2,115 | 100.0 |         |

| q2b何番目か |       |        |         |
|---------|-------|--------|---------|
|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
| 1人      | 953   | 45.7%  | 45.7%   |
| 2人      | 811   | 38.9%  | 84.6%   |
| 3人      | 283   | 13.6%  | 98.2%   |
| 4人      | 30    | 1.4%   | 99.6%   |
| 5人      | 5     | 0.2%   | 99.9%   |
| 6人      | 3     | 0.1%   | 100.0%  |
| 合計      | 2,085 | 100.0% |         |

| q2c同性で何番目か |       |        |         |
|------------|-------|--------|---------|
|            | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
| 1人         | 1,384 | 67.8%  | 67.8%   |
| 2人         | 565   | 27.7%  | 95.5%   |
| 3人         | 79    | 3.9%   | 99.4%   |
| 4人         | 9     | 0.4%   | 99.8%   |
| 5人         | 3     | 0.1%   | 100.0%  |
| 6人         | 1     | 0.0%   | 100.0%  |
| 合計         | 2,041 | 100.0% |         |

| q3_1持ち家 |       |        |         |
|---------|-------|--------|---------|
|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
| あてはまらない | 362   | 17.1%  | 17.1%   |
| あてはまる   | 1,757 | 82.9%  | 100.0%  |
| 合計      | 2,119 | 100.0% |         |

| q3_2テレビ |       |        |         |
|---------|-------|--------|---------|
|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
| あてはまらない | 1     | 0.0%   | 0.0%    |
| あてはまる   | 2,118 | 100.0% | 100.0%  |
| 合計      | 2,119 | 100.0% |         |

| q3_3クーラー・エアコン |       |        |         |
|---------------|-------|--------|---------|
|               | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
| あてはまらない       | 79    | 3.7%   | 3.7%    |
| あてはまる         | 2,040 | 96.3%  | 100.0%  |
| 合計            | 2,119 | 100.0% |         |

| q3_4電子レンジ |       |        |         |
|-----------|-------|--------|---------|
|           | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
| あてはまらない   | 35    | 1.7%   | 1.7%    |
| あてはまる     | 2,084 | 98.3%  | 100.0%  |
| 合計        | 2,119 | 100.0% |         |

| q3_5食器洗い機 |       |        |         |
|-----------|-------|--------|---------|
|           | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
| あてはまらない   | 1,245 | 58.8%  | 58.8%   |
| あてはまる     | 874   | 41.2%  | 100.0%  |
| 合計        | 2,119 | 100.0% |         |

| q3_6パソコン・ワープロ |       |        |         |
|---------------|-------|--------|---------|
|               | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
| あてはまらない       | 284   | 13.4%  | 13.4%   |
| あてはまる         | 1,835 | 86.6%  | 100.0%  |
| 合計            | 2,119 | 100.0% |         |

| q3_7FAX |       |        |         |
|---------|-------|--------|---------|
|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
| あてはまらない | 659   | 31.1%  | 31.1%   |
| あてはまる   | 1,460 | 68.9%  | 100.0%  |
| 合計      | 2,119 | 100.0% |         |

| q3_8乗用車 |       |        |         |
|---------|-------|--------|---------|
|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
| あてはまらない | 160   | 7.6%   | 7.6%    |
| あてはまる   | 1,959 | 92.4%  | 100.0%  |
| 合計      | 2,119 | 100.0% |         |

| q3_9ピアノ |       |        |         |
|---------|-------|--------|---------|
|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
| あてはまらない | 805   | 38.0%  | 38.0%   |
| あてはまる   | 1,314 | 62.0%  | 100.0%  |
| 合計      | 2,119 | 100.0% |         |

| q3_10応接セット |       |        |         |
|------------|-------|--------|---------|
|            | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
| あてはまらない    | 1,434 | 67.7%  | 67.7%   |
| あてはまる      | 685   | 32.3%  | 100.0%  |
| 合計         | 2,119 | 100.0% |         |

q3\_11スポーツ会員権

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| あてはまらない | 1,891 | 89.2%  | 89.2%   |
| あてはまる   | 228   | 10.8%  | 100.0%  |
| 合計      | 2,119 | 100.0% |         |

q3\_12別荘

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| あてはまらない | 2,083 | 98.3%  | 98.3%   |
| あてはまる   | 36    | 1.7%   | 100.0%  |
| 合計      | 2,119 | 100.0% |         |

q3\_13株券・債権

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| あてはまらない | 1,741 | 82.2%  | 82.2%   |
| あてはまる   | 378   | 17.8%  | 100.0%  |
| 合計      | 2,119 | 100.0% |         |

q3\_14美術品・骨董品

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| あてはまらない | 1,784 | 84.2%  | 84.2%   |
| あてはまる   | 335   | 15.8%  | 100.0%  |
| 合計      | 2,119 | 100.0% |         |

q3\_15どれもない

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| あてはまらない | 2,099 | 99.1%  | 99.1%   |
| あてはまる   | 20    | 0.9%   | 100.0%  |
| 合計      | 2,119 | 100.0% |         |

q4同居人数

|    | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|----|-------|--------|---------|
| 1人 | 1     | 0.0%   | 0.0%    |
| 2人 | 14    | 0.7%   | 0.7%    |
| 3人 | 224   | 10.6%  | 11.3%   |
| 4人 | 848   | 40.2%  | 51.5%   |
| 5人 | 577   | 27.3%  | 78.9%   |
| 6人 | 285   | 13.5%  | 92.4%   |
| 7人 | 130   | 6.2%   | 98.5%   |
| 8人 | 26    | 1.2%   | 99.8%   |
| 9人 | 5     | 0.2%   | 100.0%  |
| 合計 | 2,110 | 100.0% |         |

q5\_1単身

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| あてはまらない | 2,119 | 99.8%  | 99.8%   |
| あてはまる   | 5     | 0.2%   | 100.0%  |
| 合計      | 2,124 | 100.0% |         |

q5\_2父

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| あてはまらない | 116   | 5.5%   | 5.5%    |
| あてはまる   | 2,008 | 94.5%  | 100.0%  |
| 合計      | 2,124 | 100.0% |         |

q5\_3母

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| あてはまらない | 38    | 1.8%   | 1.8%    |
| あてはまる   | 2,086 | 98.2%  | 100.0%  |
| 合計      | 2,124 | 100.0% |         |

q5\_4祖父

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| あてはまらない | 1,779 | 83.8%  | 83.8%   |
| あてはまる   | 345   | 16.2%  | 100.0%  |
| 合計      | 2,124 | 100.0% |         |

q5\_5祖母

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| あてはまらない | 1,581 | 74.4%  | 74.4%   |
| あてはまる   | 543   | 25.6%  | 100.0%  |
| 合計      | 2,124 | 100.0% |         |

q5\_6兄

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| あてはまらない | 1,526 | 71.8%  | 71.8%   |
| あてはまる   | 598   | 28.2%  | 100.0%  |
| 合計      | 2,124 | 100.0% |         |

q5\_7弟

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| あてはまらない | 1,484 | 69.9%  | 69.9%   |
| あてはまる   | 640   | 30.1%  | 100.0%  |
| 合計      | 2,124 | 100.0% |         |

q5\_8姉

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| あてはまらない | 1,533 | 72.2%  | 72.2%   |
| あてはまる   | 591   | 27.8%  | 100.0%  |
| 合計      | 2,124 | 100.0% |         |

q5\_9妹

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| あてはまらない | 1,526 | 71.8%  | 71.8%   |
| あてはまる   | 598   | 28.2%  | 100.0%  |
| 合計      | 2,124 | 100.0% |         |

q5\_10きょうだいの配偶者

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| あてはまらない | 2,122 | 99.9%  | 99.9%   |
| あてはまる   | 2     | 0.1%   | 100.0%  |
| 合計      | 2,124 | 100.0% |         |

q5\_11友人・知人

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| あてはまらない | 2,124 | 100.0% | 100.0%  |
| 合計      | 2,124 | 100.0% | 100.0%  |

q5\_12その他

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| あてはまらない | 2,094 | 98.6%  | 98.6%   |
| あてはまる   | 30    | 1.4%   | 100.0%  |
| 合計      | 2,124 | 100.0% |         |

q5sq1食事頻度

|        | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|--------|-------|--------|---------|
| ほぼ毎日   | 789   | 38.1%  | 38.1%   |
| 週に4~5日 | 337   | 16.3%  | 54.4%   |
| 週に2~3日 | 577   | 27.9%  | 82.2%   |
| 週に1日   | 176   | 8.5%   | 90.7%   |
| ほとんどなし | 192   | 9.3%   | 100.0%  |
| 合計     | 2,071 | 100.0% |         |

q6fa父学歴

|            | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------|-------|--------|---------|
| 中学校        | 63    | 3.2%   | 3.2%    |
| 高等学校       | 583   | 29.8%  | 33.1%   |
| 短大・高専・専門学校 | 142   | 7.3%   | 40.3%   |
| 大学(4年制度)   | 1,100 | 56.3%  | 96.6%   |
| 大学院        | 66    | 3.4%   | 100.0%  |
| 合計         | 1,954 | 100.0% |         |

q6mo母学歴

|            | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------|-------|--------|---------|
| 中学校        | 31    | 1.6%   | 1.6%    |
| 高等学校       | 689   | 35.1%  | 36.6%   |
| 短大・高専・専門学校 | 743   | 37.8%  | 74.5%   |
| 大学(4年制度)   | 489   | 24.9%  | 99.3%   |
| 大学院        | 13    | 0.7%   | 100.0%  |
| 合計         | 1,965 | 100.0% |         |

q7a直接：父との会話

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| ほぼ毎日    | 744   | 35.9%  | 35.9%   |
| 週に3日以上  | 500   | 24.1%  | 60.0%   |
| 週に1日程度  | 241   | 11.6%  | 71.6%   |
| 月に1日以上  | 148   | 7.1%   | 78.7%   |
| 月に1日未満  | 349   | 16.8%  | 95.5%   |
| 父・母はいない | 93    | 4.5%   | 100.0%  |
| 合計      | 2,075 | 100.0% |         |

q7b直接：母との会話

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| ほぼ毎日    | 1,472 | 70.5%  | 70.5%   |
| 週に3日以上  | 175   | 8.4%   | 78.9%   |
| 週に1日程度  | 76    | 3.6%   | 82.6%   |
| 月に1日以上  | 83    | 4.0%   | 86.5%   |
| 月に1日未満  | 248   | 11.9%  | 98.4%   |
| 父・母はいない | 33    | 1.6%   | 100.0%  |
| 合計      | 2,087 | 100.0% |         |

q7c直接：友人・知人との会話

|        | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|--------|-------|--------|---------|
| ほぼ毎日   | 1,862 | 88.9%  | 88.9%   |
| 週に3日以上 | 179   | 8.5%   | 97.4%   |
| 週に1日程度 | 22    | 1.1%   | 98.5%   |
| 月に1日以上 | 11    | 0.5%   | 99.0%   |
| 月に1日未満 | 21    | 1.0%   | 100.0%  |
| 合計     | 2,095 | 100.0% |         |

q7d携帯：父との会話

|             | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-------------|-------|--------|---------|
| ほぼ毎日        | 48    | 2.3%   | 2.3%    |
| 週に3日以上      | 90    | 4.3%   | 6.6%    |
| 週に1日程度      | 317   | 15.2%  | 21.8%   |
| 月に1日以上      | 451   | 21.7%  | 43.5%   |
| 月に1日未満      | 700   | 33.6%  | 77.1%   |
| 父・母はいない     | 94    | 4.5%   | 81.6%   |
| 持っていない・使わない | 383   | 18.4%  | 100.0%  |
| 合計          | 2,083 | 100.0% |         |

q7e携帯：母との会話

|             | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-------------|-------|--------|---------|
| ほぼ毎日        | 161   | 7.7%   | 7.7%    |
| 週に3日以上      | 326   | 15.6%  | 23.2%   |
| 週に1日程度      | 562   | 26.8%  | 50.1%   |
| 月に1日以上      | 482   | 23.0%  | 73.1%   |
| 月に1日未満      | 295   | 14.1%  | 87.2%   |
| 父・母はいない     | 29    | 1.4%   | 88.5%   |
| 持っていない・使わない | 240   | 11.5%  | 100.0%  |
| 合計          | 2,095 | 100.0% |         |

q7f携帯：友人・知人との会話

|             | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-------------|-------|--------|---------|
| ほぼ毎日        | 674   | 32.6%  | 32.6%   |
| 週に3日以上      | 483   | 23.3%  | 55.9%   |
| 週に1日程度      | 406   | 19.6%  | 75.5%   |
| 月に1日以上      | 278   | 13.4%  | 88.9%   |
| 月に1日未満      | 136   | 6.6%   | 95.5%   |
| 持っていない・使わない | 93    | 4.5%   | 100.0%  |
| 合計          | 2,070 | 100.0% |         |

q7gメール：父との会話

|             | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-------------|-------|--------|---------|
| ほぼ毎日        | 40    | 1.9%   | 1.9%    |
| 週に3日以上      | 108   | 5.2%   | 7.1%    |
| 週に1日程度      | 256   | 12.3%  | 19.4%   |
| 月に1日以上      | 383   | 18.4%  | 37.8%   |
| 月に1日未満      | 677   | 32.5%  | 70.4%   |
| 父・母はいない     | 106   | 5.1%   | 75.4%   |
| 持っていない・使わない | 511   | 24.6%  | 100.0%  |
| 合計          | 2,081 | 100.0% |         |

q7hメール：母との会話

|             | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-------------|-------|--------|---------|
| ほぼ毎日        | 232   | 11.1%  | 11.1%   |
| 週に3日以上      | 462   | 22.0%  | 33.1%   |
| 週に1日程度      | 516   | 24.6%  | 57.7%   |
| 月に1日以上      | 351   | 16.7%  | 74.4%   |
| 月に1日未満      | 235   | 11.2%  | 85.6%   |
| 父・母はいない     | 40    | 1.9%   | 87.6%   |
| 持っていない・使わない | 261   | 12.4%  | 100.0%  |
| 合計          | 2,097 | 100.0% |         |

q7iメール：友人・知人との会話

|             | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-------------|-------|--------|---------|
| ほぼ毎日        | 1,442 | 68.5%  | 68.5%   |
| 週に3日以上      | 436   | 20.7%  | 89.2%   |
| 週に1日程度      | 122   | 5.8%   | 95.0%   |
| 月に1日以上      | 39    | 1.9%   | 96.9%   |
| 月に1日未満      | 26    | 1.2%   | 98.1%   |
| 持っていない・使わない | 40    | 1.9%   | 100.0%  |
| 合計          | 2,105 | 100.0% |         |

q8a中学1年時の希望職有無

|          | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|----------|-------|--------|---------|
| あった(ある)  | 943   | 44.5%  | 44.5%   |
| なかった(ない) | 1,174 | 55.5%  | 100.0%  |
| 合計       | 2,117 | 100.0% |         |

q8b中学3年時の希望職有無

|          | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|----------|-------|--------|---------|
| あった(ある)  | 1,163 | 54.9%  | 54.9%   |
| なかった(ない) | 955   | 45.1%  | 100.0%  |
| 合計       | 2,118 | 100.0% |         |

q8c現在の希望職有無

|          | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|----------|-------|--------|---------|
| あった(ある)  | 1,443 | 68.2%  | 68.2%   |
| なかった(ない) | 673   | 31.8%  | 100.0%  |
| 合計       | 2,116 | 100.0% |         |

q9a勉強には熱心である

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 118   | 5.7%   | 5.7%    |
| どちらかといえば、そう思う   | 726   | 34.9%  | 40.6%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 790   | 38.0%  | 78.6%   |
| そう思わない          | 445   | 21.4%  | 100.0%  |
| 合計              | 2,079 | 100.0% |         |

q9b友だちづきあいは多い方である

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 530   | 25.5%  | 25.5%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 891   | 42.8%  | 68.3%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 536   | 25.7%  | 94.0%   |
| そう思わない          | 125   | 6.0%   | 100.0%  |
| 合計              | 2,082 | 100.0% |         |

q9c地域の行事にはよく参加する

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 113   | 5.4%   | 5.4%    |
| どちらかといえば、そう思う   | 344   | 16.6%  | 22.0%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 819   | 39.4%  | 61.4%   |
| そう思わない          | 802   | 38.6%  | 100.0%  |
| 合計              | 2,078 | 100.0% |         |

q9d学校生活を楽しんでいる

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 718   | 34.5%  | 34.5%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 924   | 44.4%  | 78.9%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 322   | 15.5%  | 94.4%   |
| そう思わない          | 116   | 5.6%   | 100.0%  |
| 合計              | 2,080 | 100.0% |         |

q9e日常的なあいさつをする

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 1,147 | 55.1%  | 55.1%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 769   | 37.0%  | 92.1%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 140   | 6.7%   | 98.8%   |
| そう思わない          | 24    | 1.2%   | 100.0%  |
| 合計              | 2,080 | 100.0% |         |

q9f人との約束を守る

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 1,078 | 51.8%  | 51.8%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 883   | 42.5%  | 94.3%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 107   | 5.1%   | 99.4%   |
| そう思わない          | 12    | 0.6%   | 100.0%  |
| 合計              | 2,080 | 100.0% |         |

q9g何となく学校へ行くのが「いやだなあ」と感じることもある

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 483   | 23.2%  | 23.2%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 855   | 41.1%  | 64.3%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 489   | 23.5%  | 87.8%   |
| そう思わない          | 253   | 12.2%  | 100.0%  |
| 合計              | 2,080 | 100.0% |         |

q9h将来のこと（進路・職業）についてよく考える

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 715   | 34.4%  | 34.4%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 916   | 44.1%  | 78.5%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 368   | 17.7%  | 96.2%   |
| そう思わない          | 80    | 3.8%   | 100.0%  |
| 合計              | 2,079 | 100.0% |         |

q9)きちんとした言葉づかいをする

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 464   | 22.3%  | 22.3%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 1,102 | 53.0%  | 75.3%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 437   | 21.0%  | 96.3%   |
| そう思わない          | 77    | 3.7%   | 100.0%  |
| 合計              | 2,080 | 100.0% |         |

q9)地域のひととの関わりは多いほうである

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 207   | 10.0%  | 10.0%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 485   | 23.3%  | 33.3%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 861   | 41.4%  | 74.7%   |
| そう思わない          | 525   | 25.3%  | 100.0%  |
| 合計              | 2,078 | 100.0% |         |

q9k)学校の先生との関わりは多いほうである

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 162   | 7.8%   | 7.8%    |
| どちらかといえば、そう思う   | 468   | 22.5%  | 30.3%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 949   | 45.6%  | 75.9%   |
| そう思わない          | 501   | 24.1%  | 100.0%  |
| 合計              | 2,080 | 100.0% |         |

q10a)社交能力に自信がある

|           | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------|-------|--------|---------|
| あてはまる     | 271   | 12.8%  | 12.8%   |
| ややあてはまる   | 606   | 28.6%  | 41.3%   |
| どちらともいえない | 614   | 28.9%  | 70.3%   |
| ややあてはまらない | 382   | 18.0%  | 88.3%   |
| あてはまらない   | 249   | 11.7%  | 100.0%  |
| 合計        | 2,122 | 100.0% |         |

q10b)交際範囲が広い

|           | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------|-------|--------|---------|
| あてはまる     | 255   | 12.0%  | 12.0%   |
| ややあてはまる   | 494   | 23.3%  | 35.3%   |
| どちらともいえない | 668   | 31.5%  | 66.8%   |
| ややあてはまらない | 464   | 21.9%  | 88.6%   |
| あてはまらない   | 241   | 11.4%  | 100.0%  |
| 合計        | 2,122 | 100.0% |         |

q10c)同年配の異性と楽しく話ができる

|           | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------|-------|--------|---------|
| あてはまる     | 432   | 20.3%  | 20.3%   |
| ややあてはまる   | 683   | 32.2%  | 52.5%   |
| どちらともいえない | 539   | 25.4%  | 77.9%   |
| ややあてはまらない | 285   | 13.4%  | 91.3%   |
| あてはまらない   | 184   | 8.7%   | 100.0%  |
| 合計        | 2,123 | 100.0% |         |

q10d)異性の誘い方がうまい

|           | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------|-------|--------|---------|
| あてはまる     | 83    | 3.9%   | 3.9%    |
| ややあてはまる   | 202   | 9.5%   | 13.4%   |
| どちらともいえない | 675   | 31.9%  | 45.3%   |
| ややあてはまらない | 540   | 25.5%  | 70.8%   |
| あてはまらない   | 619   | 29.2%  | 100.0%  |
| 合計        | 2,119 | 100.0% |         |

q10e)人に対して思いやりがある

|           | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------|-------|--------|---------|
| あてはまる     | 410   | 19.3%  | 19.3%   |
| ややあてはまる   | 966   | 45.5%  | 64.8%   |
| どちらともいえない | 603   | 28.4%  | 93.3%   |
| ややあてはまらない | 101   | 4.8%   | 98.1%   |
| あてはまらない   | 41    | 1.9%   | 100.0%  |
| 合計        | 2,121 | 100.0% |         |

q10f)人に対して寛大である

|           | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------|-------|--------|---------|
| あてはまる     | 385   | 18.2%  | 18.2%   |
| ややあてはまる   | 739   | 34.9%  | 53.1%   |
| どちらともいえない | 744   | 35.1%  | 88.2%   |
| ややあてはまらない | 198   | 9.3%   | 97.5%   |
| あてはまらない   | 52    | 2.5%   | 100.0%  |
| 合計        | 2,118 | 100.0% |         |

q10g)おおらかな人柄である

|           | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------|-------|--------|---------|
| あてはまる     | 355   | 16.7%  | 16.7%   |
| ややあてはまる   | 697   | 32.9%  | 49.6%   |
| どちらともいえない | 738   | 34.8%  | 84.4%   |
| ややあてはまらない | 247   | 11.6%  | 96.0%   |
| あてはまらない   | 84    | 4.0%   | 100.0%  |
| 合計        | 2,121 | 100.0% |         |

q10h)自分の生き方に自信がある

|           | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------|-------|--------|---------|
| あてはまる     | 231   | 10.9%  | 10.9%   |
| ややあてはまる   | 346   | 16.3%  | 27.2%   |
| どちらともいえない | 768   | 36.2%  | 63.5%   |
| ややあてはまらない | 528   | 24.9%  | 88.4%   |
| あてはまらない   | 246   | 11.6%  | 100.0%  |
| 合計        | 2,119 | 100.0% |         |

q10i)個性的な生き方をしている

|           | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------|-------|--------|---------|
| あてはまる     | 345   | 16.3%  | 16.3%   |
| ややあてはまる   | 455   | 21.5%  | 37.8%   |
| どちらともいえない | 758   | 35.8%  | 73.6%   |
| ややあてはまらない | 352   | 16.6%  | 90.2%   |
| あてはまらない   | 208   | 9.8%   | 100.0%  |
| 合計        | 2,118 | 100.0% |         |

q10j自分に自信がある

|           | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------|-------|--------|---------|
| あてはまる     | 136   | 6.4%   | 6.4%    |
| ややあてはまる   | 265   | 12.5%  | 18.9%   |
| どちらともいえない | 712   | 33.6%  | 52.5%   |
| ややあてはまらない | 544   | 25.7%  | 78.2%   |
| あてはまらない   | 461   | 21.8%  | 100.0%  |
| 合計        | 2,118 | 100.0% |         |

q10kきちようめんな性格である

|           | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------|-------|--------|---------|
| あてはまる     | 357   | 16.8%  | 16.8%   |
| ややあてはまる   | 550   | 25.9%  | 42.8%   |
| どちらともいえない | 558   | 26.3%  | 69.1%   |
| ややあてはまらない | 388   | 18.3%  | 87.4%   |
| あてはまらない   | 268   | 12.6%  | 100.0%  |
| 合計        | 2,121 | 100.0% |         |

q10l自分に厳しい

|           | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------|-------|--------|---------|
| あてはまる     | 149   | 7.0%   | 7.0%    |
| ややあてはまる   | 319   | 15.0%  | 22.1%   |
| どちらともいえない | 719   | 33.9%  | 56.0%   |
| ややあてはまらない | 618   | 29.2%  | 85.1%   |
| あてはまらない   | 315   | 14.9%  | 100.0%  |
| 合計        | 2,120 | 100.0% |         |

q10m責任感が強い

|           | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------|-------|--------|---------|
| あてはまる     | 393   | 18.6%  | 18.6%   |
| ややあてはまる   | 712   | 33.6%  | 52.2%   |
| どちらともいえない | 616   | 29.1%  | 81.3%   |
| ややあてはまらない | 277   | 13.1%  | 94.3%   |
| あてはまらない   | 120   | 5.7%   | 100.0%  |
| 合計        | 2,118 | 100.0% |         |

q10n知的能力に自信がある

|           | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------|-------|--------|---------|
| あてはまる     | 94    | 4.4%   | 4.4%    |
| ややあてはまる   | 317   | 15.0%  | 19.4%   |
| どちらともいえない | 779   | 36.7%  | 56.1%   |
| ややあてはまらない | 602   | 28.4%  | 84.5%   |
| あてはまらない   | 328   | 15.5%  | 100.0%  |
| 合計        | 2,120 | 100.0% |         |

q10o人よりいろいろ知っている

|           | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------|-------|--------|---------|
| あてはまる     | 109   | 5.1%   | 5.1%    |
| ややあてはまる   | 330   | 15.6%  | 20.7%   |
| どちらともいえない | 705   | 33.3%  | 54.0%   |
| ややあてはまらない | 624   | 29.4%  | 83.4%   |
| あてはまらない   | 351   | 16.6%  | 100.0%  |
| 合計        | 2,119 | 100.0% |         |

q10p頭の回転が速い

|           | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------|-------|--------|---------|
| あてはまる     | 123   | 5.8%   | 5.8%    |
| ややあてはまる   | 342   | 16.1%  | 21.9%   |
| どちらともいえない | 685   | 32.3%  | 54.3%   |
| ややあてはまらない | 597   | 28.2%  | 82.4%   |
| あてはまらない   | 372   | 17.6%  | 100.0%  |
| 合計        | 2,119 | 100.0% |         |

q10q目鼻立ちが整っている

|           | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------|-------|--------|---------|
| あてはまる     | 50    | 2.4%   | 2.4%    |
| ややあてはまる   | 157   | 7.4%   | 9.8%    |
| どちらともいえない | 713   | 33.6%  | 43.4%   |
| ややあてはまらない | 578   | 27.2%  | 70.6%   |
| あてはまらない   | 624   | 29.4%  | 100.0%  |
| 合計        | 2,122 | 100.0% |         |

q10r自分の外見に自信がある

|           | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------|-------|--------|---------|
| あてはまる     | 29    | 1.4%   | 1.4%    |
| ややあてはまる   | 109   | 5.1%   | 6.5%    |
| どちらともいえない | 631   | 29.8%  | 36.3%   |
| ややあてはまらない | 582   | 27.5%  | 63.8%   |
| あてはまらない   | 767   | 36.2%  | 100.0%  |
| 合計        | 2,118 | 100.0% |         |

q10s自分の顔に気に入っているところがある

|           | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------|-------|--------|---------|
| あてはまる     | 121   | 5.7%   | 5.7%    |
| ややあてはまる   | 262   | 12.4%  | 18.1%   |
| どちらともいえない | 603   | 28.5%  | 46.5%   |
| ややあてはまらない | 528   | 24.9%  | 71.4%   |
| あてはまらない   | 605   | 28.6%  | 100.0%  |
| 合計        | 2,119 | 100.0% |         |

q10t趣味・特技に自信がある

|           | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------|-------|--------|---------|
| あてはまる     | 338   | 16.0%  | 16.0%   |
| ややあてはまる   | 521   | 24.6%  | 40.5%   |
| どちらともいえない | 644   | 30.4%  | 70.9%   |
| ややあてはまらない | 356   | 16.8%  | 87.7%   |
| あてはまらない   | 260   | 12.3%  | 100.0%  |
| 合計        | 2,119 | 100.0% |         |

q10u特技がある

|           | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------|-------|--------|---------|
| あてはまる     | 393   | 18.6%  | 18.6%   |
| ややあてはまる   | 493   | 23.3%  | 41.9%   |
| どちらともいえない | 591   | 27.9%  | 69.8%   |
| ややあてはまらない | 345   | 16.3%  | 86.1%   |
| あてはまらない   | 295   | 13.9%  | 100.0%  |
| 合計        | 2,117 | 100.0% |         |

q10w熱中している趣味がある

|           | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------|-------|--------|---------|
| あてはまる     | 680   | 32.1%  | 32.1%   |
| ややあてはまる   | 531   | 25.0%  | 57.1%   |
| どちらともいえない | 494   | 23.3%  | 80.4%   |
| ややあてはまらない | 218   | 10.3%  | 90.7%   |
| あてはまらない   | 198   | 9.3%   | 100.0%  |
| 合計        | 2,121 | 100.0% |         |

q11fn/友人数

|       | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-------|-------|--------|---------|
| 0人    | 117   | 5.8%   | 5.8%    |
| 1人以下  | 107   | 5.3%   | 11.0%   |
| 2人以下  | 250   | 12.3%  | 23.3%   |
| 3人以下  | 365   | 18.0%  | 41.3%   |
| 4人以下  | 207   | 10.2%  | 51.5%   |
| 5人以下  | 341   | 16.8%  | 68.3%   |
| 6人以下  | 147   | 7.2%   | 75.5%   |
| 7人以下  | 76    | 3.7%   | 79.2%   |
| 8人以下  | 72    | 3.5%   | 82.8%   |
| 9人以下  | 24    | 1.2%   | 84.0%   |
| 10人以下 | 206   | 10.1%  | 94.1%   |
| 11人以上 | 120   | 5.9%   | 100.0%  |
| 合計    | 2,032 | 100.0% |         |

q11hefn異性の友人数

|      | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------|-------|--------|---------|
| 0人   | 831   | 41.5%  | 41.5%   |
| 1人以下 | 520   | 26.0%  | 67.5%   |
| 2人以下 | 354   | 17.7%  | 85.2%   |
| 3人以下 | 162   | 8.1%   | 93.3%   |
| 4人以下 | 40    | 2.0%   | 95.3%   |
| 5人以下 | 58    | 2.9%   | 98.2%   |
| 6人以上 | 37    | 1.8%   | 100.0%  |
| 合計   | 2,002 | 100.0% |         |

q12a仕事以外に自分の生きがいを持ちたい

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 1,534 | 72.3%  | 72.3%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 512   | 24.1%  | 96.4%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 59    | 2.8%   | 99.2%   |
| そう思わない           | 17    | 0.8%   | 100.0%  |
| 合計               | 2,122 | 100.0% |         |

q12b若いうちは1つの仕事に留まらず、いろいろな経験をしたい

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 759   | 35.8%  | 35.8%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 728   | 34.3%  | 70.1%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 470   | 22.1%  | 92.2%   |
| そう思わない           | 165   | 7.8%   | 100.0%  |
| 合計               | 2,122 | 100.0% |         |

q12c専門的な知識や技術をみがきたい

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 1,106 | 52.2%  | 52.2%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 795   | 37.5%  | 89.7%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 191   | 9.0%   | 98.7%   |
| そう思わない           | 28    | 1.3%   | 100.0%  |
| 合計               | 2,120 | 100.0% |         |

q12d人より高い収入を得たい

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 927   | 43.7%  | 43.7%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 841   | 39.6%  | 83.3%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 283   | 13.3%  | 96.7%   |
| そう思わない           | 71    | 3.3%   | 100.0%  |
| 合計               | 2,122 | 100.0% |         |

q12e有名になりたい

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 324   | 15.3%  | 15.3%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 489   | 23.1%  | 38.3%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 853   | 40.2%  | 78.6%   |
| そう思わない           | 454   | 21.4%  | 100.0%  |
| 合計               | 2,120 | 100.0% |         |

q12f人の役に立つ仕事をしたい

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 1,000 | 47.2%  | 47.2%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 816   | 38.5%  | 85.7%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 232   | 10.9%  | 96.6%   |
| そう思わない           | 71    | 3.4%   | 100.0%  |
| 合計               | 2,119 | 100.0% |         |

q12gいろいろな人と出会いたい

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 1,250 | 58.9%  | 58.9%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 628   | 29.6%  | 88.5%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 191   | 9.0%   | 97.5%   |
| そう思わない           | 53    | 2.5%   | 100.0%  |
| 合計               | 2,122 | 100.0% |         |

q12hあまりがんばって働かず、のんびり暮らしたい

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 454   | 21.4%  | 21.4%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 850   | 40.1%  | 61.5%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 628   | 29.6%  | 91.0%   |
| そう思わない           | 190   | 9.0%   | 100.0%  |
| 合計               | 2,122 | 100.0% |         |

q12j自分にあわない仕事ならしたくない

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 1,013 | 48.0%  | 48.0%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 705   | 33.4%  | 81.3%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 336   | 15.9%  | 97.3%   |
| そう思わない           | 58    | 2.7%   | 100.0%  |
| 合計               | 2,112 | 100.0% |         |

q12k将来の仕事については考えていない

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 124   | 5.9%   | 5.9%    |
| どちらかといええば、そう思う   | 305   | 14.5%  | 20.3%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 751   | 35.6%  | 55.9%   |
| そう思わない           | 930   | 44.1%  | 100.0%  |
| 合計               | 2,110 | 100.0% |         |

q12k家族との時間を大切にしたい

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 952   | 45.1%  | 45.1%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 878   | 41.6%  | 86.8%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 222   | 10.5%  | 97.3%   |
| そう思わない           | 57    | 2.7%   | 100.0%  |
| 合計               | 2,109 | 100.0% |         |

q12l海外で活躍したい

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 240   | 11.4%  | 11.4%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 415   | 19.7%  | 31.1%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 753   | 35.7%  | 66.8%   |
| そう思わない           | 700   | 33.2%  | 100.0%  |
| 合計               | 2,108 | 100.0% |         |

q12m地元から離れたくない

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 409   | 19.4%  | 19.4%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 601   | 28.5%  | 47.9%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 684   | 32.4%  | 80.3%   |
| そう思わない           | 416   | 19.7%  | 100.0%  |
| 合計               | 2,110 | 100.0% |         |

q12n仕事はしたくない

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 128   | 6.1%   | 6.1%    |
| どちらかといええば、そう思う   | 221   | 10.5%  | 16.6%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 613   | 29.1%  | 45.7%   |
| そう思わない           | 1,144 | 54.3%  | 100.0%  |
| 合計               | 2,106 | 100.0% |         |

q12o正社員にはなりたくない

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 68    | 3.2%   | 3.2%    |
| どちらかといええば、そう思う   | 81    | 3.8%   | 7.1%    |
| どちらかといええば、そう思わない | 577   | 27.4%  | 34.5%   |
| そう思わない           | 1,381 | 65.5%  | 100.0%  |
| 合計               | 2,107 | 100.0% |         |

q12pアルバイトでも何とか暮らしていける

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 74    | 3.5%   | 3.5%    |
| どちらかといええば、そう思う   | 213   | 10.1%  | 13.6%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 571   | 27.1%  | 40.8%   |
| そう思わない           | 1,247 | 59.2%  | 100.0%  |
| 合計               | 2,105 | 100.0% |         |

q12q権威のある人々にはつねに敬意をはらわなければならない

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 445   | 21.1%  | 21.1%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 890   | 42.2%  | 63.4%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 586   | 27.8%  | 91.2%   |
| そう思わない           | 186   | 8.8%   | 100.0%  |
| 合計               | 2,107 | 100.0% |         |

q12r以前からなされたやり方を守ることが、最上の結果を生む

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 127   | 6.0%   | 6.0%    |
| どちらかといええば、そう思う   | 488   | 23.2%  | 29.3%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 1,074 | 51.1%  | 80.4%   |
| そう思わない           | 411   | 19.6%  | 100.0%  |
| 合計               | 2,100 | 100.0% |         |

q12s伝統や慣習にしたがったやり方に疑問を持つ人は、結局は問題をひ

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 121   | 5.7%   | 5.7%    |
| どちらかといええば、そう思う   | 436   | 20.7%  | 26.4%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 1,156 | 54.8%  | 81.2%   |
| そう思わない           | 396   | 18.8%  | 100.0%  |
| 合計               | 2,109 | 100.0% |         |

q12t複雑な世の中で何をなすべきかを知る一番よい方法は、指導者や専

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 172   | 8.2%   | 8.2%    |
| どちらかといええば、そう思う   | 582   | 27.6%  | 35.8%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 976   | 46.3%  | 82.0%   |
| そう思わない           | 379   | 18.0%  | 100.0%  |
| 合計               | 2,109 | 100.0% |         |

q13バイト経験の有無

|    | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|----|-------|--------|---------|
| ある | 1,820 | 86.3%  | 86.3%   |
| ない | 288   | 13.7%  | 100.0%  |
| 合計 | 2,108 | 100.0% |         |

q13sq1バイト先選択理由

|             | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-------------|-------|--------|---------|
| 時給がいい       | 334   | 21.6%  | 21.6%   |
| 勤務地が近い      | 599   | 38.7%  | 60.3%   |
| 将来の職業に役立つ   | 77    | 5.0%   | 65.3%   |
| 友人がいる       | 68    | 4.4%   | 69.7%   |
| 勤務日時が自由に選べる | 196   | 12.7%  | 82.4%   |
| 職場の雰囲気が良い   | 196   | 12.7%  | 95.1%   |
| その他         | 76    | 4.9%   | 100.0%  |
| 合計          | 1,546 | 100.0% |         |

q13sq2 バイト頻度：週に何日

|      | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------|-------|--------|---------|
| 1日以下 | 109   | 6.1%   | 6.1%    |
| 2日以下 | 302   | 16.8%  | 22.8%   |
| 3日以下 | 577   | 32.0%  | 54.9%   |
| 4日以下 | 476   | 26.4%  | 81.3%   |
| 5日以上 | 337   | 18.7%  | 100.0%  |
| 合計   | 1,801 | 100.0% |         |

q13sq3バイト経験年数

|      | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------|-------|--------|---------|
| 0年   | 785   | 43.9%  | 43.9%   |
| 1年   | 429   | 24.0%  | 67.9%   |
| 2年   | 321   | 17.9%  | 85.8%   |
| 3年   | 165   | 9.2%   | 95.0%   |
| 4年   | 53    | 3.0%   | 98.0%   |
| 5年以上 | 36    | 2.0%   | 100.0%  |
| 合計   | 1,789 | 100.0% |         |

q14a何か計画するときには、その計画が必ず実現できると思う

|                | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|----------------|-------|--------|---------|
| そう思う           | 211   | 10.0%  | 10.0%   |
| どちらかといえ、そう思う   | 863   | 40.9%  | 50.9%   |
| どちらかといえ、そう思わない | 839   | 39.8%  | 90.7%   |
| そう思わない         | 195   | 9.3%   | 100.0%  |
| 合計             | 2,108 | 100.0% |         |

q14bしなければならぬことが  
あるのに、なかなかとりにかかれな

|                | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|----------------|-------|--------|---------|
| そう思う           | 816   | 38.8%  | 38.8%   |
| どちらかといえ、そう思う   | 972   | 46.2%  | 85.0%   |
| どちらかといえ、そう思わない | 260   | 12.4%  | 97.3%   |
| そう思わない         | 56    | 2.7%   | 100.0%  |
| 合計             | 2,104 | 100.0% |         |

q14c失敗しても、最後までやりとげることができる

|                | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|----------------|-------|--------|---------|
| そう思う           | 325   | 15.4%  | 15.4%   |
| どちらかといえ、そう思う   | 958   | 45.4%  | 60.8%   |
| どちらかといえ、そう思わない | 733   | 34.8%  | 95.6%   |
| そう思わない         | 93    | 4.4%   | 100.0%  |
| 合計             | 2,109 | 100.0% |         |

q14d大切な目標があっても、なかなか実行できない

|                | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|----------------|-------|--------|---------|
| そう思う           | 361   | 17.2%  | 17.2%   |
| どちらかといえ、そう思う   | 934   | 44.4%  | 61.6%   |
| どちらかといえ、そう思わない | 672   | 32.0%  | 93.5%   |
| そう思わない         | 136   | 6.5%   | 100.0%  |
| 合計             | 2,103 | 100.0% |         |

q14e最後までやりとげの前に、あきらめてしまうことが多い

|                | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|----------------|-------|--------|---------|
| そう思う           | 220   | 10.5%  | 10.5%   |
| どちらかといえ、そう思う   | 722   | 34.4%  | 44.9%   |
| どちらかといえ、そう思わない | 862   | 41.1%  | 85.9%   |
| そう思わない         | 295   | 14.1%  | 100.0%  |
| 合計             | 2,099 | 100.0% |         |

q14fめんどうなことでも、しなければならぬことなら、やりとげるといえる

|                | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|----------------|-------|--------|---------|
| そう思う           | 654   | 31.0%  | 31.0%   |
| どちらかといえ、そう思う   | 959   | 45.5%  | 76.6%   |
| どちらかといえ、そう思わない | 424   | 20.1%  | 96.7%   |
| そう思わない         | 70    | 3.3%   | 100.0%  |
| 合計             | 2,107 | 100.0% |         |

q14g何かしよと決めると、すぐにそれにとりかか

|                | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|----------------|-------|--------|---------|
| そう思う           | 328   | 15.6%  | 15.6%   |
| どちらかといえ、そう思う   | 611   | 29.0%  | 44.5%   |
| どちらかといえ、そう思わない | 960   | 45.5%  | 90.0%   |
| そう思わない         | 210   | 10.0%  | 100.0%  |
| 合計             | 2,109 | 100.0% |         |

q14h新しく勉強しようとするのがむずかしい

|                | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|----------------|-------|--------|---------|
| そう思う           | 233   | 11.0%  | 11.0%   |
| どちらかといえ、そう思う   | 677   | 32.1%  | 43.1%   |
| どちらかといえ、そう思わない | 910   | 43.1%  | 86.3%   |
| そう思わない         | 289   | 13.7%  | 100.0%  |
| 合計             | 2,109 | 100.0% |         |

q14i失敗すると、よけいにやる気がお

|                | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|----------------|-------|--------|---------|
| そう思う           | 188   | 8.9%   | 8.9%    |
| どちらかといえ、そう思う   | 426   | 20.2%  | 29.1%   |
| どちらかといえ、そう思わない | 1,045 | 49.5%  | 78.7%   |
| そう思わない         | 450   | 21.3%  | 100.0%  |
| 合計             | 2,109 | 100.0% |         |

q14j物事がやりとげられるかどうか、心配である

|                | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|----------------|-------|--------|---------|
| そう思う           | 745   | 35.3%  | 35.3%   |
| どちらかといえ、そう思う   | 913   | 43.3%  | 78.6%   |
| どちらかといえ、そう思わない | 346   | 16.4%  | 95.0%   |
| そう思わない         | 105   | 5.0%   | 100.0%  |
| 合計             | 2,109 | 100.0% |         |

q17dひとり親でも、両親がそろっている家庭と同じように、子どもを育てることができ

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 507   | 24.1%  | 24.1%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 759   | 36.1%  | 60.2%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 626   | 29.8%  | 89.9%   |
| そう思わない           | 212   | 10.1%  | 100.0%  |
| 合計               | 2,104 | 100.0% |         |

q17e結婚しようと思っっている男女は、結婚前にまず同居してみるのがよ

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 706   | 33.5%  | 33.5%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 922   | 43.8%  | 77.3%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 378   | 17.9%  | 95.3%   |
| そう思わない           | 100   | 4.7%   | 100.0%  |
| 合計               | 2,106 | 100.0% |         |

q17f結婚生活がうまくいかなかったら、たいていは離婚するのが一番よ

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 194   | 9.2%   | 9.2%    |
| どちらかといええば、そう思う   | 433   | 20.6%  | 29.9%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 1,056 | 50.3%  | 80.1%   |
| そう思わない           | 417   | 19.9%  | 100.0%  |
| 合計               | 2,100 | 100.0% |         |

q17g結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 796   | 37.9%  | 37.9%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 831   | 39.5%  | 77.4%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 375   | 17.8%  | 95.2%   |
| そう思わない           | 101   | 4.8%   | 100.0%  |
| 合計               | 2,103 | 100.0% |         |

q17h子どもがいれば夫婦の仲がたとえ悪くなくても、別れるべきではな

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 463   | 22.1%  | 22.1%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 829   | 39.6%  | 61.8%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 616   | 29.5%  | 91.2%   |
| そう思わない           | 183   | 8.8%   | 100.0%  |
| 合計               | 2,091 | 100.0% |         |

q17i生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 351   | 16.7%  | 16.7%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 602   | 28.7%  | 45.4%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 718   | 34.2%  | 79.6%   |
| そう思わない           | 427   | 20.4%  | 100.0%  |
| 合計               | 2,098 | 100.0% |         |

q14k他人には頼りたくない

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 308   | 14.6%  | 14.6%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 728   | 34.6%  | 49.2%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 768   | 36.4%  | 85.6%   |
| そう思わない           | 303   | 14.4%  | 100.0%  |
| 合計               | 2,107 | 100.0% |         |

q15生活満足度

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| 満足している          | 392   | 18.6%  | 18.6%   |
| どちらかといええば満足している | 930   | 44.1%  | 62.7%   |
| どちらともいえない       | 448   | 21.2%  | 83.9%   |
| どちらかといええば不満である  | 224   | 10.6%  | 94.5%   |
| 不満である           | 116   | 5.5%   | 100.0%  |
| 合計              | 2,110 | 100.0% |         |

q16階層意識

|     | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----|-------|--------|---------|
| 上   | 55    | 2.6%   | 2.6%    |
| 中の上 | 620   | 29.5%  | 32.1%   |
| 中の下 | 974   | 46.4%  | 78.5%   |
| 下の下 | 331   | 15.8%  | 94.2%   |
| 合計  | 2,101 | 100.0% |         |

q17a結婚している人の方が、結婚していない人よりだいたい幸せだ

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 344   | 16.3%  | 16.3%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 830   | 39.4%  | 55.7%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 589   | 28.0%  | 83.7%   |
| そう思わない           | 343   | 16.3%  | 100.0%  |
| 合計               | 2,106 | 100.0% |         |

q17b結婚のいい点は、経済的に安定することだ

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 199   | 9.4%   | 9.4%    |
| どちらかといええば、そう思う   | 709   | 33.6%  | 43.1%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 860   | 40.8%  | 83.9%   |
| そう思わない           | 339   | 16.1%  | 100.0%  |
| 合計               | 2,107 | 100.0% |         |

q17c今日、人々が結婚するのは、主に子どもをつくるためだ

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 81    | 3.9%   | 3.9%    |
| どちらかといええば、そう思う   | 344   | 16.4%  | 20.3%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 1,117 | 53.2%  | 73.5%   |
| そう思わない           | 556   | 26.5%  | 100.0%  |
| 合計               | 2,098 | 100.0% |         |

**q17j**男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 427   | 20.4%  | 20.4%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 704   | 33.6%  | 54.0%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 684   | 32.7%  | 86.7%   |
| そう思わない          | 278   | 13.3%  | 100.0%  |
| 合計              | 2,093 | 100.0% |         |

**q17k**結婚前の男女でも愛情があるなら性交渉を持つてかまわない

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 886   | 42.4%  | 42.4%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 928   | 44.4%  | 86.8%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 182   | 8.7%   | 95.5%   |
| そう思わない          | 93    | 4.5%   | 100.0%  |
| 合計              | 2,089 | 100.0% |         |

**q17l**結婚しても、人生には結婚相手や家族とは別の自分だけの目標を持つ

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 765   | 36.5%  | 36.5%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 1,055 | 50.4%  | 86.9%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 240   | 11.5%  | 98.4%   |
| そう思わない          | 34    | 1.6%   | 100.0%  |
| 合計              | 2,094 | 100.0% |         |

**q17m**結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にす

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 310   | 14.8%  | 14.8%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 859   | 41.0%  | 55.7%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 683   | 32.6%  | 88.3%   |
| そう思わない          | 245   | 11.7%  | 100.0%  |
| 合計              | 2,097 | 100.0% |         |

**q17n**結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 124   | 5.9%   | 5.9%    |
| どちらかといえば、そう思う   | 385   | 18.4%  | 24.3%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 860   | 41.1%  | 65.3%   |
| そう思わない          | 726   | 34.7%  | 100.0%  |
| 合計              | 2,095 | 100.0% |         |

**q17o**結婚したら、子どもは持つべきだ

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 328   | 15.6%  | 15.6%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 725   | 34.6%  | 50.2%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 668   | 31.9%  | 82.1%   |
| そう思わない          | 376   | 17.9%  | 100.0%  |
| 合計              | 2,097 | 100.0% |         |

**q17p**恋愛と結婚は別である

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 852   | 40.7%  | 40.7%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 720   | 34.4%  | 75.2%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 362   | 17.3%  | 92.5%   |
| そう思わない          | 157   | 7.5%   | 100.0%  |
| 合計              | 2,091 | 100.0% |         |

**q17q**就学前の子どもは、母親が働きに出ると傷つきやすい

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 340   | 16.2%  | 16.2%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 753   | 35.9%  | 52.2%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 735   | 35.1%  | 87.3%   |
| そう思わない          | 267   | 12.7%  | 100.0%  |
| 合計              | 2,095 | 100.0% |         |

**q17r**夫に十分な収入がある場合には、女性は仕事を持たないほうがよい

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 214   | 10.3%  | 10.3%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 432   | 20.7%  | 31.0%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 941   | 45.1%  | 76.0%   |
| そう思わない          | 500   | 24.0%  | 100.0%  |
| 合計              | 2,087 | 100.0% |         |

**q17s**妻にとっては、自分の仕事を持つよりも、夫の手助けをする方が大

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 177   | 8.5%   | 8.5%    |
| どちらかといえば、そう思う   | 511   | 24.4%  | 32.9%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 926   | 44.2%  | 77.1%   |
| そう思わない          | 479   | 22.9%  | 100.0%  |
| 合計              | 2,093 | 100.0% |         |

**q17t**家庭の維持費は夫も妻ともに稼いだすべきだ

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 324   | 15.5%  | 15.5%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 874   | 41.7%  | 57.2%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 750   | 35.8%  | 93.0%   |
| そう思わない          | 147   | 7.0%   | 100.0%  |
| 合計              | 2,095 | 100.0% |         |

**q18**体験学習の経験

|                | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|----------------|-------|--------|---------|
| 「トライややる」のみ参加   | 74    | 3.5%   | 3.5%    |
| 「自然学校」のみ参加     | 166   | 7.8%   | 11.3%   |
| 両方参加           | 1,184 | 55.7%  | 67.0%   |
| どちらでも参加せず      | 491   | 23.1%  | 90.1%   |
| 県外でトライややる同様体験  | 71    | 3.3%   | 93.4%   |
| 県外トライやると「自然学校」 | 40    | 1.9%   | 95.3%   |
| 無回答            | 100   | 4.7%   | 100.0%  |
| 合計             | 2,126 | 100.0% |         |

q18\_5\_2体験日数

|          | 度数  | パーセント  | 累積パーセント |
|----------|-----|--------|---------|
| 1日       | 24  | 23.1%  | 23.1%   |
| 2日以上3日未満 | 20  | 19.2%  | 42.3%   |
| 3日以上4日未満 | 34  | 32.7%  | 75.0%   |
| 4日以上5日未満 | 6   | 5.8%   | 80.8%   |
| 5日       | 20  | 19.2%  | 100.0%  |
| 合計       | 104 | 100.0% |         |

q20sq1活動先までの所用時間

|            | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------|-------|--------|---------|
| 15分未満      | 450   | 36.7%  | 36.7%   |
| 15分以上30分未満 | 450   | 36.7%  | 73.3%   |
| 30分以上45分未満 | 263   | 21.4%  | 94.8%   |
| 45分以上1時間未満 | 22    | 1.8%   | 96.6%   |
| 1時間以上      | 42    | 3.4%   | 100.0%  |
| 合計         | 1,227 | 100.0% |         |

q21活動の種類

|              | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|--------------|-------|--------|---------|
| 10種類未満       | 84    | 7.7%   | 7.7%    |
| 10種類以上20種類未満 | 202   | 18.5%  | 26.1%   |
| 20種類以上30種類未満 | 275   | 25.1%  | 51.3%   |
| 30種類以上40種類未満 | 250   | 22.9%  | 74.1%   |
| 40種類以上50種類未満 | 63    | 5.8%   | 79.9%   |
| 50種類以上       | 220   | 20.1%  | 100.0%  |
| 合計           | 1,094 | 100.0% |         |

q22活動種類への印象

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| 多いと思った           | 454   | 37.0%  | 37.0%   |
| どちらかといえれば多いと思った  | 187   | 15.3%  | 52.3%   |
| どちらかといえれば少ないと思った | 532   | 43.4%  | 95.7%   |
| 少ないと思った          | 53    | 4.3%   | 100.0%  |
| 合計               | 1,226 | 100.0% |         |

q23\_1誰にも相談しなかった

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| あてはまらない | 867   | 70.5%  | 70.5%   |
| あてはまる   | 362   | 29.5%  | 100.0%  |
| 合計      | 1,229 | 100.0% |         |

q23\_2父親に相談した

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| あてはまらない | 1,100 | 89.5%  | 89.5%   |
| あてはまる   | 129   | 10.5%  | 100.0%  |
| 合計      | 1,229 | 100.0% |         |

q23\_3母親に相談した

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| あてはまらない | 847   | 68.9%  | 68.9%   |
| あてはまる   | 382   | 31.1%  | 100.0%  |
| 合計      | 1,229 | 100.0% |         |

q23\_4きょうだいに相談した

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| あてはまらない | 1,160 | 94.4%  | 94.4%   |
| あてはまる   | 69    | 5.6%   | 100.0%  |
| 合計      | 1,229 | 100.0% |         |

q23\_5友達に相談した

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| あてはまらない | 549   | 44.7%  | 44.7%   |
| あてはまる   | 680   | 55.3%  | 100.0%  |
| 合計      | 1,229 | 100.0% |         |

q23\_6先輩に相談した

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| あてはまらない | 1,199 | 97.6%  | 97.6%   |
| あてはまる   | 30    | 2.4%   | 100.0%  |
| 合計      | 1,229 | 100.0% |         |

q23\_7その他

|         | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------|-------|--------|---------|
| あてはまらない | 1,211 | 98.5%  | 98.5%   |
| あてはまる   | 18    | 1.5%   | 100.0%  |
| 合計      | 1,229 | 100.0% |         |

q24中学2年生時のクラスの人数

|            | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------|-------|--------|---------|
| 30人未満      | 46    | 3.8%   | 3.8%    |
| 30人以上40人未満 | 730   | 59.8%  | 63.6%   |
| 40人以上      | 444   | 36.4%  | 100.0%  |
| 合計         | 1,220 | 100.0% |         |

q24中学2年生時のクラス数

|               | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|---------------|-------|--------|---------|
| 5クラス未満        | 367   | 30.9%  | 30.9%   |
| 5クラス以上10クラス未満 | 795   | 66.9%  | 97.8%   |
| 10クラス以上       | 26    | 2.2%   | 100.0%  |
| 合計            | 1,188 | 100.0% |         |

q25a貴重な体験だった

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 774   | 63.0%  | 63.0%   |
| どちらかといえれば、そう思う   | 339   | 27.6%  | 90.6%   |
| どちらかといえれば、そう思わない | 78    | 6.3%   | 96.9%   |
| そう思わない           | 38    | 3.1%   | 100.0%  |
| 合計               | 1,229 | 100.0% |         |

q25b体験中に、感動することがあった

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 433   | 35.3%  | 35.3%   |
| どちらかといえれば、そう思う   | 351   | 28.6%  | 63.8%   |
| どちらかといえれば、そう思わない | 282   | 23.0%  | 86.8%   |
| そう思わない           | 162   | 13.2%  | 100.0%  |
| 合計               | 1,228 | 100.0% |         |

q25i体験中、自分から主体的に行動することが出来た

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 363   | 29.6%  | 29.6%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 482   | 39.3%  | 68.9%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 304   | 24.8%  | 93.6%   |
| そう思わない          | 78    | 6.4%   | 100.0%  |
| 合計              | 1,227 | 100.0% |         |

q25j後輩の中学生たちにも体験をすすめたい

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 538   | 43.9%  | 43.9%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 420   | 34.3%  | 78.2%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 185   | 15.1%  | 93.3%   |
| そう思わない          | 82    | 6.7%   | 100.0%  |
| 合計              | 1,225 | 100.0% |         |

q25k将来、自分の子どもたちにも体験して欲しい

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 602   | 49.1%  | 49.1%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 434   | 35.4%  | 84.6%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 128   | 10.4%  | 95.0%   |
| そう思わない          | 61    | 5.0%   | 100.0%  |
| 合計              | 1,225 | 100.0% |         |

q25l仕事に偏見を持っていたことが分かった

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 154   | 12.6%  | 12.6%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 224   | 18.3%  | 30.8%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 530   | 43.2%  | 74.1%   |
| そう思わない          | 318   | 25.9%  | 100.0%  |
| 合計              | 1,226 | 100.0% |         |

q25m当時の体験が、その後の進路選択に影響を与えた

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 173   | 14.1%  | 14.1%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 169   | 13.8%  | 28.0%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 397   | 32.5%  | 60.4%   |
| そう思わない          | 484   | 39.6%  | 100.0%  |
| 合計              | 1,223 | 100.0% |         |

q25n自分が参加したこと、受入先の人たちにとってプラスになった

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 161   | 13.2%  | 13.2%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 359   | 29.4%  | 42.6%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 489   | 40.0%  | 82.6%   |
| そう思わない          | 213   | 17.4%  | 100.0%  |
| 合計              | 1,222 | 100.0% |         |

q25c学校では学べないことが経験出来た

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 779   | 63.4%  | 63.4%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 379   | 30.8%  | 94.2%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 53    | 4.3%   | 98.5%   |
| そう思わない          | 18    | 1.5%   | 100.0%  |
| 合計              | 1,229 | 100.0% |         |

q25d自分が受け入れられた感じがした

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 342   | 27.9%  | 27.9%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 507   | 41.3%  | 69.2%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 284   | 23.1%  | 92.3%   |
| そう思わない          | 94    | 7.7%   | 100.0%  |
| 合計              | 1,227 | 100.0% |         |

q25e学校とは違い、自由な感じがした

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 351   | 28.6%  | 28.6%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 399   | 32.5%  | 61.1%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 358   | 29.2%  | 90.3%   |
| そう思わない          | 119   | 9.7%   | 100.0%  |
| 合計              | 1,227 | 100.0% |         |

q25f授業がなくなってくれしかった

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 566   | 46.1%  | 46.1%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 459   | 37.4%  | 83.5%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 149   | 12.1%  | 95.7%   |
| そう思わない          | 53    | 4.3%   | 100.0%  |
| 合計              | 1,227 | 100.0% |         |

q25gクラブがなくなってくれしかった

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 320   | 26.1%  | 26.1%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 307   | 25.0%  | 51.1%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 344   | 28.1%  | 79.2%   |
| そう思わない          | 255   | 20.8%  | 100.0%  |
| 合計              | 1,226 | 100.0% |         |

q25h受入先での活動内容には満足した

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 527   | 43.0%  | 43.0%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 458   | 37.3%  | 80.3%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 182   | 14.8%  | 95.1%   |
| そう思わない          | 60    | 4.9%   | 100.0%  |
| 合計              | 1,227 | 100.0% |         |

q25o進う行き先を選べば良かった

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 163   | 13.3%  | 13.3%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 203   | 16.6%  | 29.9%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 375   | 30.7%  | 60.6%   |
| そう思わない           | 482   | 39.4%  | 100.0%  |
| 合計               | 1,223 | 100.0% |         |

q25pお金を稼ぐことの大変さが分かった

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 409   | 33.5%  | 33.5%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 420   | 34.4%  | 68.0%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 252   | 20.7%  | 88.6%   |
| そう思わない           | 139   | 11.4%  | 100.0%  |
| 合計               | 1,220 | 100.0% |         |

q25q人付き合ひの大切さが分かった

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 547   | 44.8%  | 44.8%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 480   | 39.3%  | 84.0%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 150   | 12.3%  | 96.3%   |
| そう思わない           | 45    | 3.7%   | 100.0%  |
| 合計               | 1,222 | 100.0% |         |

q25r友人・知人の数が増えた

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 205   | 16.8%  | 16.8%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 284   | 23.3%  | 40.0%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 466   | 38.2%  | 78.2%   |
| そう思わない           | 266   | 21.8%  | 100.0%  |
| 合計               | 1,221 | 100.0% |         |

q25s受入先の人とたくさんコミュニケーションがとれた

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 415   | 34.1%  | 34.1%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 489   | 40.1%  | 74.2%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 254   | 20.9%  | 95.1%   |
| そう思わない           | 60    | 4.9%   | 100.0%  |
| 合計               | 1,218 | 100.0% |         |

q25t「トライやる・ウィーク」をきっかけに知り合った人たちと、今も付き合いがある

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 94    | 7.7%   | 7.7%    |
| どちらかといええば、そう思う   | 106   | 8.7%   | 16.4%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 312   | 25.6%  | 42.0%   |
| そう思わない           | 707   | 58.0%  | 100.0%  |
| 合計               | 1,219 | 100.0% |         |

q25uお父さんとの会話が增えた

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 79    | 6.5%   | 6.5%    |
| どちらかといええば、そう思う   | 160   | 13.1%  | 19.6%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 416   | 34.1%  | 53.6%   |
| そう思わない           | 566   | 46.4%  | 100.0%  |
| 合計               | 1,221 | 100.0% |         |

q25vお母さんとの会話が增えた

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 117   | 9.6%   | 9.6%    |
| どちらかといええば、そう思う   | 234   | 19.2%  | 28.8%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 385   | 31.6%  | 60.4%   |
| そう思わない           | 483   | 39.6%  | 100.0%  |
| 合計               | 1,219 | 100.0% |         |

q25w学校の先生との会話が增えた

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 98    | 8.0%   | 8.0%    |
| どちらかといええば、そう思う   | 184   | 15.1%  | 23.1%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 434   | 35.6%  | 58.7%   |
| そう思わない           | 504   | 41.3%  | 100.0%  |
| 合計               | 1,220 | 100.0% |         |

q25x楽しい体験だった

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 667   | 54.7%  | 54.7%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 355   | 29.1%  | 83.8%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 142   | 11.6%  | 95.5%   |
| そう思わない           | 55    | 4.5%   | 100.0%  |
| 合計               | 1,219 | 100.0% |         |

q27a子どもの第1希望の場所で活動出来るようにする

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 761   | 62.9%  | 62.9%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 361   | 29.9%  | 92.8%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 71    | 5.9%   | 98.7%   |
| そう思わない           | 16    | 1.3%   | 100.0%  |
| 合計               | 1,209 | 100.0% |         |

q27b受入先の種類を増やす

|                  | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|------------------|-------|--------|---------|
| そう思う             | 700   | 57.9%  | 57.9%   |
| どちらかといええば、そう思う   | 402   | 33.2%  | 91.1%   |
| どちらかといええば、そう思わない | 84    | 6.9%   | 98.0%   |
| そう思わない           | 24    | 2.0%   | 100.0%  |
| 合計               | 1,210 | 100.0% |         |

q27c学校の先生からの事前指導を充実させる

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 506   | 41.9%  | 41.9%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 489   | 40.5%  | 82.4%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 172   | 14.2%  | 96.6%   |
| そう思わない          | 41    | 3.4%   | 100.0%  |
| 合計              | 1,208 | 100.0% |         |

q27d子ども自身が主体的に動けるよう支援する

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 643   | 53.3%  | 53.3%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 471   | 39.1%  | 92.4%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 76    | 6.3%   | 98.7%   |
| そう思わない          | 16    | 1.3%   | 100.0%  |
| 合計              | 1,206 | 100.0% |         |

q27e受入先の人とのコミュニケーションを充実させる

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 680   | 56.3%  | 56.3%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 455   | 37.7%  | 94.0%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 62    | 5.1%   | 99.2%   |
| そう思わない          | 10    | 0.8%   | 100.0%  |
| 合計              | 1,207 | 100.0% |         |

q27f保護者とのコミュニケーションを充実させる

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 464   | 38.5%  | 38.5%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 459   | 38.1%  | 76.5%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 233   | 19.3%  | 95.9%   |
| そう思わない          | 50    | 4.1%   | 100.0%  |
| 合計              | 1,206 | 100.0% |         |

q27g子ども自身が意欲を持って活動に取り組む

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 779   | 64.8%  | 64.8%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 371   | 30.9%  | 95.7%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 42    | 3.5%   | 99.2%   |
| そう思わない          | 10    | 0.8%   | 100.0%  |
| 合計              | 1,202 | 100.0% |         |

q27h少々々辛くても、普段通りの仕事を体験させる

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 536   | 44.3%  | 44.3%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 493   | 40.8%  | 85.1%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 158   | 13.1%  | 98.2%   |
| そう思わない          | 22    | 1.8%   | 100.0%  |
| 合計              | 1,209 | 100.0% |         |

q27i体験後、感想文を書かせる

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 478   | 39.6%  | 39.6%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 411   | 34.0%  | 73.6%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 202   | 16.7%  | 90.3%   |
| そう思わない          | 117   | 9.7%   | 100.0%  |
| 合計              | 1,208 | 100.0% |         |

q27j体験後、発表会で報告させる

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 333   | 27.6%  | 27.6%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 382   | 31.6%  | 59.2%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 312   | 25.8%  | 85.0%   |
| そう思わない          | 181   | 15.0%  | 100.0%  |
| 合計              | 1,208 | 100.0% |         |

q27k「トライやる・ウィーク」の期間を伸ばす

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 356   | 29.5%  | 29.5%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 309   | 25.6%  | 55.0%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 393   | 32.5%  | 87.6%   |
| そう思わない          | 150   | 12.4%  | 100.0%  |
| 合計              | 1,208 | 100.0% |         |

q27l「トライやる・ウィーク」の回数を増やす

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 377   | 31.2%  | 31.2%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 368   | 30.4%  | 61.6%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 313   | 25.9%  | 87.4%   |
| そう思わない          | 152   | 12.6%  | 100.0%  |
| 合計              | 1,210 | 100.0% |         |

q28a自分にとって良い体験だった

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 886   | 66.0%  | 66.0%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 355   | 26.4%  | 92.4%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 68    | 5.1%   | 97.5%   |
| そう思わない          | 34    | 2.5%   | 100.0%  |
| 合計              | 1,343 | 100.0% |         |

q28b後輩の小生たちに「自然学校」の体験をすすめたい

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 801   | 59.7%  | 59.7%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 388   | 28.9%  | 88.7%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 113   | 8.4%   | 97.1%   |
| そう思わない          | 39    | 2.9%   | 100.0%  |
| 合計              | 1,341 | 100.0% |         |

q28c学校では学べないことが経験出来た

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 892   | 66.6%  | 66.6%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 355   | 26.5%  | 93.1%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 71    | 5.3%   | 98.4%   |
| そう思わない          | 22    | 1.6%   | 100.0%  |
| 合計              | 1,340 | 100.0% |         |

q28d「自然学校」体験中に、感動することがあった

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 686   | 51.2%  | 51.2%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 356   | 26.6%  | 77.8%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 209   | 15.6%  | 93.4%   |
| そう思わない          | 88    | 6.6%   | 100.0%  |
| 合計              | 1,339 | 100.0% |         |

q28e学校とは違い、自由な感じがした

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 743   | 55.4%  | 55.4%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 343   | 25.6%  | 81.0%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 173   | 12.9%  | 94.0%   |
| そう思わない          | 81    | 6.0%   | 100.0%  |
| 合計              | 1,340 | 100.0% |         |

q28f「自然学校」に参加して、自分の考えや行動に影響があった

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 414   | 30.9%  | 30.9%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 373   | 27.8%  | 58.7%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 402   | 30.0%  | 88.7%   |
| そう思わない          | 151   | 11.3%  | 100.0%  |
| 合計              | 1,340 | 100.0% |         |

q28g体験中、自分から主体的に行動することが出来た

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 486   | 36.3%  | 36.3%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 498   | 37.2%  | 73.5%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 265   | 19.8%  | 93.3%   |
| そう思わない          | 90    | 6.7%   | 100.0%  |
| 合計              | 1,339 | 100.0% |         |

q28h友だちの普段とは違った側面を知ることが出来た

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 704   | 52.5%  | 52.5%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 455   | 33.9%  | 86.4%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 125   | 9.3%   | 95.7%   |
| そう思わない          | 57    | 4.3%   | 100.0%  |
| 合計              | 1,341 | 100.0% |         |

q28iボランティアの大学生と十分コミュニケーションがとれた

|                 | 度数    | パーセント  | 累積パーセント |
|-----------------|-------|--------|---------|
| そう思う            | 462   | 34.9%  | 34.9%   |
| どちらかといえば、そう思う   | 331   | 25.0%  | 59.9%   |
| どちらかといえば、そう思わない | 245   | 18.5%  | 78.5%   |
| そう思わない          | 285   | 21.5%  | 100.0%  |
| 合計              | 1,323 | 100.0% |         |

## ◆調査票

(財) ひょうご震災記念 21 世紀研究機構  
少子・家庭政策研究所

### 大学生の生活と体験学習についてのアンケート

#### 【ご協力をお願い】

兵庫県内の大学生を対象に、生活と体験学習についての調査を企画いたしました。アンケートにお名前を書いていただく必要はありませんので、どうぞありのままをお答え下さい。ご不明な点やご質問がありましたら、下記までお問い合わせ下さい。

- ・ ご記入は、黒・青のボールペンでお願いいたします。
- ・ ご回答いただきました内容はコンピューターで統計処理いたしますので、あなたがどのような回答をしたか、外部に漏れることはいっさいありません。
- ・ 質問番号順にお答え下さい。一部の方にだけお尋ねする質問もありますが、その場合は指示にそってお願いいたします。

<お問い合わせ先>

(財) ひょうご震災記念 21 世紀研究機構  
少子・家庭政策研究所 所長・野々山久也  
(担当：大瀧・越智)  
電話：078-262-5579 (直通)  
FAX：078-262-5593

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2  
人と防災未来センター・ひと未来館 6 階

問1 あなたの年齢と性別をお答え下さい。

|   |      |      |
|---|------|------|
| 歳 | 1. 男 | 2. 女 |
|---|------|------|

問2 あなたが15歳(中学3年生)の頃、あなたの兄弟姉妹はあなたを含めて何人でしたか。すでに亡くなっていた方や義理のごきょうだいは除いてください。あなたはその中の上から何番目でしたか。また、同性のごきょうだいの中では何番目でしたか。

あなたを含む兄弟姉妹数  人 全体の中で  番目 同性の中で  番目

問3 あなたが15歳(中学3年生)の頃、お宅には次にあげるもののうち、どれとどれがありましたか。この中からあてはまる番号すべてに○をつけて下さい。

|                       |        |                  |                 |           |
|-----------------------|--------|------------------|-----------------|-----------|
| 1. 持家                 | 2. テレビ | 3. クーラー<br>・エアコン | 4. 電子レンジ        | 5. 食器洗い機  |
| 6. パソコン<br>・ワープロ      | 7. FAX | 8. 乗用車           | 9. ピアノ          | 10. 応接セット |
| 11. スポーツ会員権(ゴルフ、テニス等) | 12. 別荘 | 13. 株券<br>または債権  | 14. 美術品<br>・骨董品 | 15. どれも無い |

問4 あなたが15歳(中学3年生)の頃、あなたのおうちに住んでいた方は、あなた自身をふくめて何人でしたか。1人暮らしだった方は、「1人」と記入して下さい。

人

問5 あなたが15歳(中学3年生)の頃、あなたのおうちに住んでいる方たちの、あなたからみた続柄について、この中からあてはまる番号すべてに○をつけて下さい。ただし、1人暮らしだった方は「1. 単身」のみに○をつけて下さい。

|       |      |      |                   |           |                |
|-------|------|------|-------------------|-----------|----------------|
| 1. 単身 | 2. 父 | 3. 母 | 4. 祖父             | 5. 祖母     | 6. 兄           |
| 7. 弟  | 8. 姉 | 9. 妹 | 10. きょうだいの<br>配偶者 | 11. 友人・知人 | 12. その他<br>( ) |

[15歳(中学3年生)の頃、2人以上で暮らしていたという方にうかがいます。1人暮らしだった方は、問6へお進み下さい]

付問5-1 15歳(中学3年生)の頃、あなたの家では、家族そろって夕食を食べることがどれくらいありましたか。あてはまる番号に○をつけて下さい(○は1つだけ)。

|                    |           |
|--------------------|-----------|
| 1. ほぼ毎日            | 2. 週に4~5日 |
| 3. 週に2~3日          | 4. 週に1日   |
| 5. 家族がそろうことはほとんどない |           |

問 6 あなたのお父さん、お母さんが最後に卒業された学校はどちらですか。それぞれあてはまる番号を選んで、**1つだけ記入**して下さい。

父

母

|            |         |               |
|------------|---------|---------------|
| 1. 中学校     | 2. 高等学校 | 3. 短大・高専・専門学校 |
| 4. 大学（4年制） | 5. 大学院  | 6. 知らない・分からない |

問 7 普段、次のような方たちとのコミュニケーションを、どの程度とっていますか。あてはまる番号を、**それぞれ1つずつ**選んで下さい。

|          |              | ほぼ毎日 | 週に3日以上 | 週に1日程度 | 月に1日以上 | 月に1日未満 | 父・母<br>はいない | 持っていない<br>・使わない |
|----------|--------------|------|--------|--------|--------|--------|-------------|-----------------|
| 直接       | a. お父さんとの会話  | 1    | 2      | 3      | 4      | 5      | 6           | ※               |
|          | b. お母さんとの会話  | 1    | 2      | 3      | 4      | 5      | 6           | ※               |
|          | c. 友人・知人との会話 | 1    | 2      | 3      | 4      | 5      | ※           | ※               |
| 電話<br>携帯 | d. お父さんとの会話  | 1    | 2      | 3      | 4      | 5      | 6           | 7               |
|          | e. お母さんとの会話  | 1    | 2      | 3      | 4      | 5      | 6           | 7               |
|          | f. 友人・知人との会話 | 1    | 2      | 3      | 4      | 5      | ※           | 7               |
| メール      | g. お父さんとの会話  | 1    | 2      | 3      | 4      | 5      | 6           | 7               |
|          | h. お母さんとの会話  | 1    | 2      | 3      | 4      | 5      | 6           | 7               |
|          | i. 友人・知人との会話 | 1    | 2      | 3      | 4      | 5      | ※           | 7               |

問 8 希望する職業の有無についてうかがいます。あてはまる番号を、**それぞれ1つずつ**選んで下さい。

|    |                       | (ある)<br>あった | (ない)<br>なかった |
|----|-----------------------|-------------|--------------|
| a. | 中学1年生の時、希望する職業はありましたか | 1           | 2            |
| b. | 中学3年生の時、希望する職業はありましたか | 1           | 2            |
| c. | 現在、希望する職業はありますか       | 1           | 2            |

【いずれかの時点で、希望する職業はあると答えた方にうかがいます。問 8a～c のすべて「なかった（ない）」を選んだ方は、問 9 へお進み下さい】

付問 8-1 なぜ、その職業を希望するようになりましたか。きっかけがあれば、具体的にお答え下さい。

|  |
|--|
|  |
|--|

問 9 あなた自身のことについてうかがいます。あてはまる番号を、それぞれ1つずつ選んで下さい。

|                                | そう思う | どちらかと<br>いえば、そう思う | どちらかといえ<br>ば、そう思わ<br>ない | そう思わ<br>ない |
|--------------------------------|------|-------------------|-------------------------|------------|
| a. 勉強には熱心である                   | 1    | 2                 | 3                       | 4          |
| b. 友だちづきあいは多い方である              | 1    | 2                 | 3                       | 4          |
| c. 地域の行事にはよく参加する               | 1    | 2                 | 3                       | 4          |
| d. 学校生活を楽しんでいる                 | 1    | 2                 | 3                       | 4          |
| e. 日常的なあいさつをする                 | 1    | 2                 | 3                       | 4          |
| f. 人との約束を守る                    | 1    | 2                 | 3                       | 4          |
| g. 何となく学校へ行くのが「いやだなあ」と感じることもある | 1    | 2                 | 3                       | 4          |
| h. 将来のこと（進路・職業）についてよく考える       | 1    | 2                 | 3                       | 4          |
| i. きちんとした言葉づかいをする              | 1    | 2                 | 3                       | 4          |
| j. 地域の人との関わりは多いほうである           | 1    | 2                 | 3                       | 4          |
| k. 学校の先生との関わりは多いほうである          | 1    | 2                 | 3                       | 4          |

問 10 次の特徴のおおのについて、あなた自身にどの程度あてはまるかをお答えください。他からどう見られているかではなく、あなたが、あなた自身をどのように思っているか、あてはまる番号を、それぞれ1つずつ選んで下さい。

|               | あてはまる | ややあてはまる | どちらともいえない | ややあてはまらない | あてはまらない |
|---------------|-------|---------|-----------|-----------|---------|
| a. 社交能力に自信がある | 1     | 2       | 3         | 4         | 5       |

|    |                    |   |   |   |   |   |
|----|--------------------|---|---|---|---|---|
| b. | 交際範囲が広い            | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| c. | 同年配の異性と楽しく話しができる   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| d. | 異性の誘い方がうまい         | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| e. | 人に対して思いやりがある       | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| f. | 人に対して寛大である         | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| g. | おおらかな人柄である         | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| h. | 自分の生き方に自信がある       | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| i. | 個性的な生き方をしている       | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| j. | 自分に自信がある           | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| k. | きちょうめんな性格である       | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| l. | 自分に厳しい             | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| m. | 責任感が強い             | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| n. | 知的能力に自信がある         | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| o. | 人よりいろいろなことを知っている   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| p. | 頭の回転が速い            | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| q. | 目鼻立ちが整っている         | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| r. | 自分の外見に自信がある        | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| s. | 自分の顔に気に入っているところがある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| t. | 趣味・特技に自信がある        | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| u. | 特技がある              | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| v. | 熱中している趣味がある        | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

問 11 あなたには、**悩み事などを相談できる友人**は、何人おられますか。また、そのうち異性の友人は何人ですか。人数をご記入下さい。

友人  人      そのうち、  
異性の友人  人

問 12 次のような意見について、あなたはそう思いますか、それともそうは思いませんか。あてはまる番号を、**それぞれ1つずつ**選んで下さい。

|    |                             |      |                   |                 |        |
|----|-----------------------------|------|-------------------|-----------------|--------|
|    |                             | そう思う | どちらかと<br>いえば、そう思う | どちらかと<br>そう思わない | そう思わない |
| a. | 仕事以外に自分の生きがいを持ちたい           | 1    | 2                 | 3               | 4      |
| b. | 若いうちは1つの仕事に留まらず、いろいろな経験をしたい | 1    | 2                 | 3               | 4      |
| c. | 専門的な知識や技術をみがきたい             | 1    | 2                 | 3               | 4      |
| d. | 人より高い収入を得たい                 | 1    | 2                 | 3               | 4      |

|    |  |   |   |   |   |
|----|--|---|---|---|---|
| e. | 有名になりたい                                  | 1 | 2 | 3 | 4 |
| f. | 人の役に立つ仕事をしたい                             | 1 | 2 | 3 | 4 |
| g. | いろいろな人と出会いたい                             | 1 | 2 | 3 | 4 |
| h. | あまりがんばって働かず、のんびり暮らしたい                    | 1 | 2 | 3 | 4 |
| i. | 自分にあわない仕事ならしたくない                         | 1 | 2 | 3 | 4 |
| j. | 将来の仕事については考えていない                         | 1 | 2 | 3 | 4 |
| k. | 家族との時間を大切にしたい                            | 1 | 2 | 3 | 4 |
| l. | 海外で活躍したい                                 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| m. | 地元から離れたくない                               | 1 | 2 | 3 | 4 |
| n. | 仕事はしたくない                                 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| o. | 正社員にはなりたくない                              | 1 | 2 | 3 | 4 |
| p. | アルバイトでも何とか暮らしていける                        | 1 | 2 | 3 | 4 |
| q. | 権威のある人々にはつねに敬意をはらわなければならない               | 1 | 2 | 3 | 4 |
| r. | 以前からなされていたやり方を守ることが、最上の結果を生む             | 1 | 2 | 3 | 4 |
| s. | 伝統や慣習にしたがったやり方に疑問を持つ人は、結局は問題をひきおこすことになる  | 1 | 2 | 3 | 4 |
| t. | 複雑な世の中で何をなすべきかを知る一番よい方法は、指導者や専門家に頼ることである | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 13 あなたはアルバイトを経験したことがありますか。あてはまる番号に○をつけて下さい（○は1つだけ）。

|       |       |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

【アルバイトの経験がある方にうかがいます。経験のない方は、問 14 へお進み下さい】

付問 13-1 アルバイト先を選ぶ時、どのような条件を重視しましたか。もっともあてはまる番号に○をつけて下さい（○は1つだけ）。複数のアルバイト経験がある場合は、もっとも最近のものについてお答え下さい。

|                |              |
|----------------|--------------|
| 1. 時給がいい       | 2. 勤務地が近い    |
| 3. 将来の職業に役立つ   | 4. 友人がいる     |
| 5. 勤務日時が自由に選べる | 6. 職場の雰囲気が良い |
| 7. その他（        | ）            |

付問 13-2 アルバイトは、どのくらいの頻度でされています（されていきました）か。一週間の日数をご記入下さい。

週に  日

付問 13-3 アルバイトをされている（されていた）期間は、何年何ヶ月くらいになりますか。これまでに経験された期間を合計して、ご記入下さい。

年  ヶ月

問 14 次のような意見について、あなたはそう思いますか、それともそうは思いませんか。あてはまる番号を、それぞれ1つずつ選んで下さい。

|  | そう思う | どちらかと<br>いえば、そう思う | どちらかといえ<br>ば、そう思わ<br>ない | そう思わ<br>ない |
|--|------|-------------------|-------------------------|------------|
| a. 何か計画するときには、その計画が必ず実現できると思う            | 1    | 2                 | 3                       | 4          |
| b. しなければならないことがあるのに、なかなかとりかかれない          | 1    | 2                 | 3                       | 4          |
| c. 失敗しても、最後までやりとげることができる                 | 1    | 2                 | 3                       | 4          |
| d. 大切な目標があっても、なかなか実行できない                 | 1    | 2                 | 3                       | 4          |
| e. 最後までやりとげる前に、あきらめてしまうことが多い             | 1    | 2                 | 3                       | 4          |
| f. めんどいなことでも、しなければならないことなら、やりとげるまでがんばる   | 1    | 2                 | 3                       | 4          |
| g. 何かしようと思つくと、すぐにそれにとりかかる                | 1    | 2                 | 3                       | 4          |
| h. 新しく勉強しようとするのがむずかしそうにみえると、はじめからやろうとしない | 1    | 2                 | 3                       | 4          |
| i. 失敗すると、よけいにやる気がおきる                     | 1    | 2                 | 3                       | 4          |
| j. 物事がやりとげられるかどうか、心配である                  | 1    | 2                 | 3                       | 4          |
| k. 他人には頼りたくない                            | 1    | 2                 | 3                       | 4          |

問 15 あなたは生活全般について満足していますか。それとも不満ですか。あてはまる番号に○をつけて下さい (○は1つだけ)。

|              |                   |
|--------------|-------------------|
| 1. 満足している    | 2. どちらかといえば満足している |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば不満である  |
| 5. 不満である     |                   |

問 16 かりに現在の日本社会を次のような5つの層にわけるとすれば、あなた自身はこのどれに入ると思われますか。あてはまる番号に○をつけて下さい (○は1つだけ)。

|      |        |        |        |        |
|------|--------|--------|--------|--------|
| 1. 上 | 2. 中の上 | 3. 中の下 | 4. 下の上 | 5. 下の下 |
|------|--------|--------|--------|--------|

問 17 結婚や家族のことについてうかがいます。あてはまる番号を、それぞれ1つずつ選んで下さい。

|   | そう思う | どちらかと<br>いえば、そう思う | どちらかといえは、<br>そう思わない | そう思わない |
|---|------|-------------------|---------------------|--------|
| a. 結婚している人の方が、結婚していない人よりだいたい幸せだ           | 1    | 2                 | 3                   | 4      |
| b. 結婚のいい点は、経済的に安定することだ                    | 1    | 2                 | 3                   | 4      |
| c. 今日、人々が結婚するのは、主に子どもをつくるためだ              | 1    | 2                 | 3                   | 4      |
| d. ひとり親でも、両親がそろっている家庭と同じように、子どもを育てることができる | 1    | 2                 | 3                   | 4      |
| e. 結婚しようと思っている男女は、結婚前にまず同居するのがよい          | 1    | 2                 | 3                   | 4      |
| f. 結婚生活がうまくいかなかったら、たいていは離婚するのが一番よい        | 1    | 2                 | 3                   | 4      |
| g. 結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない                  | 1    | 2                 | 3                   | 4      |
| h. 子どもがいれば夫婦の仲がたとえ悪くなくても、別れるべきではない        | 1    | 2                 | 3                   | 4      |
| i. 生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない             | 1    | 2                 | 3                   | 4      |
| j. 男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである                    | 1    | 2                 | 3                   | 4      |
| k. 結婚前の男女でも愛情があるなら性交渉を持ってかまわない            | 1    | 2                 | 3                   | 4      |
| l. 結婚しても、人生には結婚相手や家族とは別の自分だけの目標を持つべきである   | 1    | 2                 | 3                   | 4      |
| m. 結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ    | 1    | 2                 | 3                   | 4      |
| n. 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ                 | 1    | 2                 | 3                   | 4      |
| o. 結婚したら、子どもは持つべきだ                        | 1    | 2                 | 3                   | 4      |
| p. 恋愛と結婚は別である                             | 1    | 2                 | 3                   | 4      |
| q. 就学前の子どもは、母親が働きに出ると傷つきやすい               | 1    | 2                 | 3                   | 4      |
| r. 夫に十分な収入がある場合には、女性は仕事を持たないほうがよい         | 1    | 2                 | 3                   | 4      |
| s. 妻にとっては、自分の仕事を持つよりも、夫の手助けをする方が大切である     | 1    | 2                 | 3                   | 4      |
| t. 家庭の維持費は夫も妻もともに稼ぎだすべきだ                  | 1    | 2                 | 3                   | 4      |

兵庫県では、小学5年生を対象とする「自然学校」、中学2年生対象の「トライやる・ウィーク」という2つの体験学習がおこなわれています。「自然学校」は自然や人、地域社会とふれあう5泊6日の宿泊体験学習です。

「トライやる・ウィーク」は、1週間（5日間）、職場体験や文化・芸術活動、ボランティア活動をおこなうもので、1998年に始まり、その後、他府県でも同様の体験学習がおこなわれています。

以上のことを踏まえて、以下の問いにお答え下さい。



問 22 「トライやる・ウィーク」で選ぶことができる活動の種類について、どのように思いましたか。あてはまる番号に○をつけて下さい（○は1つだけ）。

|                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1. 多いと思った          | 3. どちらかといえば多いと思った |
| 2. どちらかといえば少ないと思った | 4. 少ないと思った        |

問 23 活動場所の希望先を決定するとき、どなたかに相談しましたか。あてはまる番号すべてに○をつけて下さい。

|               |               |
|---------------|---------------|
| 1. 誰にも相談しなかった | 2. 父親に相談した    |
| 3. 母親に相談した    | 4. きょうだいに相談した |
| 5. 友達に相談した    | 6. 先輩に相談した    |
| 7. その他（       | ）             |

問 24 あなたが中学校2年生のとき、1クラスの人数は何人でしたか。また、1学年のクラス数はいくつでしたか

1クラス  人 クラス数  クラス

問 25 現在から振り返ってみて、「トライやる・ウィーク」について、あなたがどう思うか、あてはまる番号を、それぞれ1つずつ選んで下さい。

|                           | そう思う | どちらかといえば、そう思う | どちらかといえは、そう思わない | そう思わない |
|---------------------------|------|---------------|-----------------|--------|
| a. 貴重な体験だった               | 1    | 2             | 3               | 4      |
| b. 体験中に、感動することがあった        | 1    | 2             | 3               | 4      |
| c. 学校では学べないことが経験出来た       | 1    | 2             | 3               | 4      |
| d. 自分が受け入れられた感じがした        | 1    | 2             | 3               | 4      |
| e. 学校とは違い、自由な感じがした        | 1    | 2             | 3               | 4      |
| f. 授業がなくてうれしかった           | 1    | 2             | 3               | 4      |
| g. クラブがなくてうれしかった          | 1    | 2             | 3               | 4      |
| h. 受入先での活動内容には満足した        | 1    | 2             | 3               | 4      |
| i. 体験中、自分から主体的に行動することが出来た | 1    | 2             | 3               | 4      |
| j. 後輩の中学生たちにも体験をすすめたい     | 1    | 2             | 3               | 4      |
| k. 将来、自分の子どもたちにも体験して欲しい   | 1    | 2             | 3               | 4      |
| l. 仕事に偏見を持っていたことが分かった     | 1    | 2             | 3               | 4      |
| m. 当時の体験が、その後の進路選択に影響を与えた | 1    | 2             | 3               | 4      |

|    |                                       |   |   |   |   |
|----|---------------------------------------|---|---|---|---|
| n. | 自分が参加したことで、受入先の人たちにとってプラスになった         | 1 | 2 | 3 | 4 |
| o. | 違う行き先を選べば良かった                         | 1 | 2 | 3 | 4 |
| p. | お金を稼ぐことの大変さが分かった                      | 1 | 2 | 3 | 4 |
| q. | 人付き合いの大切さが分かった                        | 1 | 2 | 3 | 4 |
| r. | 友人・知人の数が増えた                           | 1 | 2 | 3 | 4 |
| s. | 受入先の人とたくさんコミュニケーションがとれた               | 1 | 2 | 3 | 4 |
| t. | 「トライやる・ウィーク」をきっかけに知り合った人たちと、今も付き合いがある | 1 | 2 | 3 | 4 |
| u. | お父さんとの会話が増えた                          | 1 | 2 | 3 | 4 |
| v. | お母さんとの会話が増えた                          | 1 | 2 | 3 | 4 |
| w. | 学校の先生との会話が増えた                         | 1 | 2 | 3 | 4 |
| x. | 楽しい体験だった                              | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 26 現在から振り返ってみて、「トライやる・ウィーク」を経験したことで、「良かった」もしくは「良くなかった」と感じる点があれば、ご自由にお書き下さい。

問 27 今後、「トライやる・ウィーク」を充実させるために、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号を、**それぞれ1つずつ**選んで下さい。

|    |                        |      |                   |                     |        |
|----|------------------------|------|-------------------|---------------------|--------|
|    |                        | そう思う | どちらかと<br>いえば、そう思う | どちらかといえば、<br>そう思わない | そう思わない |
| a. | 子どもの第1希望の場所で活動出来るようにする | 1    | 2                 | 3                   | 4      |
| b. | 受入先の種類を増やす             | 1    | 2                 | 3                   | 4      |
| c. | 学校の先生からの事前指導を充実させる     | 1    | 2                 | 3                   | 4      |
| d. | 子ども自身が主体的に動けるよう支援する    | 1    | 2                 | 3                   | 4      |
| e. | 受入先の人とのコミュニケーションを充実させる | 1    | 2                 | 3                   | 4      |

|    |                      |   |   |   |   |
|----|----------------------|---|---|---|---|
| f. | 保護者とのコミュニケーションを充実させる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| g. | 子ども自身が意欲を持って活動に取り組む  | 1 | 2 | 3 | 4 |
| h. | 少々辛くても、普段通りの仕事を体験させる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| i. | 体験後、感想文を書かせる         | 1 | 2 | 3 | 4 |
| j. | 体験後、発表会で報告させる        | 1 | 2 | 3 | 4 |
| k. | 「トライやる・ウィーク」の期間を伸ばす  | 1 | 2 | 3 | 4 |
| l. | 「トライやる・ウィーク」の回数を増やす  | 1 | 2 | 3 | 4 |

**「トライやる・ウィーク」のみに参加した方への質問はここで終わりです。**  
**ご記入が終わりましたら、もう一度、記入まちがいや**  
**記入もれがないかどうかお確かめ下さい。**  
**ご協力いただき、ありがとうございました。**

**問 28** 「自然学校」について、あなたはどのように思いますか。あてはまる番号を、**それぞれ1つずつ**選んで下さい。

|    |                             |  |   |   |   |
|----|-----------------------------|--|---|---|---|
|    |                             | そう思う<br>いえ、そう思う<br>どちらかと<br>そう思わない<br>どちらかといえ、<br>そう思わない<br>そう思わない |   |   |   |
| a. | 自分にとって良い体験だった               | 1  | 2 | 3 | 4 |
| b. | 後輩の小学生たちに「自然学校」の体験をすすめたい    | 1  | 2 | 3 | 4 |
| c. | 学校では学べないことが経験出来た            | 1  | 2 | 3 | 4 |
| d. | 「自然学校」体験中に、感動することがあった       | 1  | 2 | 3 | 4 |
| e. | 学校とは違い、自由な感じがした             | 1  | 2 | 3 | 4 |
| f. | 「自然学校」に参加して、自分の考えや行動に影響があった | 1  | 2 | 3 | 4 |
| g. | 体験中、自分から主体的に行動することが出来た      | 1  | 2 | 3 | 4 |
| h. | 友だちの普段とは違った側面を知ることが出来た      | 1  | 2 | 3 | 4 |
| i. | ボランティアの大学生と十分コミュニケーションがとれた  | 1  | 2 | 3 | 4 |

**以上でアンケートは終わりです。**  
**ご記入が終わりましたら、もう一度、記入まちがいや**  
**記入もれがないかどうかお確かめ下さい。**

**ご協力いただき、ありがとうございました。**

自然学校、トライやる・ウィーク等  
兵庫型体験学習の効果、評価の分析  
調査研究報告書

---

◆発行 (財)ひょうご震災記念 21 世紀研究機構  
少子・家庭政策研究所

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2 ひと未来館 6 階  
TEL : 078-262-5579 FAX : 078-262-5593  
<http://www.hemri21.jp/kenkyusyo/index.html>

平成 20 年 3 月

---

